元総社蒼海遺跡群

元総社小見内Ⅷ遺跡
総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団

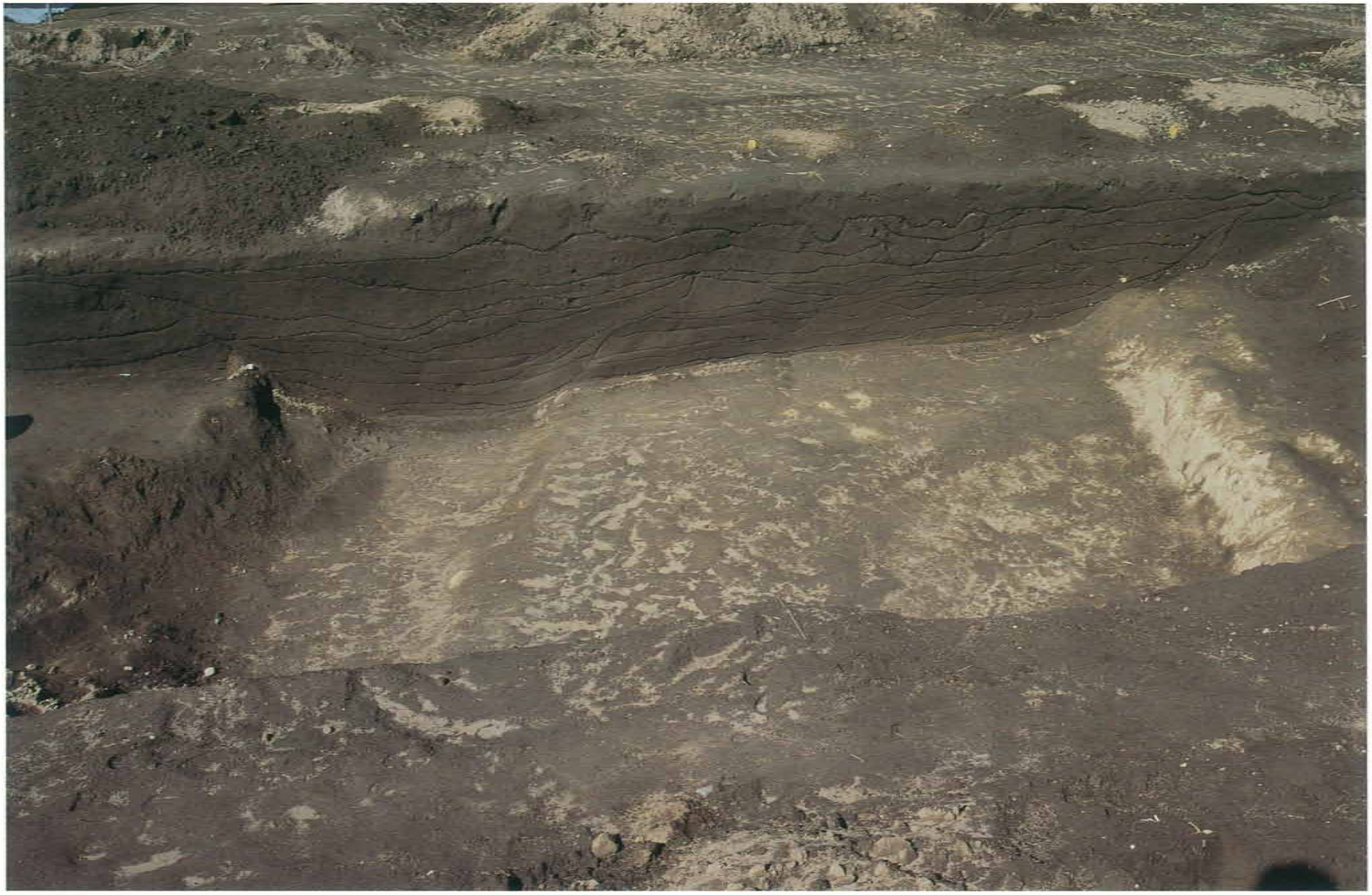
元総社蒼海遺跡群

元総社小見内Ⅷ遺跡
総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡

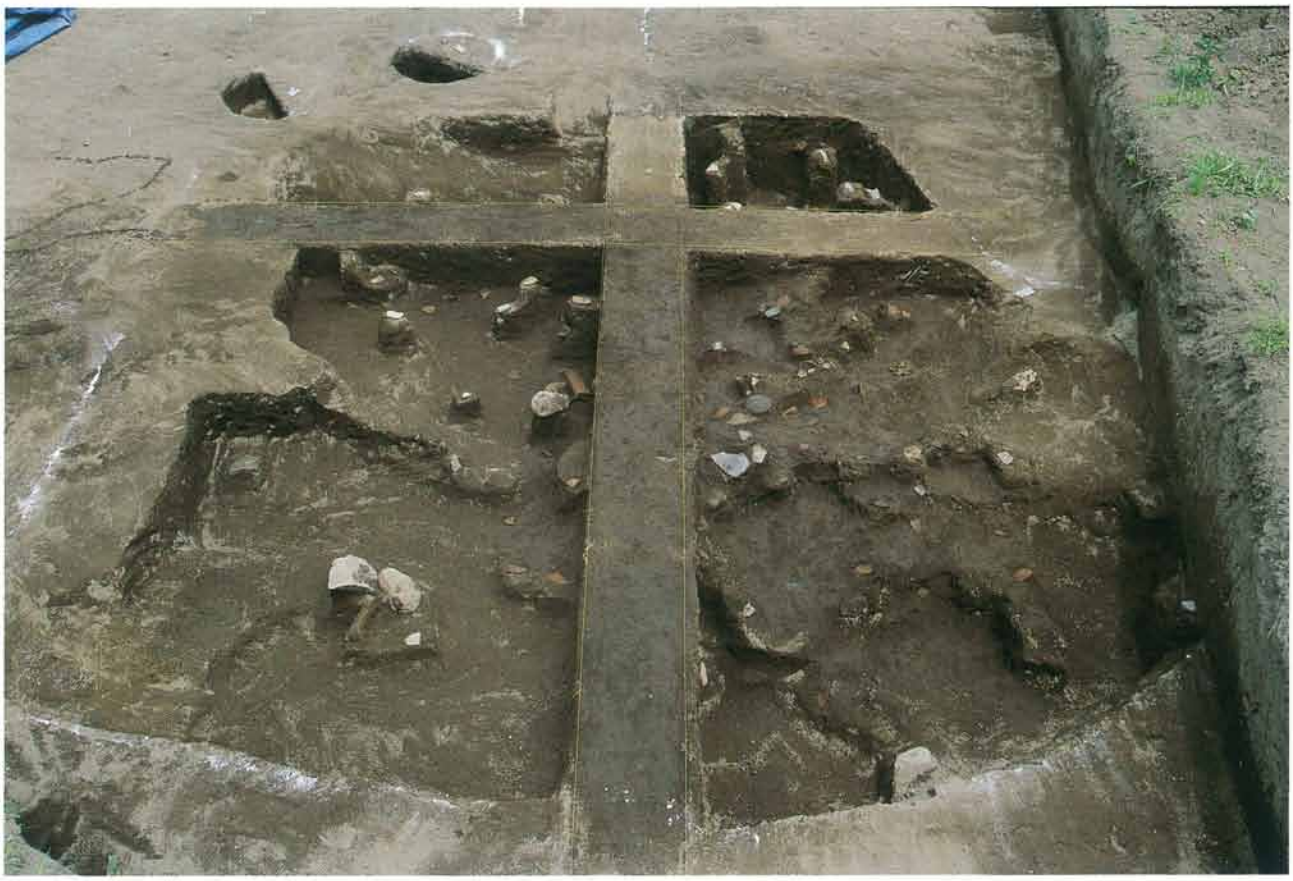
前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2003

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



1　元総社小見内Ⅲ遺跡Ｂ区　W-２・３号溝跡全景及びセクション（東から）



2　元総社小見内Ⅷ遺跡Ａ区　Ｈ-5号住居跡遺物出土状況（南から）

3　元総社小見内Ⅷ遺跡Ａ区　Ｈ-5号住居跡出土の遺物

序

前橋市は、雄大な裾野を広げる赤城山を背景に、坂東太郎として名高い利根川や詩情豊かな広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情にあふれた美しい県都です。

前橋市域の赤城山南麓と前橋台地上には、旧石器時代から近世・近代に至るまで、人々の生活の痕跡を示す遺跡・遺物が数多く存在します。特に古墳においては、かつて市域には800余基の存在が伝えられています。その中には大室４古墳をはじめ国指定史跡となっている古墳も９基含まれ、東国古墳文化の中心として位置づけられてきました。また、続く律令政治の時代に入ると、山王廃寺、上野国府、上野国分僧寺、上野国分尼寺の存在が示すとおり政治、宗教、経済の中心地として花開き一大文化圏が形成されました。さらに中世においては、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東４名城の一つに数えられる前橋城が築かれました。まさに、前橋市はこれまで連綿と続いてきた歴史を物語る様々な文化財で溢れています。

今年度調査を行いました元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡は、前橋市の西部、推定国府域の北西と北東に位置します。元総社小見内Ⅷ遺跡では、土師器坏をたくさん出土した竪穴住居跡や、推定国府域と推定国分尼寺の間に存在する大きな溝跡が検出され、総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡では、古墳時代後期の畠跡が検出されました。今回の調査では、推定国府域周辺部の律令期以前、律令期、律令期後の様子を知るうえで貴重な資料を得ることができました。

最後に、本発掘調査実施にあたりご理解とご協力を賜りました市関係部局、地元関係者の方々、また、調査に従事されました作業員の皆様に感謝とお礼を申し上げます。本報告書が市史究明の一助となることを祈念し、序といたします。

平成16年３月

前橋市埋蔵文化財発掘調査団
団　長　　阿　部　明　雄

例　　言

1．本報告書は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社小見内Ⅷ遺跡・総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡発掘調査報告書である。
2．調査主体は、前橋市埋蔵文化財発掘調査団である。
3．発掘調査の要項は次のとおりである。

調　査　場　所	群馬県前橋市元総社町地内
発掘調査期間	平成15年５月19日～平成15年11月14日
整理・報告書作成期間	平成15年11月15日～平成16年３月25日
発掘・整理担当者	近藤雅順・稲垣慎太郎（発掘調査係員）

4．本書の原稿執筆・編集は近藤・稲垣が行った。
5．発掘調査・整理作業にかかわった方々は次のとおりである。
石井春江・遠藤たか美・後藤進一・佐藤佳子・下境　弥・下境米治・鈴木民江・冨岡和子・冨澤理恵
内藤　旭・内藤よし・中島利夫・中山　昭・西山勝久・西山光彩・萩原和子・原田要三・峰岸あや子
6．発掘調査で出土した遺物は、当発掘調査団より前橋市教育委員会に保管を依頼し、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1．挿図中に使用した北は、座標北である。
2．挿図に国土地理院発行の１/200,000地形図（宇都宮、長野）、１/25,000地形図（前橋）、１/2,500前橋市現形図を使用した。
3．本発掘調査の略称は、次のとおりである。
元総社小見内Ⅷ遺跡：15Ａ120　　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡：15Ａ105
4．本遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
Ｈ…古墳・奈良・平安時代の竪穴住居跡　　Ｔ…竪穴状遺構　　Ｗ…溝跡　　Ａ…道路状遺構
Ｉ…井戸跡　　Ｄ…土坑　　Ｐ…ピット
5．遺構・遺物の実測図の縮尺は、次のとおりである。
遺構　　全体図…１/200・１/400　住居跡・竪穴状遺構・溝跡・道路状遺構・井戸跡・土坑・ピット…１/60
竈…１/30
遺物　　土器…１/３　鉄器・鉄製品…１/２　砥石…１/３　瓦…１/５
6．計測値については、（　　）は現存値、［　　］は復元値を表す。
7．セクション注記の記号は、締まり・粘性の順で示す。
◎は締まり・粘性非常にあり、○は締まり・粘性あり、△は締まり・粘性ややあり、×は締まり・粘性なしを表す。
8．遺構平面図の┈┈┈は推定線、―――――――は切られるが存在する面を表す。
9．遺構平面図の●は土器の出土場所を表す。
10．スクリーントーンの使用は、次のとおりである。

遺構断面図	構　築　面…		
遺物実測図	須恵器断面…	粘土付着…	
	緑・灰釉陶器断面…	緑・灰釉陶器表面…	
	スス付着…		

11．火山降下物の略称と年代は次のとおりである。
As-B　（浅間Ｂテフラ：供給火山＝浅間山、1108年）
Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：供給火山＝榛名山、６世紀中葉）
Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：供給火山＝榛名山、６世紀初頭）
As-C　（浅間Ｃ軽石：供給火山＝浅間山、４世紀前半～中葉）

目　　次

序 …… i

I 調査に至る経緯 …… 1

II 遺跡の位置と環境
1 遺跡の立地 …… 1
2 歴史的環境 …… 1

III 調査方針と経過
1 調査方針 …… 7
2 調査経過 …… 7

IV 基本層序 …… 9

V 遺構と遺物（元総社小見内Ⅷ遺跡）
1 竪穴住居跡 …… 10
2 竪穴状遺構 …… 12
3 溝跡・道路状遺構 …… 12
4 土坑・ピット …… 13
5 グリッド等出土遺物 …… 13

VI 遺構と遺物（総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡）
1 畠跡 …… 14
2 溝跡・道路状遺構 …… 14
3 井戸跡・土坑・ピット …… 15
4 グリッド等出土遺物 …… 15

VII 考察 …… 21

図　版

口絵 1　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｂ区Ｗ－２・３号溝跡全景及びセクション（東から）
2　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ａ区Ｈ－５号住居跡遺物出土状況（南から）
3　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ａ区Ｈ－５号住居跡出土の遺物

PL. 1　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ａ区全景、Ｈ－１・２・４号住居跡
2　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－３号住居跡
3　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－５号住居跡
4　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－10・11・13号住居跡
5　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－14～16号住居跡
6　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－17号住居跡、Ｔ－１号竪穴状遺構、Ｗ－１～３号溝跡
7　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／二面目調査区全景
8　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／畠跡、Ｗ－５号溝跡、Ａ－１号道路状遺構　他
9　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－３・４号住居跡出土の遺物
10　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－５・６号住居跡出土の遺物
11　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－６～８・10・11・13号住居跡出土の遺物
12　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－13・14号住居跡出土の遺物
13　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－15～17号住居跡出土の遺物、鉄器・鉄製品
14　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦

挿　図

Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図
2　周辺遺跡図
3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図
4　元総社小見内Ⅷ遺跡Ａ区基本層序
5　元総社小見内Ⅷ遺跡Ｂ区基本層序
6　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡基本層序
7　元総社小見内Ⅷ遺跡／時期別の竪穴住居跡配置図
8　元総社小見内Ⅷ遺跡全体図
9　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－１・２・４・６号住居跡
10　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－３号住居跡
11　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－７・８号住居跡
12　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－５号住居跡
13　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－10～12号住居跡
14　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－13・15号住居跡
15　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－14号住居跡
16　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－16・17号住居跡、Ｔ－１号竪穴状遺構
17　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｗ－１号溝跡
18　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｗ－２・３号溝跡
19　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｗ－４・５号溝跡、Ｄ－１～６号土坑
20　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｄ－７～17号土坑、Ｐ－１～８号ピット
21　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡二面目全体図
22　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡一面目全体図
23　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／二面目畠跡、Ｗ－５号溝跡
24　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／Ｗ－２～４号溝跡、Ａ－１号道路状遺構
25　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／Ｉ－１号井戸跡、Ｄ－１～３号土坑、Ｐ－１～14号ピット
26　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／Ｐ－15～39号ピット
27　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－２・３号住居跡出土の遺物
28　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－４・５号住居跡出土の遺物
29　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－３～５号住居跡出土の遺物
30　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－11・13号住居跡出土の遺物
31　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－14号住居跡出土の遺物
32　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ｈ－10・15～17号住居跡出土の遺物
33　元総社小見内Ⅷ遺跡／鉄器・鉄製品・石製品
34　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(1)
35　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(2)
36　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(3)
37　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(4)
38　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(5)

表

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表
2　元総社小見内Ⅷ遺跡／竪穴住居跡一覧表
3　元総社小見内Ⅷ遺跡／溝跡・道路状遺構計測表
総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／溝跡・道路状遺構計測表
4　元総社小見内Ⅷ遺跡／土坑・ピット計測表
総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／井戸跡・土坑・ピット計測表
5　元総社小見内Ⅷ遺跡／土器観察表
6　元総社小見内Ⅷ遺跡／鉄器・鉄製品観察表
7　元総社小見内Ⅷ遺跡／石製品観察表
8　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦観察表
9　元総社小見内Ⅷ遺跡／時期別の遺構数
10　元総社小見内Ⅷ遺跡／Ⅱ期の竪穴住居跡の比較

I　調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、4年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年に渡って行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成15年4月9日付けで、前橋市長　萩　原　弥惣治より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄に対し、調査実施を通知し、調査団はこれを受諾した。平成15年5月7日、調査依頼者である前橋市長　萩　原　弥惣治と前橋市埋蔵文化財発掘調査団　団長　阿部明雄との間で、本発掘調査の委託契約を締結し、5月19日に現地での発掘調査を開始するに至った。

なお、遺跡名称「元総社小見内Ⅷ遺跡」(遺跡コード：15A120)、「総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡」(15A105)の「小見内」「甲稲荷塚大道西」は旧地籍の小字名を採用した。また、名称中のローマ数字は過年に実施した調査と区別するために付したものである。

II　遺跡の位置と環境

1　遺跡の立地

前橋市は、利根川が赤城・榛名の両火山の裾合を経て関東平野を望むところに位置し、地形・地質の特徴から、北東部の赤城火山斜面、南西部の前橋台地利根川右岸、南部から南西部にかけての前橋台地利根川左岸、東部の広瀬川低地帯の4つの地域に分けられる。

本遺跡の立地する前橋台地は、約24,000年前の浅間山爆発によって引き起こされた火山泥流堆積物とそれを被覆するローム層（水成）から成り立っている。台地の東部は広瀬川低地帯と直線的な崖で画されていて、台地の中央には現利根川が貫流している。現在の利根川の流路は中世以降のもので、旧利根川は現在の広瀬川流域と推定される。台地の西部には榛名山麓の相馬ヶ原扇状地が広がり、榛名山を源とする中小河川が利根川に向かって流下し、台地面を刻んで細長い微高地を作り上げている。総社・元総社付近の染谷川や牛池川は、微高地との比高3m～5mを測り、段丘崖上は高燥な台地で、桑畑を主とした畑地として利用されてきた。

本遺跡は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町（元総社小見内Ⅷ遺跡）・前橋市総社町総社（総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡）地内にそれぞれ所在している。南へ約1kmの所に上野国総社神社があり、西へ約1kmの所には関越自動車道が南北に走っている。さらに、遺跡地の南側には国道17号、主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に走り、東側には市道大友・石倉線が南北に走り、これらの幹線道路を中心にオフィスビルや大規模小売店が進出している。本遺跡はこれらの幹線道路から奥に入ったところに位置し、周囲には田畑が多い住宅地という静かで落ち着いた環境である。

2　歴史的環境

本遺跡地周辺には、古墳時代後期から終末までの上野地域と中央政権との関連をうかがわせる総社古墳群と山王廃寺、古代の中心地であった上野国府、さらに、中世には長尾氏により国府の堀割りを利用し築かれたとされる蒼海城があり、歴史的環境に優れている。周辺の埋蔵文化財発掘調査によって、これまで連綿と続いてきた歴史を物語る多くの新しい知見が集積されている。

縄文時代の遺跡としては、前期・中期の集落跡が検出された産業道路東・西遺跡や上野国分僧寺・尼寺中間地域が筆頭に挙げられ、縄文文化を考える上で重要な資料といえる。

弥生時代の調査例は少ない。当時の稲作の様子を示す水田・集落跡等が検出された日高遺跡、後期住居跡が検出された上野国分僧寺・尼寺中間地域や桜ヶ丘遺跡、下東西遺跡等に散見するだけである。

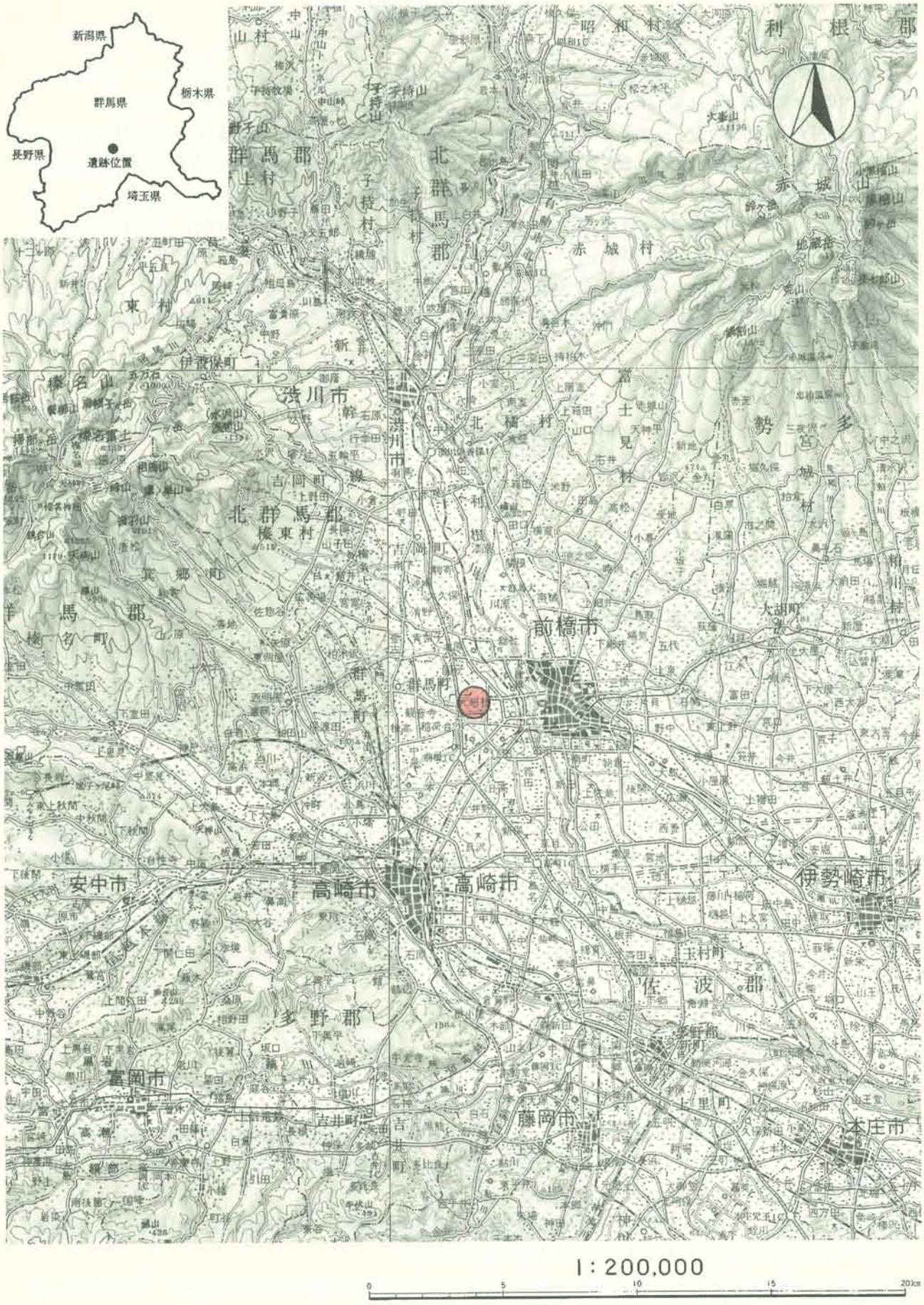


Fig. 1　元総社蒼海遺跡群位置図

古墳時代の遺跡としては、まず本遺跡のおもに北に広がる総社古墳群が挙げられる。総社古墳群を代表するものには、前方後円墳である遠見山古墳、川原石を用いた積石塚である王山古墳、前方部と後円部にそれぞれ石室をもつ二段に築造された前方後円墳の総社二子山古墳、横穴式石室をもつ方墳の愛宕山古墳、県内終末期と考えられ仏教文化の影響を強く受けた方墳の宝塔山古墳・蛇穴山古墳がある。また、宝塔山古墳の南西500mには白鳳期の建立と考えられる山王廃寺跡（放光寺）がある。さらにこの寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石等の石造物群は、宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術を駆使して加工されている。これらのことから、この寺は上野地域を治めていた「上毛野氏」の氏寺であり、この古墳群には「上毛野氏」一族が葬られているとも考えられている。これらから、この地が「車評」の中心地として、仏教文化が古墳文化と併存しながら機能していた様子が窺える。

奈良・平安時代に至ると、上野国府、国分僧寺、国分尼寺の建設と相まって、本地域は古代の政治的・経済的・文化的中心地としての様相を呈してくる。律令期における国司の政治活動の拠点で地方を統治する機能をもつ国府は、元総社地区に置かれたとされる。

国府に関連する遺跡には、県下最大級の掘立柱建物跡が検出された元総社小学校校庭遺跡や、「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」等と書かれた墨書土器や人形が出土した元総社寺田遺跡、律令期の掘立柱建物跡と考えられる柱穴が検出された元総社宅地遺跡がある。また、国府域の推定を可能にした大規模な東西方向の溝跡が検出された閑泉樋遺跡と南北方向の溝跡が検出された元総社明神遺跡の調査成果により、国府域の東外郭線が想定されるに至った。さらに近年では、元総社小見内III遺跡や元総社小見内IV遺跡から、国分尼寺の東南隅から国府の中心部に向かうと思われる溝跡が検出されたり、官人の用いたと考えられる円面硯、巡方（腰帯具）も出土し、国府について考えるうえで貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正15年に国指定史跡となり、昭和40年代からは部分的ながら調査が進められるようになった。本格的な発掘調査は昭和55年12月から始まり、主要伽藍の礎石、築垣、堀等が確認されている。さらに国分尼寺の調査では、昭和44・45年に推定中軸線上のトレンチ調査が行われ伽藍配置が推定できるようになった。さらに平成12年に前橋市埋蔵文化財発掘調査団で南辺の寺域確認調査を行い、東南隅と西南隅の築垣、それと平行する溝跡や道路状遺構が確認された。国分僧寺・尼寺周辺では、関越自動車道建設に伴う発掘調査が行われ、上野国分僧寺・尼寺中間地域では、当時の大規模な集落跡や掘建柱建物跡群が検出されている。

また、群馬町の調査等により、本遺跡から約1.5km南の地点にN－64°－E方向の東山道（国府ルート）があることが推定されている。また、推定日高道は、日高遺跡で検出された幅約4.5mの道路状遺構を国府方面へ延長したものである。これらは、当時の交通網を物語る重要な遺構である。

中世に至り、永享元年(1429)、上野国守護代の長尾氏によって古代国府跡に築かれた蒼海城は城郭としての機能を有し県内でも最古級に位置づけられる。しかも、県下最初の城下町を形成したと考えられている。蒼海城の縄張りは国府と関係が深く、現在の本地域の主要道路はこの縄張りに沿って作られていると推測される。

このように歴史的に重要な役割を果たしてきた総社・元総社地区であるが、その中でも上野国府が所在したと推定される元総社地区は注目される地域の一つである。元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、平成11年より継続的に本地域の発掘調査が行われていく。これにより、手つかず状態であった本地域の全容が明らかになっていくであろう。今後、この調査の進捗によって、上野国府や蒼海城が解明されていくことを期待する。

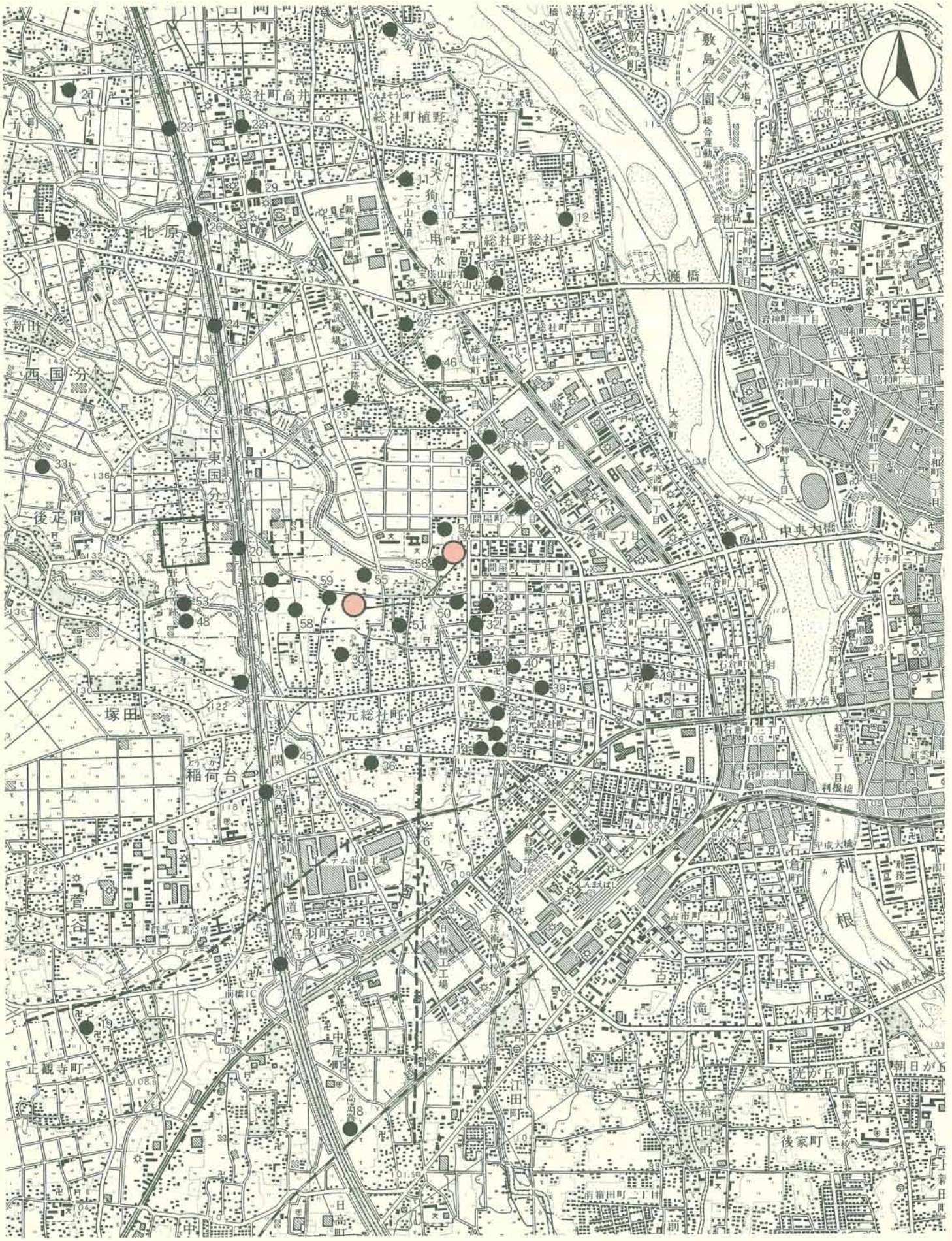

1:25,000
500m
0
500
1000
1500
総社町植野
総社町総社
大渡橋
中央大橋
群馬大橋
利根橋
東国分
西国分
後疋間
塚田
稲荷台
元総社町
総社町一丁目
総社町二丁目
大友町
石倉町
小相木町
後家町
敷島公園
敷島町
高井
北原
新田
中尾町
正観寺町
日高町
光が丘町
朝日が丘

Fig. 2　周辺遺跡図

Tab. 1　元総社蒼海遺跡群周辺遺跡概要一覧表　　※年代の（　）は調査開始年度。

番号	遺　跡　名	調査年度	時　代：主な遺構・出土遺物
1	元総社小見内Ⅷ遺跡 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2003	本　遺　跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980～1988	奈　　良：金堂基壇、塔基壇
3	上野国分尼寺跡	(1999)	奈　　良：西南隅・東南隅築垣
4	山王廃寺跡	(1974)	古　　墳：塔心礎、根巻石
5	東山道（推定）		
6	日高道（推定）		
7	王山古墳	1972	古　　墳：前方後円墳（６Ｃ中）
8	蛇穴山古墳	1975	古　　墳：方墳（８Ｃ初）
9	稲荷山古墳	1988	古　　墳：円墳（６Ｃ後半）
10	愛宕山古墳	1996	古　　墳：円墳（７Ｃ初）
11	総社二子山古墳	未　調　査	古　　墳：前方後円墳（６Ｃ末～７Ｃ初）
12	遠見山古墳	未　調　査	古　　墳：前方後円墳（５Ｃ後半）
13	宝塔山古墳	未　調　査	古　　墳：方墳（７Ｃ末）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平　　安：掘立柱建物跡、柱穴群、周濠跡
15	産業道路東遺跡	1966	縄　　文：住居跡
16	産業道路西遺跡		縄　　文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥　　生：水田跡、方形周溝墓、住居跡、木製農耕具 平　　安：条里制水田跡
19	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979～1981	弥　　生：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：溝跡
20	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980～1983	縄　　文：住居跡、配石遺構 弥　　生：住居跡、方形周溝墓 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡 中　　世：掘立柱建物跡、溝状遺構、道路状遺構
21	清里南部遺跡群　清里南部遺跡群Ⅲ	1980	縄　　文：ピット 奈良・平安：住居跡、溝跡
22	中島遺跡	1980	奈良・平安：住居跡
23	下東西遺跡（事業団）	1980～1984	縄　　文：屋外埋甕 弥　　生：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡、柵列 中　　世：住居跡、溝跡
24	国分境遺跡（事業団）	1990	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅱ遺跡	1991	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡
	国分境Ⅲ遺跡（群馬町）	1991	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、畠跡 中　　世：土坑墓
25	元総社明神遺跡　Ⅰ～XⅢ	1982～1996	古　　墳：住居跡、水田跡、堀跡 奈良・平安：住居跡、溝跡、大形人形 中　　世：住居跡、溝跡、天目茶碗
26	北原遺跡（群馬町）	1982	縄　　文：土坑、集石遺構 古　　墳：水田跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡
27	鳥羽遺跡（事業団）	1978～1983	古　　墳：住居跡、鍛冶場跡 奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡（神殿跡）
28	閑泉樋遺跡	1983	奈良・平安：溝跡（上幅6.5～７ｍ、下幅3.24ｍ、深さ２ｍ）
29	柿木遺跡	1983	奈良・平安：住居跡、溝跡
	柿木Ⅱ遺跡	1988	
30	草作遺跡	1984	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡 中　　世：井戸跡(蒼海城に伴う)
31	桜ヶ丘遺跡		弥　　生：住居跡
	総社桜ヶ丘遺跡	1985	平　　安：住居跡
	総社桜ヶ丘Ⅱ遺跡	1987	奈良・平安：住居跡
32	閑泉樋南遺跡	1985	古　　墳：住居跡（鬼高期） 奈良・平安：溝跡
33	後疋間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985～1987	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：道路状遺構
34	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平　　安：住居跡
35	寺田遺跡	1986	平　　安：溝跡、木製品
36	天神遺跡	1986	奈良・平安：住居跡
	天神Ⅱ遺跡	1988	
	天神遺跡	1986	
	天神Ⅱ遺跡	1988	
37	屋敷遺跡	1986	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡
	屋敷Ⅱ遺跡	1995	中　　世：堀跡、石敷遺構
38	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡、溝跡、地下式土坑

番号	遺　　跡　　名	調査年度	時　代：主な遺構・出土遺物
39	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡、溝跡
40	堰越II遺跡	1988	平　　安：住居跡
41	昌楽寺廻向遺跡・II遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	村東遺跡	1988	古　　墳：住居跡、溝跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：堀跡
43	熊野谷遺跡	1988	縄　　文：住居跡 平　　安：住居跡、溝跡
	熊野谷II・III遺跡	1989	平　　安：住居跡
44	元総社寺田遺跡I～III（事業団）	1988～1991	古　　墳：水田跡、溝跡 奈良・平安：住居跡、溝跡、人形、斎串、墨書土器 中　　世：溝跡
45	弥勒遺跡	1989	古　　墳：住居跡
	弥勒II遺跡	1995	平　　安：住居跡
46	大屋敷遺跡　I～VI	1992～2000	縄　　文：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：掘立柱建物跡、地下式土坑、溝跡
47	元総社稲葉遺跡	1993	縄　　文：土坑 平　　安：住居跡、瓦塔
48	上野国分寺参道遺跡	1996	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡
49	大友宅地添遺跡	1998	平　　安：水田跡
50	総社閑泉明神北遺跡	1999	古　　墳：畠跡、水田跡、溝 中　　世：溝跡
	総社閑泉明神北II遺跡	2001	古　　墳：住居跡、溝跡 平　　安：住居跡　溝跡
51	元総社宅地遺跡　1～23トレンチ	2000	古　　墳：住居跡 平　　安：住居跡、掘立柱建物跡、鍛冶場跡、溝跡、道路状遺構 中　　世：溝跡 近　　世：住居跡、（五輪塔の一部、椀類）
52	元総社小見遺跡	2000	縄　　文：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘建柱建物跡、溝跡、道路状遺構
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古　　墳：住居跡、畠跡 奈良・平安：住居跡、溝跡
54	総社甲稲荷塚大道西遺跡	2001	奈良・平安：住居跡、溝跡 中　　世：畠跡 近　　世：溝跡
	総社甲稲荷塚大道西II遺跡	2001	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、溝跡 近　　世：溝跡
55	元総社小見内III遺跡	2001	古　　墳：住居跡、溝跡 奈良・平安：住居跡、掘建柱建物跡、溝跡 中　　世：掘建柱建物跡、溝跡
56	総社甲稲荷塚大道西III遺跡	2002	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、畠跡、溝跡
	総社閑泉明神北III遺跡	2002	縄　　文：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡
57	元総社小見II遺跡	2002	縄　　文：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘建柱建物跡 中　　世：溝跡、道路状遺構
58	元総社小見III遺跡	2002	縄　　文：住居跡 古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、溝跡 中　　世：溝跡、道路状遺構
	元総社草作V遺跡	2002	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡 中　　世：溝跡
59	元総社小見内IV遺跡	2002	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、掘建柱建物跡、溝跡 中　　世：土坑墓、掘建柱建物跡、溝跡
60	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古　　墳：住居跡 奈良・平安：住居跡、溝跡、竈構築材採掘痕、井戸跡

Ⅲ　調査方針と経過

1　調査方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、元総社小見内Ⅷ遺跡が809m²（A区334m²・B区475m²）、総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡が490m²である。本調査に当たり、元総社小見内Ⅷ遺跡に関わる調査場所が2カ所に分かれているので、便宜的にそれぞれA区・B区の名称を付した。グリッドについては、4mピッチで西から東へX104、X105、X106…と、北から南へY53、Y54、Y55…と付番し、グリッドの呼称は北西杭の名称を使用した。

本遺跡のX139・Y140の公共座標は次のとおりである。

第　Ⅸ　系	X＝＋43794.907	Y＝－71935.759	（新座標）
	X＝＋43440.000	Y＝－71644.000	（旧座標）
緯　　度	36°23′31″．30456	経　　度	139°01′53″．17883
子午線収差角	28′32″．8	増　大　率	0.99996374

調査方法は、表土掘削・遺構確認・杭打ち・遺構掘下・遺構精査・測量・全景写真撮影の手順で行った。

図面作成は、平板・簡易遣り方測量を用い、遺構平面図は原則として1/20、住居跡竈は1/10の縮尺で作成した。遺物については平面分布図を作成し、台帳に各種記録をしながら収納した。包含層の遺物はグリッド単位で収納し、重要遺物については分布図・遺物台帳の記載を行い収納した。

2　調査経過

本調査は5月19日より元総社小見内Ⅷ遺跡A区の現地調査を開始した。A区は畑作地であるため耕作土と遺構面の土とを分ける必要があった。したがってまず、重機（バックフォー0.7m³）にて約30cm程現耕作土を掘削し1ヵ所に集めた。その後、更に約50cm程掘り下げ、As-C・Hr-FPを含む黒色土の面において遺構確認調査を行った。5月29日には杭打ち測量を行い遺構の掘り下げ・精査開始に至った。当初、A区は元総社小見内Ⅶ遺跡との平行調査となったため、やや繁雑になることがあったものの、調査はおおむね順調に進んだ。しかし、調査区北側のW－1号溝跡の土量が予想以上に多く、人力で処理するのに大変苦労した。精査の結果、竪穴住居跡8軒、溝跡1条、土坑4基、ピット3基を検出した。8月28日にハイライダー（24m）による調査区全景撮影を行い、9月1日には二面目調査を実施し、元総社小見内Ⅷ遺跡A区の現地調査を終了した。

続いて9月2日より元総社小見内Ⅷ遺跡B区の現地調査を開始した。B区も調査地が畑作地であるため、耕作土と遺構面の土とを分ける必要があったので、A区同様重機（バックフォー0.7m³）にて約30cm程現耕作土を掘削し、更に約50cm程掘り下げ、As-C・Hr-FPを含む黒色土の面において遺構確認調査を行った。9月8日に杭打ち測量を行い、9月10日から遺構の掘り下げ・精査を開始した。B区における調査もA区同様、溝跡に悩まされた。当初1条と思われた調査区北側の溝跡が2条の切り合いであったため、遺構の新旧関係の判断や、膨大な土量に大変苦労した。また、9月11日には前橋市立南橘中学校の2年生3名が職場体験学習のため当調査地を訪れ、発掘調査や出土遺物の説明を受けて、実際に遺構の掘り下げや精査等を行い、発掘調査を職とすることの楽しさや苦労を体験して帰校した。その後、9月30日にハイライダー（18m）による調査区全景撮影を行い、B区の一面目調査を終了した。

そして10月1日より総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡の現地調査を開始した。当調査地は、平成14年度に調査された総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡D区の北側の延長部分となる。調査前まで駐車場として使用されていたため、現表土（バラス）と遺構面の土とを分ける必要があった。そのため、重機（バックフォー0.4m³）にて約30cm程現表土を掘削し、その後約20cm程掘り下げ、As-B下の中世の遺構を確認した。10月14日からは一面目より更に約30cm程掘り下げ、Hr-FAを含む褐色土の面において二面目の調査を開始した。畠跡の耕作跡が3方向に渡って重複していたため、新旧関係の判断に手間取ったものの、その後の調査はおおむね順調に進んだ。精査の結果、畠跡2面、溝跡5条、道路状遺構1条、井戸跡1基、土坑3基、ピット39基を検出した。その後、11月4日にハイライダー（18m）による調査区全景撮影・三面目調査を行い、11月7日には調査地の埋め戻し作業を完了し、総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡の現地調査を終了した。

さらに、11月5日からは再び元総社小見内Ⅷ遺跡B区に戻り二面目調査を開始した。精査の結果、一面目・二面目調査合わせて、竪穴住居跡8軒、道路状遺構1条、溝跡4条、土坑13基、柱穴5基を検出し、11月28日に調査区の埋め戻し作業を完了し、元総社小見内Ⅷ遺跡B区の現地調査を終了した。

12月1日より文化財保護課庁舎に戻り、引き続き整理作業の他、遺物写真撮影等を行い3月25日にすべての業務を終了した。

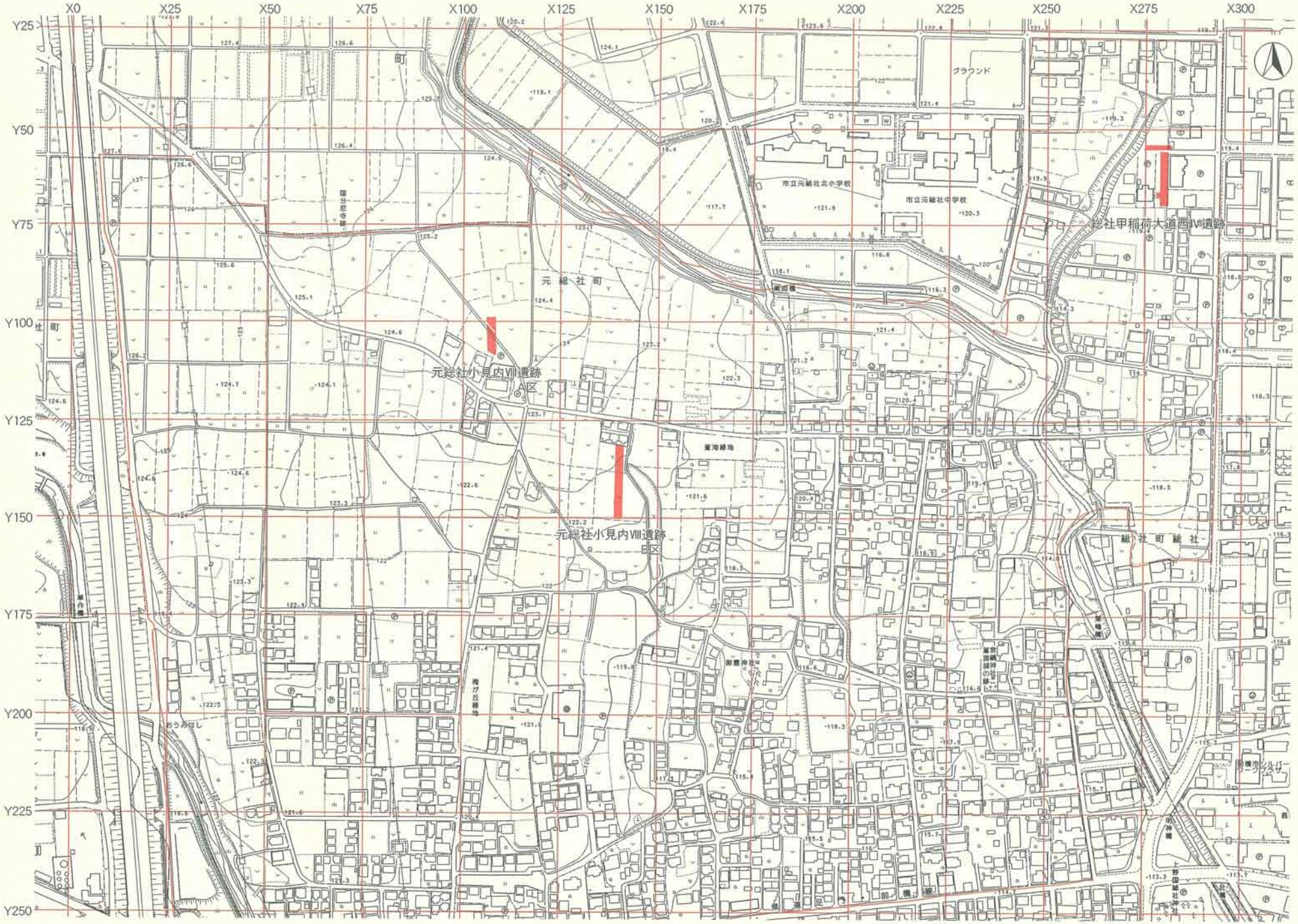


Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

Ⅳ　基本層序

本遺跡地内の地層の堆積は、下記のとおりである。

1　元総社小見内Ⅷ遺跡Ａ区基本層序

1　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層（10YR4/2）　締まり○　粘性×　As-B 含む
3　黒褐色粗砂層（10YR3/2）　締まり○　粘性×　As-B 混じる
4　暗褐色細砂層（10YR3/3）　締まり○　粘性○　Hr-FP・As-B 含む
5　暗褐色細砂層（10YR3/3）　締まり◎　粘性○　As-C 多く含む、Hr-FP 含む

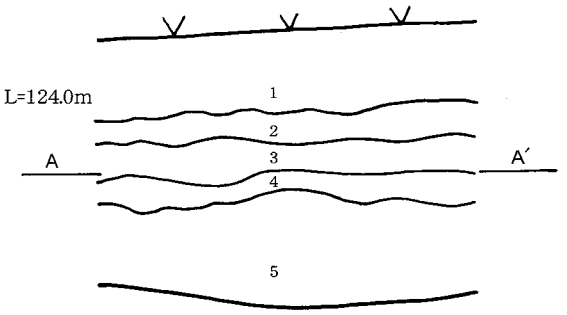


Fig. 4　元総社小見内Ⅷ遺跡Ａ区基本層序

2　元総社小見内Ⅷ遺跡Ｂ区基本層序

1　現耕作土
2　灰黄褐色細砂層（10YR4/2）　締まり○　粘性×　As-B 含む
3　灰黄褐色粗砂層（10YR4/2）　締まり△　粘性×　As-B 混じる
4　黒褐色細砂層（10YR3/2）　締まり○　粘性○　As-C・Hr-FP 含む
5　黒褐色細砂層（10YR3/1）　締まり○　粘性○　As-C 含む
6　黒褐色細砂層（10YR3/2）　締まり○　粘性○

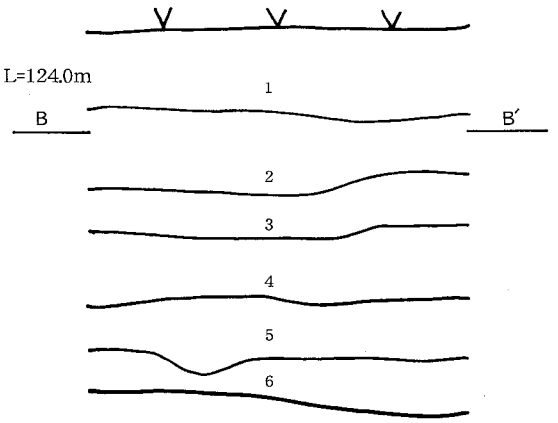


Fig. 5　元総社小見内Ⅷ遺跡Ｂ区基本層序

3　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡基本層序

1　現表土
2　暗赤褐色細砂層（5YR3/6）　締まり○　粘性○　鉄分凝結層
3　暗褐色細砂層（10YR3/3）　締まり○　粘性△　As-B 含む
4　黒褐色粗砂層（10YR2/3）　締まり△　粘性×　As-B 多く含む
5　暗褐色細砂層（10YR3/4）　締まり○　粘性○　Hr-FP 含む、As-C・Hr-FA 少なく含む
6　暗褐色細砂層（10YR3/4）　締まり○　粘性○　As-C・Hr-FA・Hr-FP 含む、Hr-FA 灰ブロック含む
7　黒褐色細砂層（10YR2/3）　締まり△　粘性◎　As-C 多く含む

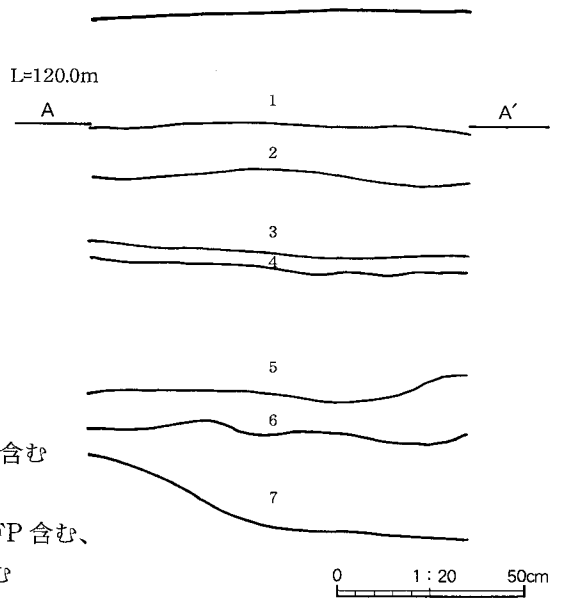


Fig. 6　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡基本層序

V　遺構と遺物（元総社小見内Ⅷ遺跡）

1　竪穴住居跡

（A区）

H－1号住居跡（Fig.9、PL.1）
位置　X106、Y98グリッド　**主軸方向**（N－91°－E）　**形状等**　方形と推測される。東西(0.88)m、南北(2.25)m、壁現高36cmを測る。　**面積**（1.43）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**出土遺物**　総数62点。　**備考**　時期は埋土にAs-Bを含まないので、As-B降下以前と考えられる。

H－2号住居跡（Fig.9、PL.1）
位置　X104・105、Y101・102グリッド　**主軸方向**（N－102°－E）　**形状等**　方形と推定される。東西（3.19）m、南北（2.50）m、壁現高94.5cmを測る。　**面積**（4.02）m²　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な床面。　**竈**　検出されず。　**出土遺物**　総数254点。そのうち、蓋1点、坏1点、刀子1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から9世紀前半と考えられる。

H－3号住居跡（Fig.10、PL.2）
位置　X105・106、Y103・104グリッド　**主軸方向**　N－57°－E　**形状等**　長方形。東西6.12m、南北5.23m、壁現高65.5cmを測る。　**面積**　26.90m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向がN－57°－Eであり、全長124cm、最大幅140cm、焚口部幅46cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　H－6・7・8と重複しており、新旧関係は本遺構→H－8、H－6→H－7の順である。　**出土遺物**　総数2693点。そのうち、坏8点、蓋3点、台付盤1点、長頸壺1点、長胴甕1点、鉄釘1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H－4号住居跡（Fig.9、PL.1）
位置　X106、Y104・105グリッド　**主軸方向**（N－92°－E）　**形状等**　方形と推定される。東西（2.66）m、南北（3.66）m、壁現高65.5cmを測る。　**面積**（8.27）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－6と重複しており、新旧関係は本遺構→H－6の順である。　**出土遺物**　総数464点。そのうち、坏2点、蓋1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から8世紀後半と考えられる。

H－5号住居跡（Fig.12、PL.3）
位置　X105・106、Y106・107グリッド　**主軸方向**　N－63°－E　**形状等**　長方形。東西3.78m、南北4.26m、壁現高64cmを測る。　**面積**　15.36m²　**床面**　ほぼ平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向がN－68°－Eであり、全長67cm、最大幅72cm、焚口部幅29cmを測る。構築材として、天井に凝灰岩切石、両袖に川原石、灰白色粘土を使用している。　**出土遺物**　総数1252点。そのうち、坏9点、蓋2点、擂り鉢1点、甕5点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から8世紀前半と考えられる。

H－6号住居跡（Fig.9）
位置　X106、Y103・104グリッド　**主軸方向**（N－89°－E）　**形状等**　方形と推定される。東西［1.55］m、南北［3.76］m、壁現高26cmを測る。　**面積**（5.26）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－3・4・7と重複しており、新旧関係はH－3、H－4→本遺構→H－7の順である。　**出土遺物**　総数420点。そのうち、坏2点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から8世紀末頃と考えられる。

H－7号住居跡（Fig.11）

位置　X105・106、Y103・104グリッド　**主軸方向**［N－110°－E］　**形状等**　長方形。東西[4.08]m、南北[3.48]m、壁現高29cmを測る。　**面積**［13.67］m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向が［N－44°－E］であり、全長52cm、最大幅62cm、焚口部幅25cmを測る。構築材として、瓦、灰白色粘土を使用している。　**重複**　H－3・6・8と重複しており、新旧関係はH－3→H－6・8→本遺構の順である。**出土遺物**　総数178点。そのうち、坏2点、甕1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から9世紀中頃と考えられる。

H－8号住居跡（Fig.11）

位置　X105・106、Y103・104グリッド　**主軸方向**［N－61°－E］　**形状等**　正方形。東西[2.73]m、南北[3.08]m、壁現高46cmを測る。　**面積**［8.19］m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　東壁中央北寄りより検出され、主軸方向がN－60°－Eであり、全長92cm、最大幅94cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**出土遺物**　総数1154点。そのうち、坏3点、台付盤1点、甕1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から8世紀末頃と考えられる。

H－9号住居跡　　欠　番

（B区）

H－10号住居跡（Fig.13、PL.4）

位置　X139、Y138グリッド　**主軸方向**（N－79°－E）　**形状等**　方形と推測される。東西(2.01)m、南北(1.32)m、壁現高43.5cmを測る。　**面積**（7.38）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　東壁南隅より検出され、主軸方向がN－133°－Eであり、全長112cm、最大幅75cm、焚口部幅44cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　H－11と重複しており、新旧関係は本遺構→H－11の順である。　**出土遺物**　総数15点。そのうち、かわらけ1点、坏1点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀末頃と考えられる。

H－11号住居跡（Fig.13、PL.4）

位置　X139、Y137・138グリッド　**主軸方向**（N－82°－E）　**形状等**　長方形と推定される。東西（1.54）m、南北（4.97）m、壁現高45.5cmを測る。　**面積**（14.64）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁南隅より検出され、主軸方向がN－111°－Eであり、全長104cm、最大幅84cm、焚口部幅44cmを測る。構築材として、瓦、支脚石、灰白色粘土を使用している。　**重複**　H－10・12と重複しており、新旧関係はH－10・12→本遺構の順である。　**出土遺物**　総数249点。そのうち、かわらけ5点、羽釜1点、広口甕2点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

H－12号住居跡（Fig.13）

位置　X139、Y136・137グリッド　**主軸方向**（N－63°－E）　**形状等**　長方形と推定される。東西（1.24）m、南北（4.73）m、壁現高45.5cmを測る。　**面積**（4.43）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。地山を利用した棚有。　**竈**　検出されず。　**重複**　H－11・13と重複しており、新旧関係はH－13→本遺構→H－11の順である。　**出土遺物**　総数0点。　**備考**　時期は埋土や重複関係から上限は8世紀中頃、下限は10世紀後半と考えられる。

H－13号住居跡（Fig.14、PL.4）

位置　X139、Y136・137グリッド　**主軸方向**（N－82°－E）　**形状等**　方形と推定される。東西（2.25）m、南北（4.56）m、壁現高48.5cmを測る。　**面積**（14.93）m²　**床面**　平坦で堅緻な床面。　**竈**　東壁中央南寄りより検出され、主軸方向がN－85°－Eであり、全長149cm、最大幅100cm、焚口部幅44cmを測る。構築材として、灰白色粘土を使用している。　**重複**　H－11・12と重複しており、新旧関係は本遺構→H－12→H－11の順である。

出土遺物　総数310点。そのうち、坏５点、高台椀２点、壺２点、甕１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀初頭と考えられる。

Ｈ－14号住居跡（Fig.15、PL.５）
位置　X138・139、Y132・133グリッド　**主軸方向**　N－78°－E　**形状等**　長方形。東西4.46m、南北3.50m、壁現高60cmを測る。　**面積**　15.37m²　**床面**　平坦で部分的に堅緻な床面。周溝有。　**竈**　東壁中央より検出され、主軸方向がN－76°－Eであり、全長162cm、最大幅99cm、焚口部幅42cmを測る。構築材として、支脚石、袖石、灰白色粘土を使用している。　**重複**　D－13と重複しており、新旧関係は本遺構→D－13の順である。　**出土遺物**　総数960点。そのうち、坏12点、蓋２点、高台椀１点、高坏１点、甕２点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

Ｈ－15号住居跡（Fig.14、PL.５）
位置　X137・138、Y131・132グリッド　**主軸方向**（N－94°－E）　**形状等**　方形と推定される。東西（1.85）m、南北（3.00）m、壁現高12.5cmを測る。　**面積**（5.16）m²　**床面**　平坦な床面。　**竈**　東壁南寄りより検出され、主軸方向がN－94°－Eであり、全長50cm、最大幅73cm、焚口部幅39cmを測る。構築材として、支脚石、灰白色粘土を使用している。　**出土遺物**　総数14点。そのうち、かわらけ１点、坏１点、羽釜１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から10世紀末頃と考えられる。

Ｈ－16号住居跡（Fig.16、PL.５）
位置　X139、Y142～144グリッド　**主軸方向**（N－91°－E）　**形状等**　長方形と推定される。東西（1.55）m、南北（4.72）m、壁現高64.0cmを測る。　**面積**（6.49）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**竈**　検出されず。　**重複**　W－５と重複しており、新旧関係は本遺構→W－５の順である。　**出土遺物**　総数18点。そのうち、かわらけ２点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から11世紀前半と考えられる。

Ｈ－17号住居跡（Fig.16、PL.６）
位置　X139、Y141・142グリッド　**主軸方向**（N－83°－E）　**形状等**　方形と推定される。東西（1.74）m、南北（3.72）m、壁現高70cmを測る。　**面積**（3.43）m²　**床面**　平坦な床面。周溝有。　**竈**　検出されず。　**重複**　W－２と重複しており、新旧関係は本遺構→W－３の順である。　**出土遺物**　総数58点。そのうち、坏１点を図示した。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から８世紀前半と考えられる。

2　竪穴状遺構

（Ｂ区）

Ｔ－１号竪穴状遺構（Fig.16、PL.６）
位置　X139、Y141・142グリッド　**主軸方向**（N－83°－E）　**形状等**　方形と推定される。東西（1.38）m、南北（3.29）m、壁現高43cmを測る。　**面積**（3.27）m²　**床面**　ほぼ平坦な床面。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　**備考**　時期は埋土下部にAs-B混土が混じることから、中世以降と考えられる。

3　溝跡・道路状遺構

（Ａ区）

Ｗ－１号溝跡（Fig.17、PL.６）
位置　X104～106、Y98～100グリッド　**主軸方向**（N－40°－W）　**形状等**　逆台形と推定される。長さ13.70m、

深さ（124）cm、最大上幅（225）cm、最大下幅（105）cmを測る。　**出土遺物**　総数92点。　**備考**　時期は埋土や出土遺物から中世と考えられる。

（B区）

W－2号溝跡（Fig.18、PL.6）

位置　X138・139、Y133～135グリッド　**主軸方向**（N－69°－W）　**形状等**　逆台形と推定される。長さ5.48m、深さ86cm、最大上幅（4.59＋α）cm、最大下幅（4.28＋α）cmを測る。　**重複**　H－17、W－3と重複しており、新旧関係はH－17→本遺構→W－3の順である。　**出土遺物**　総数1点。　**備考**　時期は埋土から中世と考えられる。

W－3号溝跡（Fig.18、PL.6）

位置　X138・139、Y135・136グリッド　**主軸方向**　N－69°－W　**形状等**　U字形。長さ5.35m、深さ117cm、最大上幅183cm、最大下幅118cmを測る。　**重複**　H－13、W－2と重複しており、新旧関係はH－13、W－2→本遺構の順である。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　**備考**　時期は埋土や重複関係から中世と考えられる。

W－4号溝跡（Fig.19）

位置　X138・139、Y139・140グリッド　**主軸方向**　N－56°－E　**形状等**　逆台形。長さ6.10m、深さ26cm、最大上幅124cm、最大下幅66cmを測る。　**出土遺物**　総数32点。　**備考**　時期は埋土から中世以降と考えられる。

W－5号溝跡（Fig.19）

位置　X138・139、Y143・144グリッド　**主軸方向**　N－66°－E　**形状等**　逆台形。長さ5.80m、深さ24cm、最大上幅88cm、最大下幅39cmを測る。　**重複**　H－16と重複しており、新旧関係はH－16→本遺構の順である。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　**備考**　時期は埋土や重複関係から中世以降と考えられる。

A－1号道路状遺構

位置　X138、Y142～144グリッド　**主軸方向**　N－2°－E　**形状等**　長さ7.70m、最大上幅80cmを測る。　**重複**　W－5と重複しており、新旧関係はW－5→本遺構の順である。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　時期　埋土や重複関係から近世以降と考えられる。

4　土坑・ピット（Fig.19・20）

土坑・ピットについては、Tab.4　土坑・ピット計測表（P16）を参照のこと。

5　グリッド等出土遺物

小破片を含め総数404点の遺物を出土した。

Ⅵ　遺構と遺物（総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡）

1　畠　　跡

(1)　古墳時代（Fig.21、PL. 7）

Hr-FA の灰ブロックが確認できる面で３方向の耕作痕を検出した。　**出土遺物**　総数35点。　**備考**　昨年度調査の総社甲稲荷塚大道西Ⅲ遺跡で検出された畠跡の続きで、時期は Hr-FA 降下以降から７世紀代と考えられる。

(2)　中　世（Fig.22、PL. 8）

As-B が確認できる面で１方向の耕作痕を検出した。　**出土遺物**　総数164点。　**備考**　時期は埋土から中世以降と考えられる。

2　溝跡・道路状遺構

W－１号溝跡（Fig.22）
位置　X277、Y60グリッド　**主軸方向**　N－67°－E　**形状等**　U字形。長さ（3.75）m、深さ５cm、最大上幅38cm、最大下幅24cmを測る。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　**備考**　時期は埋土から中世以降と考えられる。

W－２号溝跡（Fig.24、PL. 8）
位置　X277・278、Y53～59グリッド　**主軸方向**　N－18°－W　**形状等**　U字形。長さ［22.60］m、深さ10cm、最大上幅78cm、最大下幅28cmを測る。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　**備考**　時期は埋土から中世以降と考えられる。

W－３号溝跡（Fig.24、PL. 8）
位置　X277・278、Y53～58グリッド　**主軸方向**　N－20°－W　**形状等**　U字形。長さ［14.90］m、深さ８cm、最大上幅49cm、最大下幅22cmを測る。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　**備考**　時期は埋土から中世以降と考えられる。

W－４号溝跡（Fig.24）
位置　X274、Y53・54グリッド　**主軸方向**　N－17°－E　**形状等**　U字形。長さ3.23m、深さ35cm、最大上幅86cm、最大下幅32cmを測る。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　**備考**　時期は埋土から中世以降と考えられる。

W－５号溝跡（Fig.23、PL. 8）
位置　北側がX273、Y53・54グリッド、南側がX277・278、Y60～63グリッド　**主軸方向**　N－30°－W　**形状等**　U字形。北側が3.12m、南側が9.64mで、推定の長さ［42.9］m、深さ42cm、最大上幅85cm、最大下幅38cmを測る。　**出土遺物**　総数20点。　**備考**　古墳時代後期の畠跡の耕作痕との重複がなく、水の流れた痕跡があることから、この畠跡と同時にあったものと思われ、時期は古墳時代後期と考えられる。

A－1号道路状遺構（Fig.24、PL. 8）

位置　X277・278、Y53・54グリッド　**主軸方向**　N－22°－W　**形状等**　U字形。長さ3.23m、深さ10cm、最大上幅88cm、最大下幅67cmを測る。　**出土遺物**　本遺構に関連する遺物の出土はなかった。　時期　W－2・3と主軸方向が近く埋土も同じことから、時期は中世以降と考えられる。

3　井戸跡・土坑・ピット（Fig.25・26）

井戸跡・土坑・ピットについては、Tab. 4　井戸跡・土坑・ピット計測表（P16）を参照のこと。

4　グリッド等出土遺物

小破片を含め総数136点の遺物を出土した。

Tab. 2　元総社小見内Ⅷ遺跡／竪穴住居跡一覧表（A区）

遺構名	位置	規模（m）東西×南北	面積（m²）	壁現高（cm）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
						位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－1	X106、Y98	(0.88)×(2.25)	(1.43)	36.0	(N－91°－E)	－	－	－			
H－2	X104・105、Y101・102	(3.19)×(2.50)	(4.02)	94.5	(N－102°－E)	－	－	－		蓋・坏	刀子
H－3	X105・106、Y103・104	6.12 × 5.23	26.90	65.5	N－57°－E	東壁中央南	粘土	○	坏・甕	蓋・坏・長頸壺	角釘
H－4	X106、Y104・105	(2.66)×(3.66)	(8.27)	65.5	(N－92°－E)	－	－	－	坏	蓋・坏	
H－5	X105・106、Y106・107	3.78 × 4.26	15.36	64.0	N－63°－E	東壁中央南	粘土・石・凝灰岩	－	坏	蓋・坏・大甕	鉄鏃
H－6	X106、Y103・104	[1.55]×[3.76]	[5.26]	26.0	(N－89°－E)	－	－	－	坏		
H－7	X105・106、Y103、104	[4.08]×[3.48]	[13.67]	29.0	[N－110°－E]	東壁中央南	粘土・瓦	－	坏・甕	坏	瓦
H－8	X105・106、Y103、104	[2.73]×[3.08]	[8.19]	46.0	[N－61°－E]	東壁中央北	粘土	－	坏・甕	台付盤	

Tab. 2　元総社小見内Ⅷ遺跡／竪穴住居跡一覧表（B区）

遺構名	位置	規模（m）東西×南北	面積（m²）	壁現高（cm）	主軸方向	竈		周溝	主な出土遺物		
						位置	構築材		土師器	須恵器	その他
H－9	欠番										
H－10	X139、Y138	(2.01)×(1.32)	(7.38)	43.5	(N－79°－E)	東壁南隅	粘土	－		坏	かわらけ
H－11	X139、Y137・138	(1.54)×(4.97)	(14.64)	45.5	(N－82°－E)	東壁南隅	粘土・瓦・石	－		羽釜	かわらけ・瓦
H－12	X139、Y136・137	(1.24)×(4.73)	(4.43)	45.5	(N－63°－E)	－	－	－			
H－13	X139、Y136・137	(2.25)×(4.56)	(14.93)	48.5	(N－82°－E)	東壁中央南	粘土	－	坏・甕	坏・直口壺	
H－14	X138・139、Y132・133	4.46 × 3.50	15.37	60.0	N－78°－E	東壁中央	粘土・石	○	坏・甕	蓋・高台椀	
H－15	X137・138、Y131・132	(1.85)×(3.00)	(5.16)	12.5	(N－94°－E)	東壁南	粘土・石	－		羽釜	かわらけ・瓦
H－16	X139、Y142～144	(1.55)×(4.72)	(6.49)	64.0	(N－91°－E)	－	－	－			かわらけ
H－17	X139、Y133・134	(1.74)×(3.72)	(3.43)	70.0	(N－66°－E)	－	－	○	坏		
T－1	X139、Y141・142	(1.38)×(3.29)	(3.27)	43.0	(N－83°－E)	－	－	－			

Tab. 3　元総社小見内Ⅷ遺跡／溝跡・道路状遺構計測表

遺構名	位置	長さ（m）	最大幅（m）		深さ（m）	断面形	主軸方向	新旧関係（旧＜新）
			上幅	下幅				
W－1	X104～106、Y98～100	13.70	(2.25)	(1.05)	(1.24)	[逆台形]	(N－40°－W)	
W－2	X138・139、Y133～135	5.48	(4.59)＋α	(4.28)＋α	(0.86)	[逆台形]	(N－69°－W)	H－17＜本遺構＜W－3
W－3	X138・139、Y135・136	5.35	1.83	1.18	1.17	U字形	N－69°－W	H－13、W－2＜本遺構
W－4	X138・139、Y139・140	6.10	1.24	0.66	0.26	逆台形	N－56°－E	
W－5	X138・139、Y143・144	5.80	0.88	0.39	0.24	逆台形	N－66°－E	H－16＜本遺構＜A－1
A－1	X138、Y142～144	7.70	0.80	－	－	－	N－2°－E	W－5＜本遺構

（注）遺物総数の土は土師器、瓦は瓦片、灰釉は灰釉陶器のこと

Tab. 3　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／溝跡・道路状遺構計測表

遺構名	位　　置	長さ (m)	最大幅(m)		深さ (m)	断面形	主軸方向	新旧関係（旧＜新）
			上幅	下幅				
W－1	X277、Y60	(3.75)	0.38	0.24	0.05	U字形	N－67°－E	
W－2	X277・278、Y53～59	[22.60]	0.78	0.28	0.10	U字形	N－18°－W	
W－3	X277・278、Y53～58	[14.90]	0.49	0.22	0.08	U字形	N－20°－W	
W－4	X274、Y53・54	3.23	0.86	0.32	0.35	U字形	N－17°－E	
W－5（北側）	X273、Y53・54	3.12	0.85	0.35	0.42	U字形	N－30°－W	
W－5（南側）	X277・278、Y60～63	9.64	0.76	0.38	0.34			
A－1	X277・278、Y53・54	3.23	0.88	0.67	0.10	U字形	N－22°－W	

Tab. 4　元総社小見内Ⅷ遺跡／土坑・ピット計測表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺物総数	遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺物総数
D－1	X105、Y98	79	42	26.5	楕円形	J1・土4・須1	D－14	X138、Y138・139	(172)	140	63.0	方　形	
D－2	X105、Y98・99	129	91	22.0	楕円形		D－15	X139、Y148	162	56	26.0	楕円形	
D－3	X105、Y99	98	66	19.0	円　形	J1・土2・須1	D－16	X138・139、Y147	152	60	30.0	楕円形	
D－4	X106、Y99	84	67	32.5	楕円形	J4・土20・須15・瓦11	D－17	X139、Y144	107	(55)	19.5	円　形	
D－5	X139、Y149	36	(27)	16.0	円　形		P－1	X105、Y98	35	20	10.5	円　形	
D－6	X138、Y149	72	39	14.5	楕円形		P－2	X105、Y98	56	51	22.0	不整形	
D－7	X138、Y148	169	78	25.5	楕円形		P－3	X106、Y99	74	32	12.5	楕円形	J 4
D－8	X139、Y147	57	46	20.5	楕円形		P－4	X139、Y145	49	39	20.5	円　形	
D－9	X138・139、Y147	135	92	14.0	楕円形		P－5	X138、Y144	32	22	13.0	円　形	
D－10	X139、Y147	71	(70)	16.0	円　形		P－6	X138、Y143	35	28	21.5	円　形	
D－11	X139、Y146・147	73	(63)	20.0	楕円形		P－7	X138、Y143	43	(18)	22.0	方　形	
D－12	X138、Y146	117	(106)	40.5	円　形		P－8	X138、Y143	42	30	14.0	円　形	
D－13	X138・139、Y132・133	135	130	54.5	円　形								

Tab. 4　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／井戸跡・土坑・ピット計測表

遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺物総数	遺構名	位　　置	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	形状	遺物総数
I－1	X276、Y53	125	(94)	(92.0)	円　形	土15・瓦2・灰釉1	P－19	X277、Y60	34	31	13.5	円　形	
D－1	X276・277、Y64・65	83	(33)	9.0	楕円形		P－20	X277、Y59・60	45	38	12.0	楕円形	
D－2	X277、Y60	113	50	6.0	楕円形		P－21	X277、Y59	38	36	9.5	円　形	
D－3	X273、Y53	79	64	5.5	楕円形		P－22	X277、Y59	44	35	9.0	楕円形	
P－1	X277、Y67	32	31	12.0	円　形		P－23	X278、Y58	38	(26)	6.5	楕円形	
P－2	X277、Y67	36	33	7.0	円　形		P－24	X278、Y58	30	22	6.0	円　形	
P－3	X277、Y67	31	30	15.0	円　形		P－25	X277、Y58	44	43	13.0	円　形	
P－4	X277、Y65・66	54	49	10.5	円　形		P－26	X277、Y58	32	31	8.5	円　形	
P－5	X277、Y66	37	34	8.0	円　形		P－27	X277、Y57	29	28	5.0	円　形	
P－6	X277、Y62	62	42	11.0	楕円形		P－28	X277・278、Y57	45	45	5.5	円　形	
P－7	X277、Y62	56	53	5.0	円　形		P－29	X278、Y56	49	37	4.5	楕円形	
P－8	X277、Y62	45	36	6.0	円　形		P－30	X277・278、Y56	46	42	8.0	円　形	
P－9	X277、Y62	40	31	10.5	楕円形		P－31	X277・278、Y56	36	33	6.0	円　形	
P－10	X277、Y61・62	54	40	5.5	楕円形		P－32	X277・278、Y56	34	26	6.5	楕円形	
P－11	X277、Y61	71	61	6.5	楕円形		P－33	X277、Y56	36	36	8.0	円　形	
P－12	X277、Y61	66	45	8.0	楕円形		P－34	X277、Y57	40	38	3.5	円　形	
P－13	X277、Y61	49	47	9.5	円　形		P－35	X277、Y56	44	37	4.5	楕円形	
P－14	X277、Y61	55	43	8.5	楕円形		P－36	X277、Y66	31	30	24.0	円　形	
P－15	X277、Y60	52	49	12.5	円　形		P－37	X277、Y66	31	27	10.0	円　形	
P－16	X277、Y61	27	25	8.0	円　形		P－38	X277、Y66	29	26	7.0	円　形	
P－17	X277・278、Y61	65	50	6.5	楕円形		P－39	X276、Y66	26	25	3.0	円　形	
P－18	X277・278、Y61	64	43	6.0	楕円形								

（注）　遺物総数のJは縄文土器、土は土師器、須は須恵器、瓦は瓦片、灰釉は灰釉陶器のこと

Tab. 5　元総社小見内Ⅷ遺跡／奈良・平安時代出土土器観察表

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－2－1 床直	蓋 須恵器	① [16.4] ② (2.1)	①細粒②良好 ③灰白色④1/6	轆轤整形。天井部：上部欠損、端部内･外面撫で、返り無。摘み：欠損。	
2	H－2－2 埋土	坏 須恵器	①　— ② (1.8)	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：欠損。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
3	H－3－1 埋土	坏 土師器	① 11.9 ② 4.0	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く内彎気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
4	H－3－2 床直	坏 土師器	① 12.4 ② 4.4	①細粒②良好 ③明赤褐色④ほぼ完形	口縁部：短く内彎、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
5	H－3－3 埋土	坏 土師器	① 13.5 ② 4.2	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立気味、内・外面撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
6	H－3－4 床直	坏 土師器	① 16.5 ② 6.1	①細粒②良好 ③明赤褐色④ほぼ完形	口縁部：短く内彎気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
7	H－3－5 床直	坏 土師器	① [17.0] ② (6.8)	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
8	H－3－6 床直	坏 土師器	① [16.0] ② 5.7	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2	口縁部：短く内傾気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
9	H－3－7 埋土	蓋 須恵器	① [10.0] ② 3.3	①細粒②良好 ③灰色④胴部3/4	轆轤整形。天井部：外傾、外面と端部内・外面撫で、返り有。摘み：宝珠摘み。	
10	H－3－8 埋土	蓋 須恵器	① [10.9] ② 4.1	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。天井部：水平気味から外傾、外面回転篦削り、端部内・外面撫で、返り有。摘み：宝珠摘み。	
11	H－3－9 埋土	蓋 須恵器	① [22.7] ② 5.5	①細粒②良好 ③灰黄褐色④3/4	轆轤整形。天井部：水平から外傾、外面回転篦削り、端部内･外面撫で、返り有。摘み：宝珠摘み。	
12	H－3－10 床直	坏 須恵器	①　— ② (4.3)	①細粒②良好 ③灰色④2/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で、口縁端部欠損。底部：平底、内面撫で、外面回転篦切り。	
13	H－3－11 埋土	坏 須恵器	① [9.4] ② 3.1	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から端部わずかに外反、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面端部回転篦削り調整。	
14	H－3－12 床直	台付盤 須恵器	① [27.1] ② (4.3)	①細粒②良好 ③灰白色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：直立気味、内・外面撫で。底部：内面撫で、外面回転篦削り。台部：欠損。	
15	H－3－13 埋土	丸底甕 土師器	① 10.0 ② (9.2)	①細粒②良好 ③にぶい褐色④3/4	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：中位に器最大径を持ち、内面撫で、外面横篦削り。底部：丸底。	
16	H－3－14 埋土	甕 須恵器	① [16.3] ② 19.5	①細粒②良好 ③灰色④1/2	轆轤整形。口縁部：外反気味、内・外面撫で、端部返し有。体部：中位やや上に器最大径を持ち、上位内・外面撫で、下位外面平行叩き目文、下位内面指押さえ痕有。	
17	H－3－15 床直	長頸壺 須恵器	①　— ② (12.6)	①細粒②良好③灰白色④口縁・頸部欠損	轆轤整形。口縁・頸部：欠損。体部：中位やや上に器最大径を持ち、上位外面撫で、下位回転篦削り、上位外面に沈線で区画した間に波状文を入れた文様が巡る。台部：垂直から外傾。	
18	H－3－16 床直	長胴甕 土師器	① 20.6 ② (7.2)	①細粒②良好 ③橙色④口縁部	口縁部：外反気味、内・外面横撫で。胴部上位：内面撫で、外面斜め篦削り。底部：欠損。	
19	H－4－1 埋土	坏 土師器	① 12.8 ② 3.9	①細粒②良好 ③明赤褐色④3/4	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
20	H－4－2 床直	蓋 須恵器	① [13.4] ② (1.9)	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。天井部：水平気味から外傾、端部内・外面撫で、返り有。摘み：欠損。	
21	H－4－3 埋土	坏 須恵器	① [10.4] ② 3.6	①細粒②良好 ③灰オリーブ色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内・外面撫で。	
22	H－5－1 床直	坏 土師器	① 10.6 ② 3.2	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
23	H－5－2 床直	坏 土師器	① 11.1 ② 3.3	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
24	H－5－3 床直	坏 土師器	① 11.4 ② 3.6	①細粒②良好 ③赤褐色④ほぼ完形	口縁部：短く直立気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
25	H－5－4 床直	坏 土師器	① 12.5 ② 4.6	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
26	H－5－5 床直	坏 土師器	① 13.8 ② 4.9	①細粒②良好 ③明赤褐色④ほぼ完形	口縁部：短く直立気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
27	H－5－6 床直	蓋 須恵器	① [11.4] ② 3.5	①細粒②良好 ③灰色④1/2	轆轤整形。天井部：水平気味から外傾、外面回転篦削り、端部内・外面撫で、返り有。摘み：宝珠摘み。	
28	H－5－7 床直	蓋 須恵器	①　— ②　—	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。天井部：水平気味端部欠損、外面回転篦削り。摘み：環状摘みに4ヶ所穿孔。紐を通して使用したと考えられる。	
29	H－5－8 埋土	坏 須恵器	① [9.6] ② 3.5	①細粒②良好 ③灰色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾から端部わずかに外反、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転篦切り後撫で調整。	
30	H－5－9 床直	坏 須恵器	① 9.8 ② 3.2	①細粒②良好 ③灰白色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面切り離し後撫で調整。	
31	H－5－10 埋土	坏 須恵器	① 10.6 ② 3.8	①細粒②良好 ③灰色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面手持ち篦削り。	
32	H－5－11 埋土	坏 須恵器	① [11.8] ② 3.9	①細粒②良好 ③灰色④3/4	轆轤整形。口縁･体部：外傾、内･外面撫で後口縁端部篦押さえ。底部：平底、内面撫で、外面回転篦切り後撫で調整。	

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
33	H－5－12 床直	摺り鉢 須恵器	①　— ②（3.1）	①細粒②良好 ③灰色④底部	轆轤整形。底部：外面撫で調整後47の穿孔、その後体部と接合、体部内面撫で。	
34	H－5－13 床直	丸底甕 土師器	①　15.8 ②　17.1	①細粒②良好 ③橙色④完形	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部：内面撫で、外面上位縦、下位横篦削り、中位やや下に粘土付着。底部：丸底。	
35	H－5－14 床直	長胴甕 土師器	①　23.2 ②（33.2）	①細粒②良好 ③橙色④4/5	口縁部：器最大径、大きく外傾、内・外面横撫で。胴部：内面撫で、外面斜め篦削り。底部：欠損。	
36	H－5－15 床直	甕 土師器	①　20.7 ②（　）	①細粒②良好③橙色 ④口縁～胴部上位	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部上位：内面撫で、外面篦削り。	
37	H－5－16 床直	大　甕 須恵器	①［24.6］ ②（12.7）	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁部：外反気味、内・外面撫で後外面上位に沈線を2条巡らす。胴部：外面平行叩き目文。底部：欠損。	
38	H－5－17 床直	大　甕 須恵器	①［25.0］ ②（12.9）	①細粒②良好 ③にぶい橙色④破片	轆轤整形。口縁部：外反気味、内・外面撫で。胴部：内面青海波状文、外面平行叩き目文。底部：欠損。	
39	H－6－1 床直	坏 土師器	①　9.8 ②　2.9	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	
40	H－6－2 床直	坏 土師器	①　10.8 ②　4.0	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
41	H－7－1 床直	坏 土師器	①［10.8］ ②　3.7	①細粒②良好 ③にぶい橙色④1/3	口縁・体部：外傾、内・外面横撫で。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	
42	H－7－2 床直	坏 須恵器	①［12.2］ ②（3.7）	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾から端部わずかに外反、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
43	H－7－3 床直	甕 土師器	①［18.4］ ②（14.7）	①細粒②良好 ③橙色④破片	口縁部：弱い「コ」の字状口縁、内・外面横撫で。体部上位：内面撫で、外面篦削り。底部：欠損。	
44	H－8－1 床直	坏 土師器	①　10.7 ②　3.5	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
45	H－8－2 埋土	坏 土師器	①　10.3 ②　3.3	①細粒②良好 ③明赤褐色④完形	口縁部：短く内彎気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
46	H－8－3 床直	坏 土師器	①　10.7 ②　3.0	①細粒②良好 ③明赤褐色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
47	H－8－4 埋土	台付盤 須恵器	①［27.2］ ②（4.0）	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。天井部：長く水平から端部外傾、端部内・外面撫で、返り無。摘み：環状摘み。	
48	H－8－5 床直	甕 土師器	①　16.8 ②（7.2）	①細粒②良好③明赤褐色④口縁～胴部	口縁部：外傾から外反、内・外面横撫で。胴部上位：内面撫で、外面篦削り。	
49	H－10－1 埋土	かわらけ	①　8.1 ②　2.1	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で、端部わずかに肥厚。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
50	H－10－2 床直	坏 須恵器	①　13.9 ②　4.0	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④4/5	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。底径は口径の半分以下。	酸化焔焼成
51	H－11－1 埋土	かわらけ	①　8.5 ②　2.2	①細粒②良好③にぶい黄橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内側に突出気味、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
52	H－11－2 床直	かわらけ	①　8.5 ②　2.2	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
53	H－11－3 床直	かわらけ	①　8.5 ②　1.8	①細粒②良好 ③にぶい橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、端部わずかに外反、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
54	H－11－4 床直	かわらけ	①　9.0 ②　2.2	①細粒②良好 ③橙色④完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、端部わずかに外反、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
55	H－11－5 床直	かわらけ	①　9.3 ②　2.2	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面に突出気味、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
56	H－11－6 竈内	羽　釜 須恵器	①　10.5 ②（7.2）	①細粒②良好③にぶい橙色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁部：わずかに外傾、内・外面撫で。鍔部：断面三角形、やや上向きに付く、撫で。胴部：内・外面撫で。底部：平底、内・外面撫で。台部：欠損。	ミニチュア 酸化焔焼成
57	H－11－7 床直	広口甕 須恵器	①［24.4］ ②（9.0）	①細粒②良好 ③橙色④口縁破片	轆轤整形。口縁部：短く外傾、内・外面横撫で。胴部上位：内面撫で、外面篦削り。底部：欠損。	酸化焔焼成
58	H－11－8 床直	広口甕 須恵器	①　— ②（15.5）	①細粒②良好 ③橙色④底部	轆轤整形。口縁部：欠損。胴部下位：内面轆轤撫で、外面斜め篦削り。底部：平底。	酸化焔焼成
59	H－13－1 床直	坏 土師器	①　10.6 ②　3.6	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
60	H－13－2 床直	坏 土師器	①［11.8］ ②　3.4	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
61	H－13－3 埋土	坏 土師器	①［12.0］ ②　3.4	①細粒②良好 ③橙色④1/2	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	
62	H－13－4 床直	坏 土師器	①　13.6 ②　4.4	①細粒②良好 ③橙色④ほぼ完形	口縁部：短く内傾気味、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
63	H－13－5 埋土	坏 須恵器	①［12.1］ ②（3.5）	①細粒②良好 ③灰色④1/3	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転篦削り。	
64	H－13－6 埋土	高台椀 須恵器	①［17.6］ ②　4.5	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：内面撫で。高台部：削り出しの角高台。	
65	H－13－7 埋土	高台椀 須恵器	①　— ②（2.3）	①細粒②良好 ③灰色④破片	轆轤整形。口縁・体部：欠損。底部：平底、内面撫で。高台部：削り出し高台。	外面自然釉

番号	遺構番号/層位	器種	①口径②器高	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
66	H—13—8 床直	直口壺 須恵器	① [11.8] ② (5.6)	①細粒②良好 ③灰色④口縁～体部	轆轤整形。口縁部：緩やかに外傾、内・外面撫で、口縁端部篦押さえ。体部上位：内・外面撫で。底部：欠損。	
67	H—13—9 埋土	直口壺 須恵器	① [11.6] ② (11.7)	①細粒②良好③灰白色 ④口縁～体部	轆轤整形。口縁部：外傾、内・外面撫で、口縁端部篦押さえ。体部上位：内・外面撫で。底部：欠損。	
68	H—13—10 埋土	長胴甕 土師器	① 23.2 ② (29.8)	①細粒②良好 ③にぶい橙色④3/4	口縁部：大きく外傾、内・外面横撫で。胴部：内面撫で、外面斜め篦削り。底部：欠損。	
69	H—14—1 床直	坏 土師器	① [11.8] ② 3.7	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁部：直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
70	H—14—2 床直	坏 土師器	① [12.0] ② 4.4	①細粒②良好 ③橙色④1/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
71	H—14—3 床直	坏 土師器	① [17.1] ② 3.3	①細粒②良好 ③明赤褐色④1/2強	口縁部：外傾、内・外面横撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面篦削り。	
72	H—14—4 床直	坏 土師器	① 20.6 ② 6.7	①細粒②良好 ③明赤褐色④2/3	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	
73	H—14—5 床直	坏 土師器	① [15.2] ② 4.3	①細粒②良好 ③橙色④2/3	口縁・体部：外傾、口縁端部内・外面横撫で、体部内面撫で、放射線状の磨き有、外面篦削り。底部：平底、内面撫で、外面篦削り。	
74	H—14—6 床直	蓋 須恵器	① 12.6 ② 2.1	①細粒②良好 ③灰白色④3/4	轆轤整形。天井部：短く水平から外傾、外面回転篦削り、端部内・外面撫で、返り有。摘み：環状摘み。	
75	H—14—7 床直	蓋 須恵器	① 18.3 ② 3.5	①細粒②良好 ③灰色④4/5	轆轤整形。天井部：外傾、外面回転篦削り、端部内・外面撫で。摘み：環状摘み。	
76	H—14—8 床直	坏 須恵器	① 12.6 ② 3.7	①細粒②良好③にぶい赤褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面手持ち篦削り。	
77	H—14—9 床直	坏 須恵器	① 12.6 ② 3.4	①細粒②良好 ③灰褐色④3/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面手持ち篦削り。	
78	H—14—10 床直	坏 須恵器	① [16.8] ② (3.6)	①細粒②良好 ③黒褐色④破片	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転篦削り。	
79	H—14—11 床直	坏 須恵器	① [13.8] ② (4.4)	①細粒②良好 ③灰褐色④2/5	轆轤整形。口縁部：外傾、内面撫で、外面撫で。底部：浅い丸底、内面撫で、外面手持ち篦削り。	
80	H—14—12 床直	坏 須恵器	① [11.4] ② 4.3	①細粒②良好 ③灰白色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転篦切り。	内・外面自然釉
81	H—14—13 埋土	坏 須恵器	① [12.0] ② (3.7)	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転篦切り。	
82	H—14—14 埋土	坏 須恵器	① [11.6] ② (3.4)	①細粒②良好 ③灰白色④破片	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転篦切り後撫で調整。	
83	H—14—15 埋土	高台椀 須恵器	① [16.0] ② (4.1)	①細粒②良好 ③灰色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転篦切り後撫で調整。高台部：削り出し高台。	
84	H—14—16 埋土	高　坏 須恵器	① — ② (7.4)	①細粒②良好 ③灰黄色④脚部	轆轤整形。坏部：欠損。脚部：内・外面撫で、短脚一段4方向透かし。	
85	H—14—17 床直	甕 土師器	① [12.3] ② (4.2)	①細粒②良好 ③明赤褐色④口縁破片	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部上位：内面撫で、外面篦削り。底部：欠損。	
86	H—14—18 床直	甕 土師器	① 21.0 ② (8.1)	①細粒②良好 ③橙色④口縁部	口縁部：外傾、内・外面横撫で。胴部上位：内面撫で、外面篦削り。	
87	H—15—1 床直	かわらけ	① [8.6] ② (2.6)	①細粒②良好 ③にぶい褐色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内側に突出気味、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
88	H—15—2 床直	坏 須恵器	① [14.8] ② (4.5)	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④1/2	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	酸化焔焼成
89	H—15—3 床直	羽　釜 須恵器	① [15.8] ② (8.2)	①細粒②良好 ③橙色④破片	轆轤整形。口縁部：内傾から端部短く直立、内・外面撫で。鍔部：角形、下向きに付く、器最大径、内面撫で、外面篦削り。底部：欠損。	酸化焔焼成
90	H—16—1 床直	かわらけ	① 8.4 ② 2.0	①細粒②良好③明赤褐色④ほぼ完形	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
91	H—16—2 床直	かわらけ	① [8.4] ② (2.2)	①細粒②良好 ③橙色④1/4	轆轤整形。口縁・体部：外傾、内・外面撫で。底部：平底、内側に突出気味、内面撫で、外面回転糸切り未調整。	
92	H—17—1 床直	坏 土師器	① 13.4 ② 5.0	①細粒②良好 ③明赤褐色④4/5	口縁部：短く直立、内・外面横撫で。底部：丸底、内面撫で、外面篦削り。	

(注) ①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の2段階に分けた。竈内の検出については「竈内」と記載した。
②口径、器高の単位はcmであり、重さの単位はgである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は土器外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Tab. 6　元総社小見内Ⅷ遺跡／鉄器・鉄製品観察表

番号	遺構・層位	器　種		最大長	最大幅	最大厚	重　さ	依存度	備　　考
1	H－2・埋土	刀　　子		(14.2)	1.7	0.5	22.0	先端欠	
2	H－3・埋土	角　　釘		(4.2)	(0.5)	(0.5)	7.1	破　　片	
3	H－5・埋土	刀子	切先	(4.3)	(0.8)	(0.2)	8.5	破　　片	
			関部	(4.8)	(0.8)	(0.3)			
4	H－5・床直	刀　　子		(5.6)	(0.7)	(0.3)	3.7	破　　片	
5	H－5・床直	角　　釘		8.3	0.4	0.4	8.4	完　　形	
6	H－5・埋土	鉄　　鏃		(5.7)	(2.2)	(0.1)	5.8	端部欠	柳歯形、中位に切り込み有。

(注)　①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）で示した。

Tab. 7　元総社小見内Ⅷ遺跡／石製品観察表

番号	遺構・層位	器　種	最大長	最大幅	最大厚	重さ	石　材	依存度	備　　考
1	H－3・床直	砥　　石	10.5	3.1	2.7	120.0	凝灰岩	不　　明	

(注)　①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。
②最大長・最大幅・最大厚の単位はcmであり、重さの単位はｇである。現存値を（　）で示した。

Tab. 8　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦観察表

番号	遺構番号/層位	器種	①長さ②厚さ	①胎土②焼成③色調④遺存度	器種の特徴・整形・調整技術	備　考
1	H－7－1 床直	平　瓦	①（22.6） ②（ 2.7）	①細粒(砂粒少なく含む) ②良好③灰黄橙色④1/2	一枚作り。凹面：布目有。にぶい橙色粘土付着。上弦幅（23.2）cm。凸面：撫で。篦書き文字有。側面：面取り２回。	篦書き文字
2	H－11－1 床直	平　瓦	① 40.4 ② 2.3	①細粒②良好 ③灰黄色④2/3	一枚作り。凹面：布目有。中央に篦書き文字有。凸面：上位横、中・下位縦縄叩き目痕有、撫で。側面：面取り２回。	篦書き文字
3	H－11－2 床直	平　瓦	① 41.5 ② 2.1	①細粒②良好 ③にぶい橙色④2/3	一枚作り。凹面：布目有。中央に篦書き文字有。凸面：上位横、中・下位縦縄叩き目痕有、撫で。側面：面取り２回。	篦書き文字
4	H－11－3 床直	平　瓦	①（16.8） ②（ 2.4）	①細粒②良好 ③灰白色④破片	凹面：布目有。篦書き文字有。凸面：縦縄叩き目痕有。	篦書き文字
5	H－11－4 床直	平　瓦	①（19.2） ②（ 1.7）	①細粒②良好 ③にぶい黄橙色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り３回。	
6	H－11－5 床直	平　瓦	①（15.4） ②（ 1.5）	①細粒(砂粒少なく含む) ②良好③灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。にぶい橙色粘土付着。凸面：縦篦削り後撫で。側面：面取り１回。	
7	H－11－6 竈内	丸　瓦	① 39.2 ②（ 1.7）	①細粒②良好 ③灰黄褐色④2/3	凸面：わずかに縄叩き目痕有、横撫で。凹面：布目有。側面：面取り２回。	
8	H－15－1 床直	平　瓦	①（27.8） ②（ 1.8）	①細粒(砂粒少なく含む) ②良好③にぶい黄橙色 ④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：横撫で。にぶい橙色粘土付着。側面：面取り２回。	
9	H－15－2 床直	平　瓦	①（14.5） ②（ 2.1）	①細粒（砂粒含む） ②良好③にぶい黄橙色 ④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：わずかに縄叩き目痕有、撫で。橙色粘土付着。側面：面取り２回。	
10	D－4－1 床直	平　瓦	① 40.9 ②（ 1.7）	①細粒②良好 ③暗灰色④1/2	一枚作り。凹面：わずかに布目有、撫で。篦書き文字有。凸面：縦・斜め縄叩き目の痕有。側面：面取り２回。	篦書き文字
11	D－4－2 床直	平　瓦	①（13.6） ②（ 3.0）	①細粒（砂粒含む） ②良好③褐灰色④破片	一枚作り。凹面：布目有。凸面：撫で。側面：面取り２回。	

(注)　①層位は、「床直」：床面より10cm以内の層位からの検出、「埋土」：床面より11cm以上の層位からの検出の２段階に分けた。
②長さ、厚さの単位はcmである。現存値を（　）、復元値を［　］で示した。
③胎土は、細粒（0.9mm以下）、中粒（1.0～1.9mm以下）、粗粒（2.0mm以上）とし、特徴的な鉱物が入る場合に鉱物名等を記載した。
④焼成は、極良・良好・不良の三段階とした。
⑤色調は瓦外面で観察し、色名は新版標準土色帳（小山・竹原1976）によった。

Ⅶ 考　　察

ここでは、元総社蒼海遺跡群での従来の様式に従い、検出された遺構をⅠ期(～７世紀前半：律令期以前)、Ⅱ期（７世紀後半～10世紀初頭：律令期)、Ⅲ期（10世紀初頭～：律令期以後）の３期に区分し考察していきたい。

1　元総社小見内Ⅷ遺跡

本調査区は、推定国府域の北西で、推定国分尼寺の南東約110mと約290mの２ヶ所の地点に分かれており、北側をＡ区、南側をＢ区とした。

Ａ区の地層は、現耕作土下に20cm程の As-B 混土層があり、その下に Hr-FP を含む暗褐色土が30cm程堆積し、地山のローム層に移行する。Ｂ区の地層は、現耕作土下に30cm程の As-B 混土層があり、その下に As-C･Hr-FP を含む黒褐色土が20cm程堆積し、地山のローム層に移行する。Ｂ区の地層は、緩やかに南に向かって傾斜している。

調査の結果、竪穴住居跡16軒、竪穴状遺構１軒、溝跡５条、道路状遺構１条、土坑17基、ピット８基が検出された。

(1)　本遺跡の遺構について

本調査区で、時期の限定できる遺構について下の表にまとめてみた。

Tab. 9　時期別の遺構数

時期			遺構				合計
			竪穴住居跡	掘立柱建物跡	溝跡	その他	
Ⅰ期	～７世紀前半						
	７世紀	前半					
		中頃					
Ⅱ期		後半					
	８世紀	前半	H－３・５・13・14・17				5
		中頃					
		後半	H－４・６・８				3
	９世紀	前半	H－２				1
		中頃	H－７				1
		後半					
Ⅲ期	10世紀前半～		H－10・11・15・16	T－１	W－１・２・３・４・５	A－１	11
合計			14	1	5	1	21

Ⅰ期では遺構の検出はなかった。しかし、遺物の出土はあり、近隣に遺構のあった可能性は考えられる。

Ⅱ期では、竪穴住居跡のみ10軒を検出した。ここで、竪穴住居跡の規模と主軸方向をみてみたい。

Tab.10　Ⅱ期の竪穴住居跡の比較

時期	東西辺の長さ	住居No.	主軸方向	住居No.	総数
８世紀前半	～３m		～N－70°－E	H－３・５・17	5
	３m～５m	H－５・13・14・17※	～N－90°－E	H－13・14	
	５m～	H－３	N－90°－E～		
８世紀後半	～３m		～N－70°－E	H－８	3
	３m～５m	H－４・６・８	～N－90°－E	H－６	
	５m～		N－90°－E～	H－４	
９世紀前半	～３m		～N－70°－E		1
	３m～５m	H－２※	～N－90°－E		
	５m～		N－90°－E～	H－２	
９世紀中頃	～３m		～N－70°－E		1
	３m～５m	H－７	～N－90°－E		
	５m～		N－90°－E～	H－７	

(注)　本調査では、竪穴住居跡の全てを検出できたものが少なく、そのため、比較にあたり、竪穴住居跡の「東西辺の長さ」を使用した。

＊　「東西辺の長さ」が計測できないものに関しては、「南北辺の長さ」や「床面」の状態から、「東西辺の長さ」を想定した。

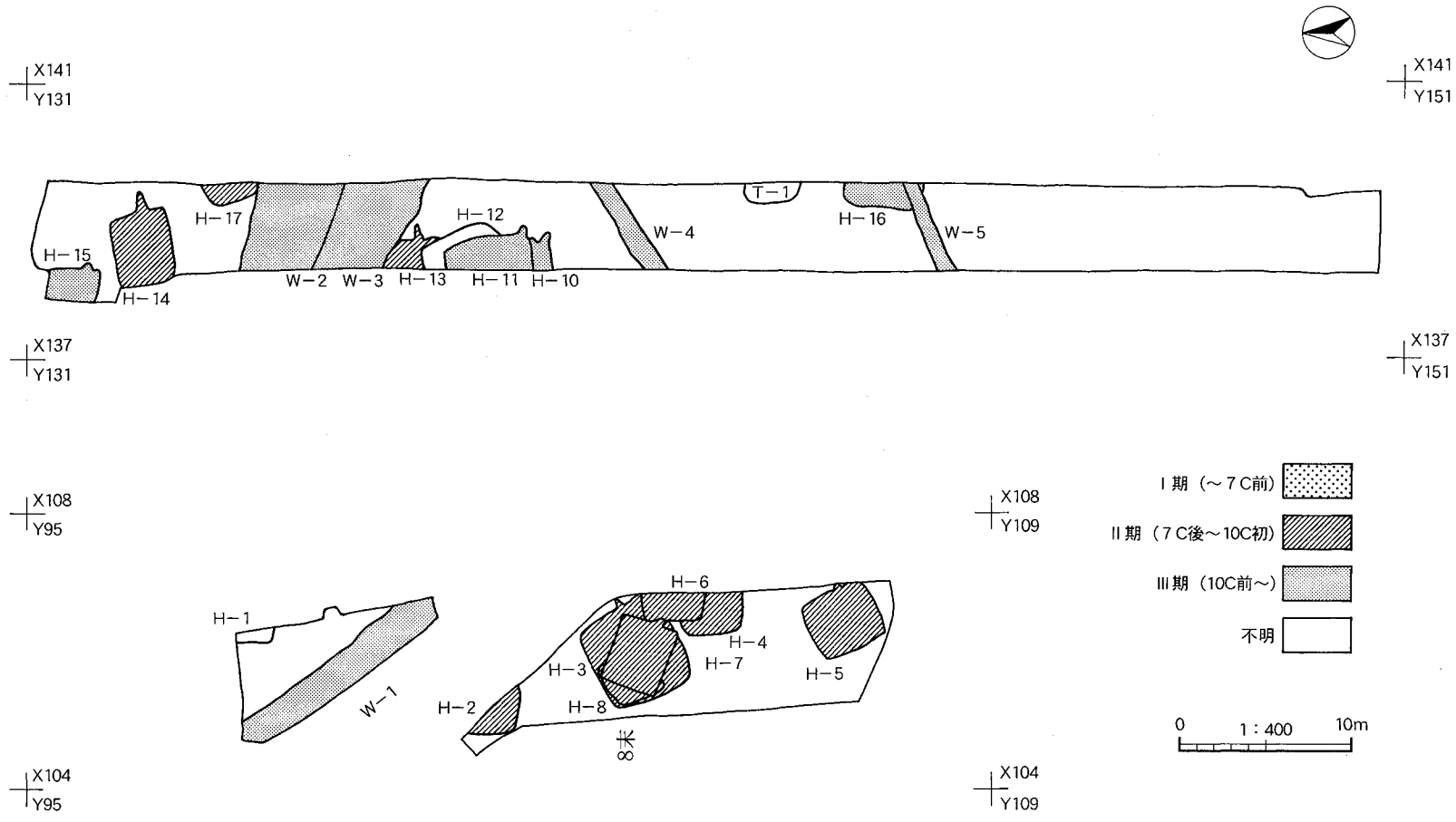


Fig. 7　元総社小見内Ⅷ遺跡／時期別の竪穴住居跡配置図

竪穴住居跡は、8世紀前半のものが5軒、8世紀後半のものが3軒、9世紀前半のものが1軒、9世紀中頃のものが1軒である。規模は東西辺3m～5mのものがほとんどで、主軸方向は律令期前半ではN—90°—E以下に集中するが、それ以降はばらつきがある。

ここで、特筆すべき住居跡が2軒ある。A区の8世紀前半のH—3とH—5である。規模はH—3が5mを越えるが、H—5は4m弱、主軸方向はともにN—60°—E前後であるのだが、両住居跡からは土師器坏が多量に出土している。H—3からは破片から想定して21個、H—5からは想定57個が出土しており、また、H—3からは須恵器台付長頸壺や須恵器台付盤が出土し、H—5からは須恵器大甕や須恵器擂り鉢が出土している。多量の土師器坏とともに特殊な須恵器が共伴していることから、これら2つの住居跡が厨屋的存在であった可能性が指摘でき、この近くに公的施設があった可能性も考えられる。

本遺跡では、8世紀前半竪穴住居跡が出現し、それらの規模と主軸方向はおおむね画一化する。そして、8世紀後半には若干住居跡が減り、9世紀前半・中頃にはまばらになる。さらに、本遺跡では掘立柱建物跡の検出がない。このことから、この周辺には国府創建期の土地利用に於いて大きな規制があったと考えられる。また、国分寺・国分尼寺創建期から住居跡が希薄になることから、国府や国分寺の維持管理に関わりのある人たちの一時的な存在も想定される。

III期では、竪穴住居跡4軒、竪穴状遺構1軒、溝跡5条と道路状遺構1条を検出した。竪穴住居跡と竪穴状遺構は、A区では検出されず、B区の半分辺りから北方で検出された。道路幅の狭い部分での調査のため確かなことは言えないが、過年度調査の元総社小見内III遺跡でA区の近くをみてみても、検出された遺構に竪穴住居跡がなく土坑墓や地下式土坑であることから、A区周辺は集落の周辺部であった可能性が高い。溝跡は、A区のW—1とB区のW—2は形状や埋土の状況に似ている部分が多くあり同一のものである可能性が高い（W—3とともに詳細については後述）。W—4・5は、ともに流水の形跡はなく形状や規模に近いものがあり、区画的な役割を果たしていたと思われるが、両溝跡が同時期に機能していたかは確かでない。

本調査区での住居跡の移り変わりを見てみると、8世紀前半から人々の生活が始まり、8世紀後半には人々の生活が希薄になり、国府・国分寺の機能が衰えてる9世紀後半には一時期中断する。そして、10世紀になって、また、住居跡の配置が濃密にみられるようになる。このことは、国府・国分寺周辺の土地利用に関する規制が、10世紀になると弱くなってきたと考えられ、この地域は国府・国分寺との強い関連のもとで集落形成がされてきたとの見方ができる。

(2) A区W—1号、B区W—2・3号溝跡について

A区W—1号溝跡は、東側のみの検出であるが主軸方向N—40°—Wで現道と平行している。形状は逆台形で、埋土には中間層・最下部層ともにAs-Bを含み、埋没していく過程で何枚かの硬化面があり、この溝を道路として利用していたと考えられる。このA区W—1号溝跡の北西約80mの国分尼寺寺域確認調査IIの第6トレンチでも同様な溝跡が検出されている。この溝跡も東側のみの検出であるが、主軸方向N—40°—Wで現道と平行しており、形状は逆台形で埋土にAs-Bが混じる。このことから、A区W—1号溝跡は、国分尼寺の南東隅から、約110m現道と平行して走行していることがほぼ確実と考えられる。

B区W—2号溝跡はW—3号溝跡と重複しているが、埋土に違いが見られず、最初は最大上幅9m以上の大溝であると思われた。調査を進めていく中で、初め形状が逆台形のW—2号溝跡が掘られ、次にW—2号溝跡の南辺部に形状がU字形のW—3号溝跡が掘られたことが確認できた。両溝跡とも主軸方向N—69°—Wで、埋土には中間層・最下部層ともにAs-Bを含み、埋没していく過程で何枚かの硬化面があり、これらの溝を道路として利用していたと考えられる。なお、W—2号溝跡とW—3号溝跡との間にどのくらいの時間差があるかは確定できていない。このW—2・3号溝跡の西約40mに位置する元総社小見内III遺跡でも、同様な溝跡が検出されている。その溝跡は、主軸方向N—89°—E、形状が逆台形で、埋土にAs-Bを含み、埋没していく過程で何枚かの硬化面がある。さらに、その溝跡が湾曲して同遺跡の他の溝跡につながる可能性も指摘している。

本遺跡の溝跡・国分尼寺寺域確認調査IIの溝跡・元総社小見内III遺跡の溝跡は、形状が逆台形で、埋土にAs-Bを含み、何枚かの硬化面を持つことなど共通の性格があり、主軸方向に大きな隔たりがありその屈曲部分の確認

はできていないが、同一の溝跡である可能性が高いと考える。さらに、これらの溝跡は、推定国府域と推定国分尼寺を結ぶ線上にあり、元々は国府に関連する溝跡であり、蒼海城の城郭形成に再度利用され、変遷を遂げてきた可能性もある。次年度以降の調査で明らかになることを期待したい。

(3) 瓦について

本遺跡地周辺では、山王廃寺・国府・国分寺衰退後に、そこで使われていた瓦を竪穴住居跡に持ち込んだとみられ、その時期や使われ方に統一性はみられない。今回の調査では、竪穴住居跡や土坑から瓦の出土があった。

瓦2・3（平　瓦）

中央部に箆書き有。胎土・焼成から山王廃寺の文字瓦に近い。

（山王廃寺第6次発掘調査報告書の区分…III類）

瓦10（平　瓦）

上部隅に箆書き文字『二』有。台之原廃寺で同様な文字有。東毛の瓦窯か。国分寺創建期。

2　総社甲稲荷塚大道西IV遺跡

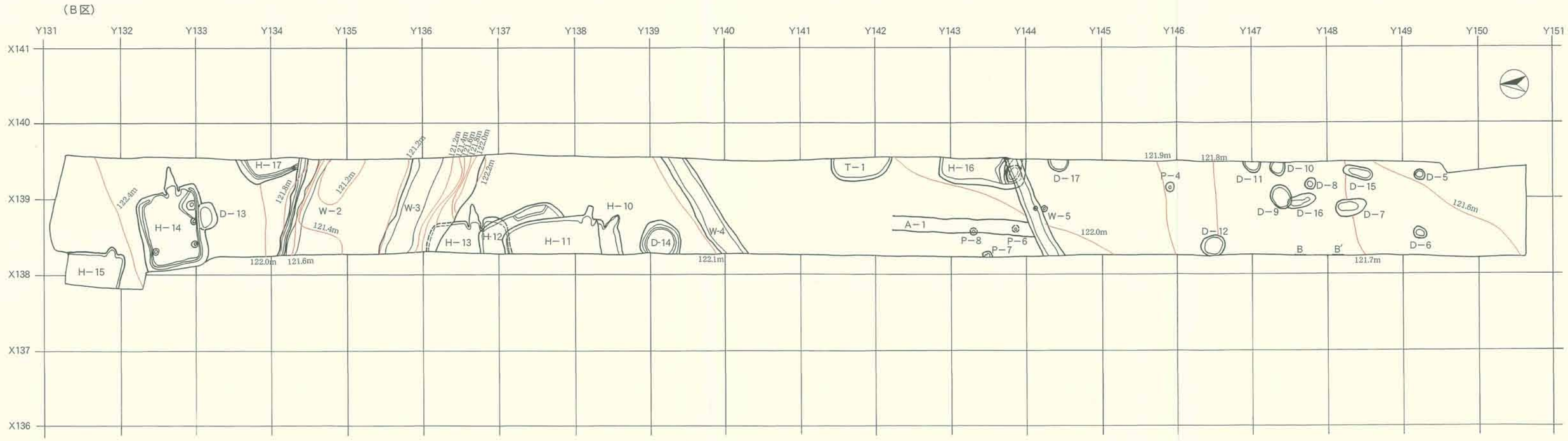
(1) 本遺跡の遺構について

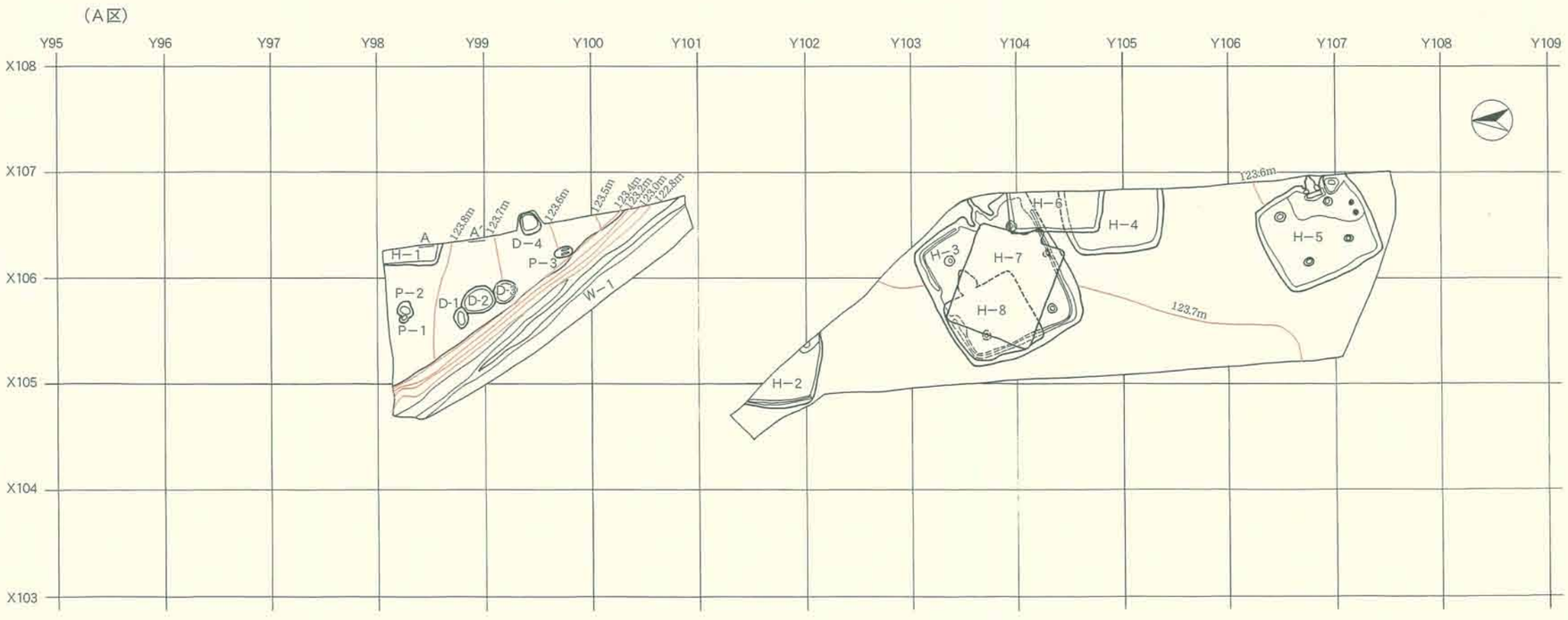
I期では、畠跡と溝跡1条を検出した。畠跡は、埋土からHr-FA降下以降から7世紀代と考えられ、溝跡もそれに伴うものと思われる。畠跡では、時期差は確定できないが3方向の耕作痕を検出した。一番古いものの主軸方向はN－37°－W、次に古いものの主軸方向はN－55°－E、一番新しいものの主軸方向はN－85°－Eである。溝跡の主軸方向N－30°－Wと耕作痕の主軸方向を考えると、溝跡は2番目に古いものに伴うものと考えられる。今回検出した畠跡は、総社甲稲荷塚大道西III遺跡で検出された畠跡の続きで、この辺りのY73グリッド線より北側は、当時の生産域であったことが想定される。

II期では遺構の検出はなかった。遺物の出土もほとんどなかったが、低い土地で、洪水等の影響で居住域としては適さないことから、I期と同じように生産域であった可能性が想定される。今後の調査で明らかになることを期待したい。

III期では、畠跡と溝跡4条、井戸跡1基、土坑3基、ピット39基を検出した。W－1・2・3については、流水の痕跡はなく、W－4は流水の痕跡があった。遺物の出土もほとんどないことから、III期に於いても、この辺りは生産域であったことが想定される。

〈参考文献〉
『前橋市史』 第1巻　1971　前橋市史編さん委員会
『群馬県史』 通史2　原始古代　1991　群馬県史編さん委員会
『文化財調査報告書第13集』 閑泉樋遺跡　1982　前橋市教育委員会
『元総社明神遺跡I～XIII』 1982～1997　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『上野国分僧寺・尼寺中間地域』(5)　1991　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『上野国分寺』 1988　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『上植木廃寺』概報　1987　伊勢崎市教育委員会
『山王廃寺発掘調査概報』第2次～第7次　1976～1982　前橋市教育委員会
『元総社寺田遺跡』I～III　1993～1996　群馬県埋蔵文化財調査事業団
『総社閑泉明神北遺跡』 1999　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『上野国分尼寺寺域確認調査』 2000　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『元総社宅地遺跡・上野国分尼寺寺域確認調査II』 2000　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『元総社蒼海遺跡群　総社甲稲荷塚大道西遺跡・総社閑泉明神北II遺跡・総社甲稲荷塚大道西II遺跡』 2001　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内III遺跡』 2001　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『元総社蒼海遺跡群　元総社小見内IV遺跡』 2002　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『元総社蒼海遺跡群　総社甲稲荷塚大道西III遺跡・総社閑泉明神北III遺跡』 2002　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『元総社蒼海遺跡群　元総社小見III遺跡・元総社草作V遺跡』 2002　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
『元総社蒼海遺跡群　元総社小見II遺跡』 2002　前橋市埋蔵文化財発掘調査団





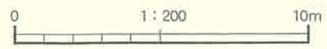
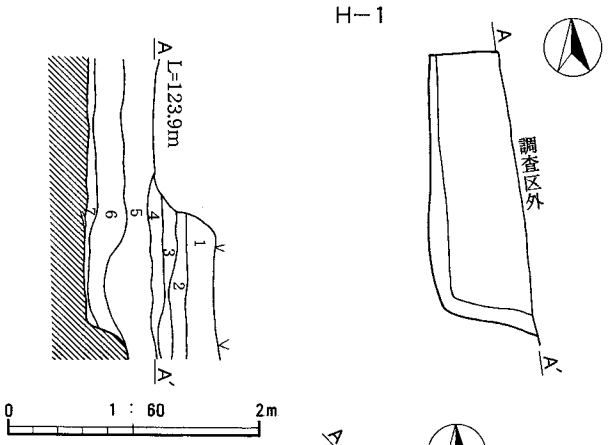
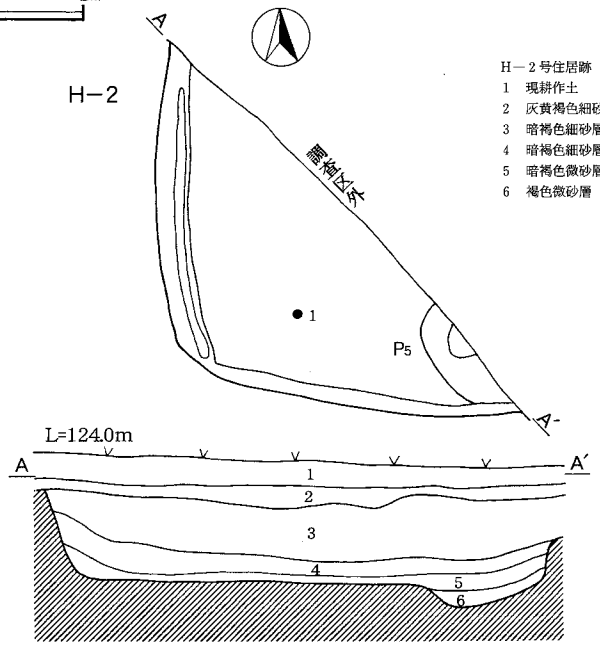


Fig. 8　元総社小見内Ⅷ遺跡全体図



H−1号住居跡　ベルトセクション

1	現耕作土		
2	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B 含む
3	黒褐色粗砂層	○×	As-B 混じる
4	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP・As-B 含む
5	暗褐色細砂層	◎○	As-C 多く含む、Hr-FP 含む
6	黒褐色微砂層	○◎	As-C 含む、Hr-FP わずかに含む、炭化物少なく含む
7	黒褐色微砂層	◎◎	As-C わずかに含む

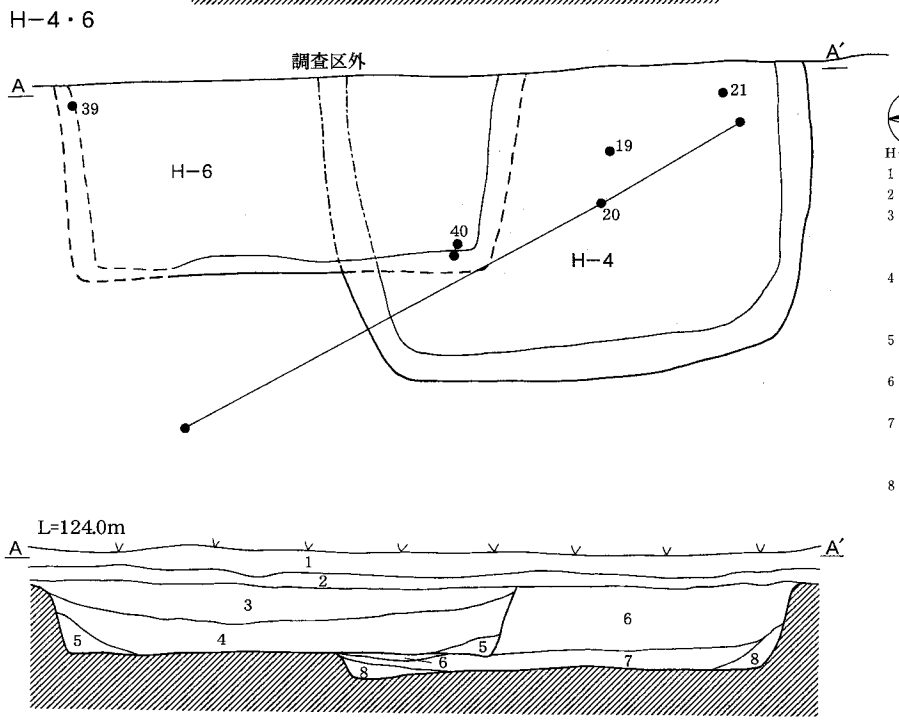


H−2号住居跡　ベルトセクション

1	現耕作土		
2	灰黄褐色細砂層	◎×	As-B 混じる
3	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP 多く含む、焼土粒少なく含む、炭化物わずかに含む
4	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP 少なく含む、南側に焼土粒含む
5	暗褐色微砂層	△◎	Hr-FP わずかに含む、南側に焼土粒多く含む、炭化物含む
6	褐色微砂層	△◎	Hr-FP わずかに含む、焼土粒・白色粘土多く含む、炭化物含む

H−2号住居跡柱穴計測表

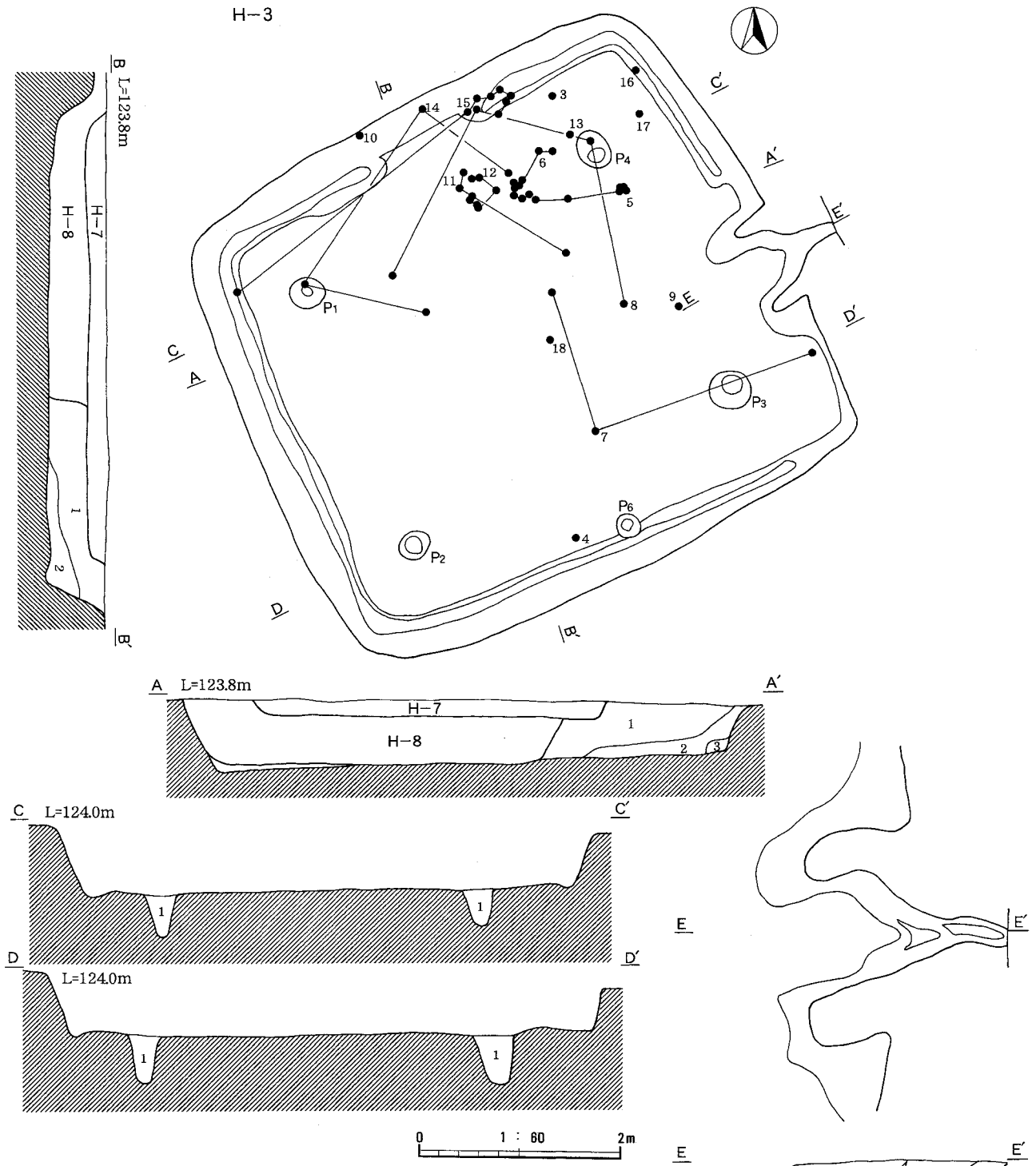
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_5	楕円形	(98)	(30)	(14)	貯蔵穴



H−4・6号住居跡　ベルトセクション

1	現耕作土		
2	灰黄褐色細砂層	○×	As-B 混じる
3	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP・As-B 含む、焼土粒・炭化物わずかに含む
4	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 多く含む、焼土粒含む、炭化物わずかに含む
5	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP 少なく含む、黄橙色土混じる
6	にぶい黄褐色細砂層	△○	Hr-FP 多く含む、焼土粒・炭化物含む
7	灰黄褐色細砂層	△○	Hr-FP 少なく含む、焼土粒含む、下部に粘土混じる
8	にぶい黄褐色微砂層	△○	As-C 多く含む、Hr-FP 含む

Fig. 9　元総社小見内Ⅷ遺跡／H−1・2・4・6号住居跡



H−3号住居跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	Hr-FP含む、焼土粒含む
2	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP少なく含む、黄橙色土混じる
3	にぶい褐微砂層色	○◎	崩れた粘土

H−3号住居跡　竈セクション

1	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP含む、焼土粒多く含む、炭化物少なく含む
2	灰黄褐色細砂層	△○	Hr-FP少なく含む、焼土粒含む、炭化物少なく含む
3	灰黄褐色微砂層	○◎	焼土粒含む
4	灰褐色微砂層	△◎	焼土粒含む

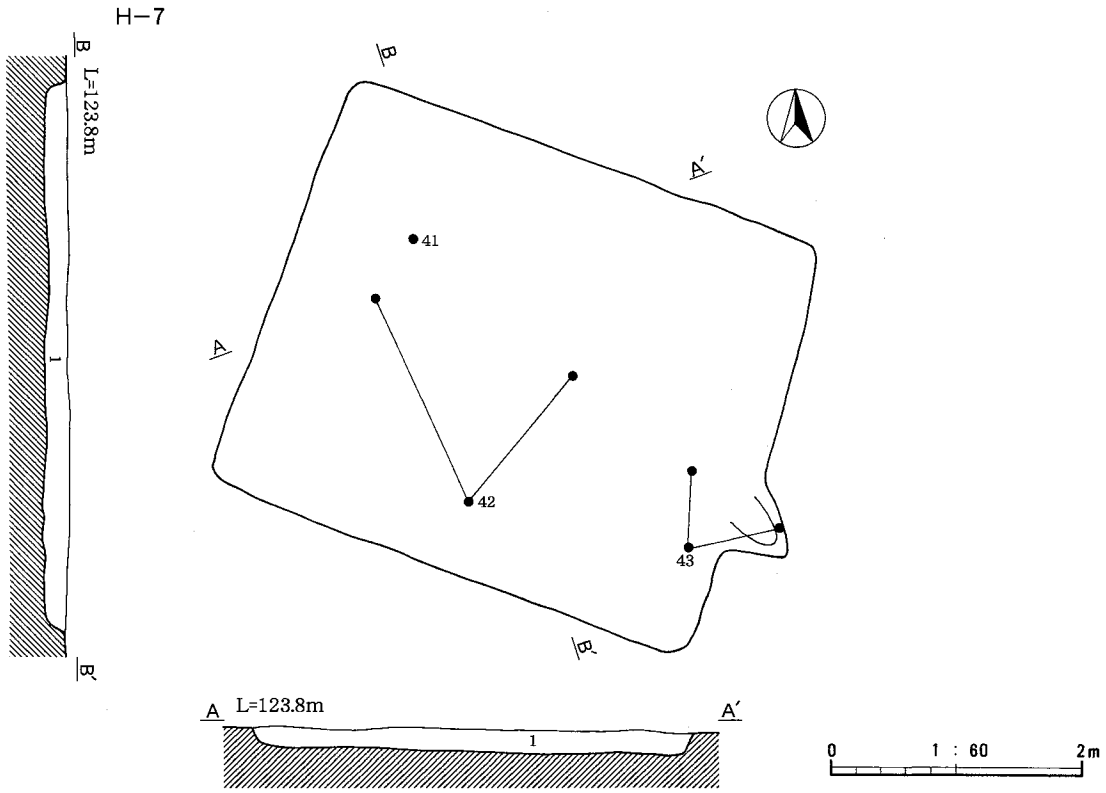
H−3号住居跡　P1・P2・P3・P4号柱穴セクション

1	暗褐色細砂層	△○	Hr-FP少なく含む

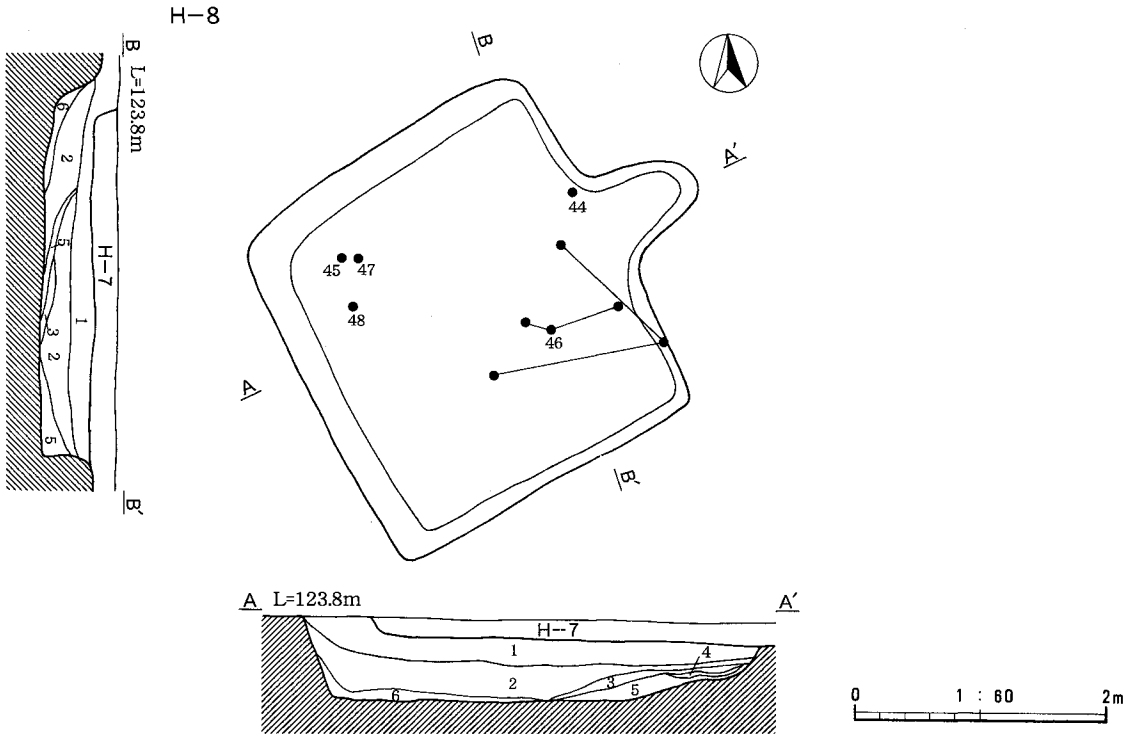
H−3号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_1	円　形	34	32	47	
P_2	楕円形	33	27	46.5	
P_3	円　形	40	36	51	
P_4	楕円形	38	28	36	
P_6	円　形	26	22	7.5	

Fig.10　元総社小見内Ⅷ遺跡／H−3号住居跡



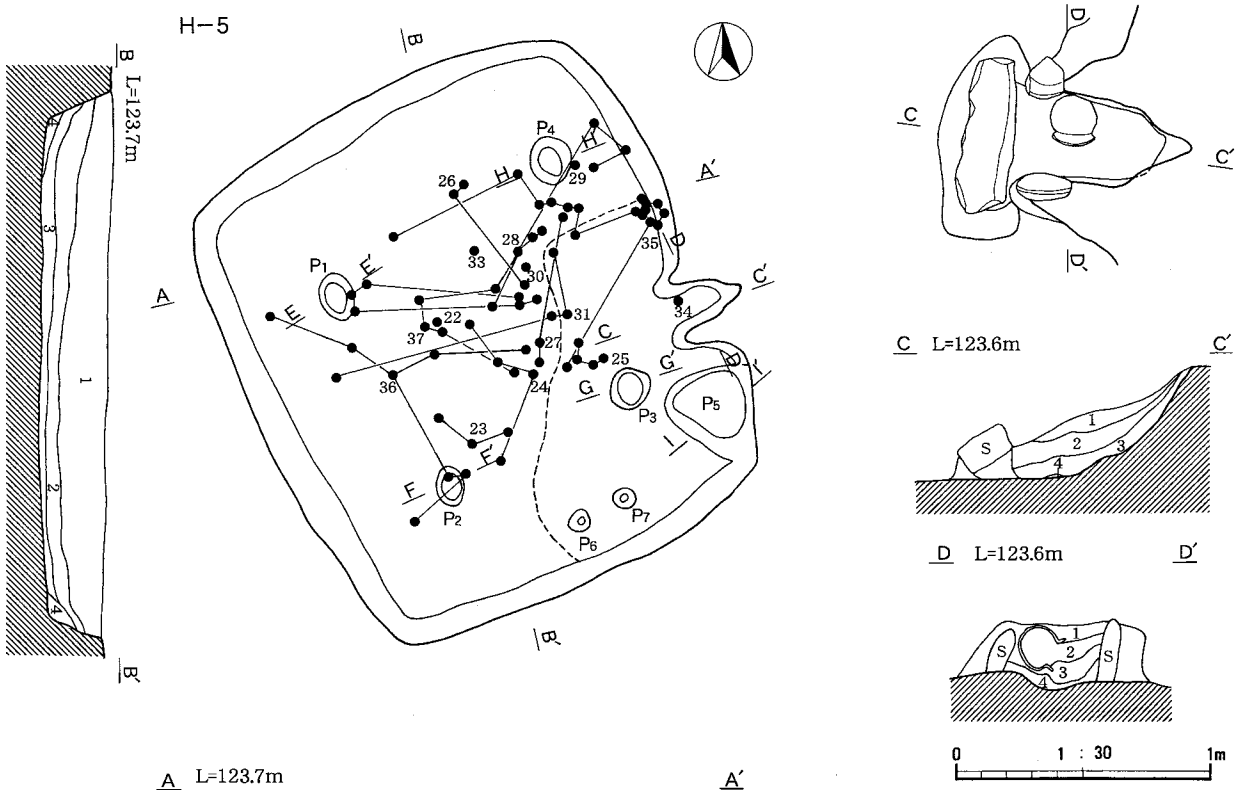
H−7号住居跡　ベルトセクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○○　Hr-FP多く含む、As-C少なく含む、焼土粒わずかに含む



H−8号住居跡　ベルトセクション

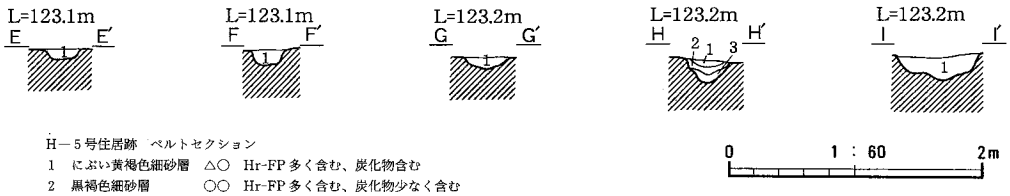
1	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP含む、焼土粒含む
2	黒褐色細砂層	○○	Hr-FP少なく含む
3	黒褐色細砂層	△○	Hr-FPわずかに含む、焼土粒わずかに含む
4	灰褐色微砂層	△◎	Hr-FP少なく含む、焼土粒含む、灰混じる
5	橙色微砂層	△×	
6	灰褐色微砂層	△◎	炭化物含む、灰混じる

Fig.11　元総社小見内Ⅷ遺跡／H−7・8号住居跡



H−5号住居跡　竈セクション

1　にぶい黄褐色細砂層　△○　粘土粒含む
2　灰黄褐色細砂層　△○　粘土粒含む、焼土粒わずかに含む
3　灰黄褐色微砂層　△◎　粘土多く混じる
4　にぶい黄褐色微砂層　△○　焼土粒・粘土粒含む



H−5号住居跡　ベルトセクション

1　にぶい黄褐色細砂層　△○　Hr-FP多く含む、炭化物含む
2　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP多く含む、炭化物少なく含む
3　暗褐色細砂層　○○　Hr-FP少なく含む
4　にぶい黄褐色微砂層　△○　黄橙色土混じる

H−5号住居跡　P1・P2・P3・P5号柱穴セクション

1　灰黄褐色細砂層　○△　黄橙色土混じる

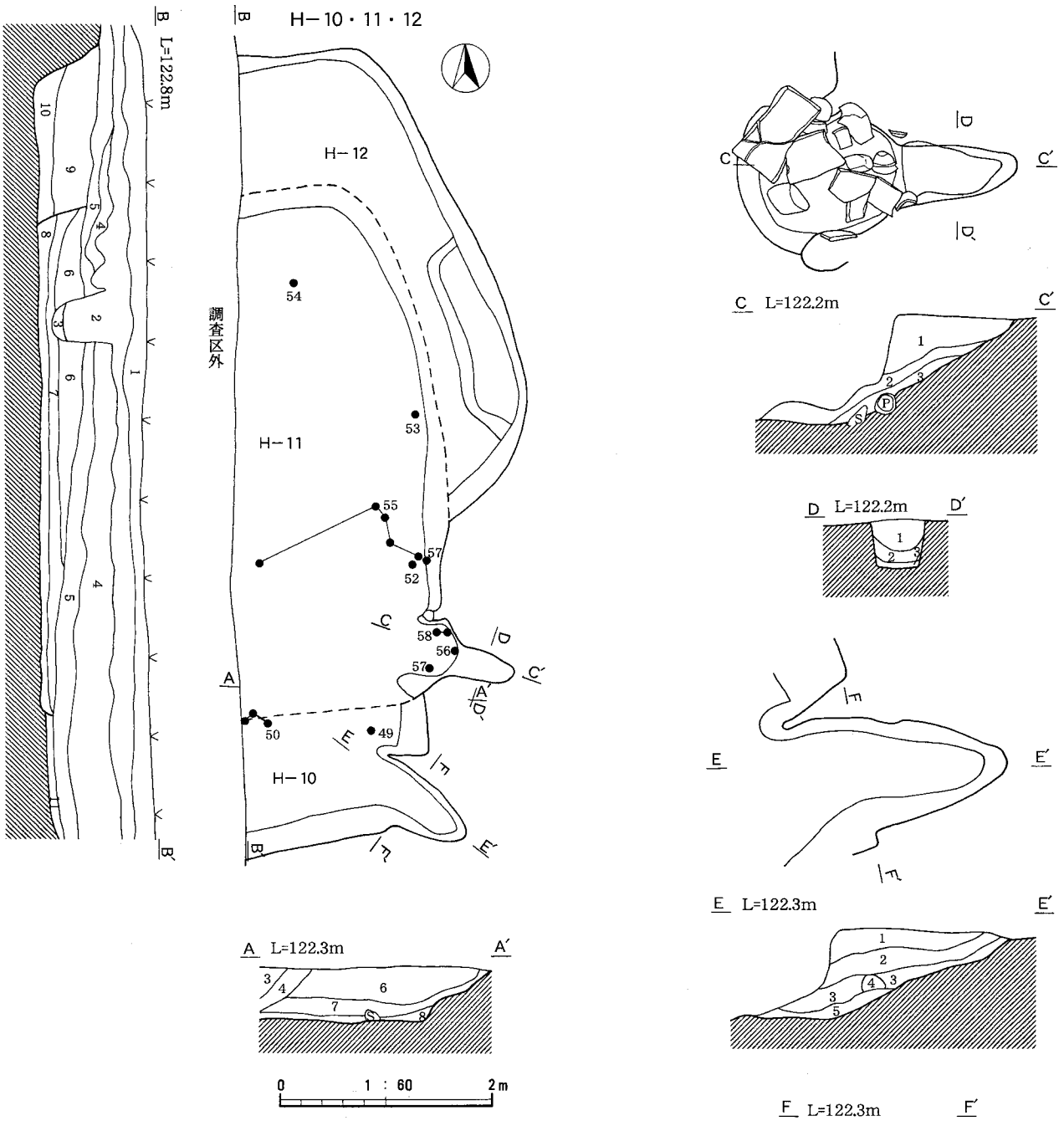
H−5号住居跡　P4号柱穴セクション

1　灰黄褐色微砂層　△◎　白色粘土系焼土粒含む
2　にぶい黄橙色細砂層　△×
3　灰黄褐色細砂層　○△　黄橙色土混じる

H−1号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_1	楕円形	39	28	12.5	
P_2	楕円形	30	23	15	
P_3	円　形	33	32	18	
P_4	円　形	37	34	23	
P_5	楕円形	63	55	29	貯蔵穴
P_6	円　形	19	17	12	
P_7	円　形	17	17	11	

Fig.12　元総社小見内Ⅷ遺跡／H−5号住居跡



H－10・11・12住居跡　ベルトセクション

1	現耕作土		
2	にぶい黄褐色細砂層	○△	
3	にぶい黄褐色細砂層	×○	
4	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B混じる
5	にぶい黄褐色細砂層	○○	Hr-FP・As-B含む
6	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、炭化物わずかに含む、H－11覆土
7	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、黄橙色ブロック・炭化物わずかに含む、H－11覆土
8	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP少なく含む、H－11覆土
9	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む、炭化物わずかに含む、H－12覆土
10	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む、H－12覆土
11	黒褐色細砂層	○○	Hr-FP少なく含む、黄橙色土わずかに混じる、H－10覆土

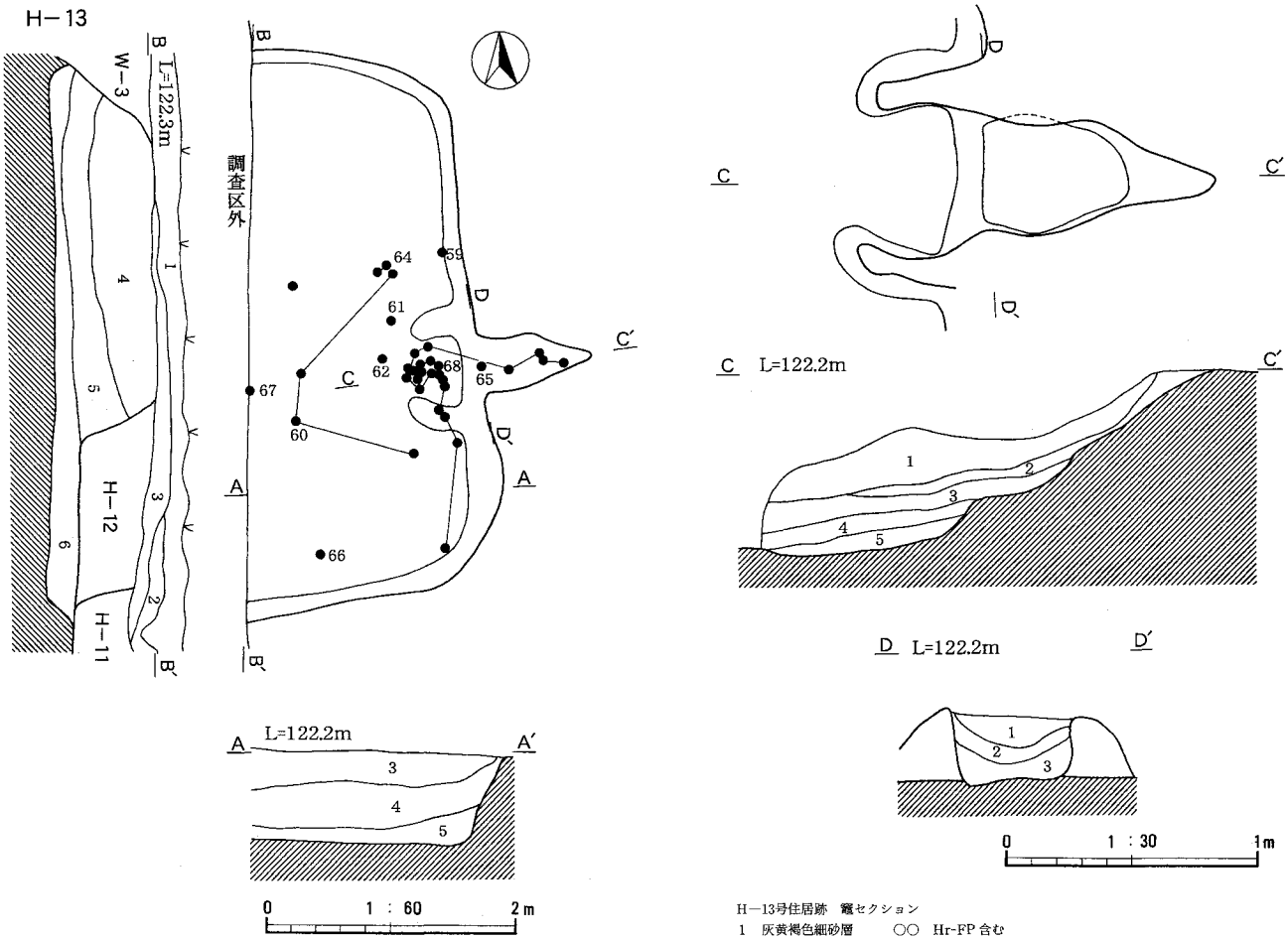
H－10号住居跡　竈セクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	Hr-FP含む
2	黒褐色細砂層	○○	Hr-FP少なく含む、焼土粒少なく含む
3	灰褐色細砂層	○◎	焼土粒・炭化物含む
4	明褐色微砂層	◎×	焼土ブロック
5	褐色微砂層	△◎	灰層

H－11号住居跡　竈セクション

1	灰黄褐色細砂層	○○	Hr-FP少なく含む、下部に焼土粒含む
2	灰褐色細砂層	○○	Hr-FPわずかに含む、焼土粒含む
3	黒褐色微砂層	△○	灰層

Fig.13　元総社小見内Ⅷ遺跡／H－10～12号住居跡

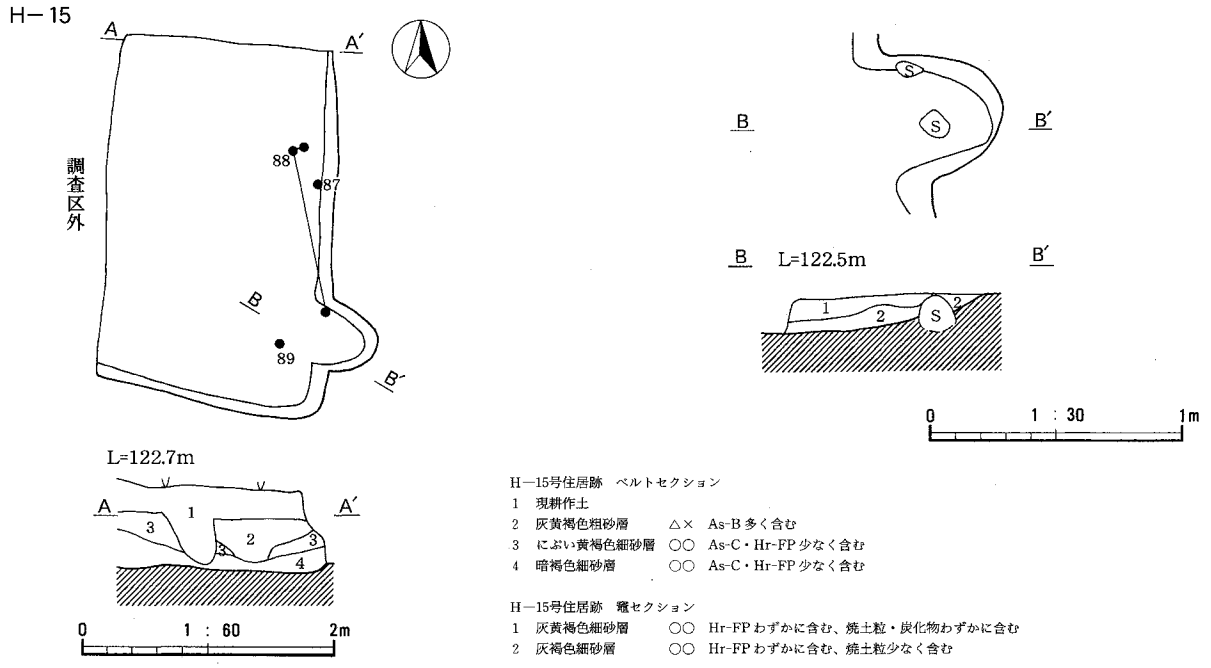


H－13住居跡　ベルトセクション

1　現耕作土
2　にぶい黄褐色細砂層　○△
3　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B 混じる
4　灰黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 含む
5　にぶい黄褐色細砂層　○○　Hr-FP 多く含む、As-C 含む、下部に黄橙色ブロック含む
6　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP 少なく含む、白色粘土ブロック少なく含む

H－13号住居跡　竈セクション

1　灰黄褐色細砂層　○○　Hr-FP 含む
2　灰褐色細砂層　○○　焼土粒・焼土ブロック含む
3　褐色細砂層　○○　焼土ブロック含む、炭化物わずかに含む
4　灰褐色細砂層　○○　Hr-FP 少なく含む、焼土粒・焼土ブロック含む
5　黒褐色細砂層　○○　白色粘土多く含む、焼土粒・炭化物含む



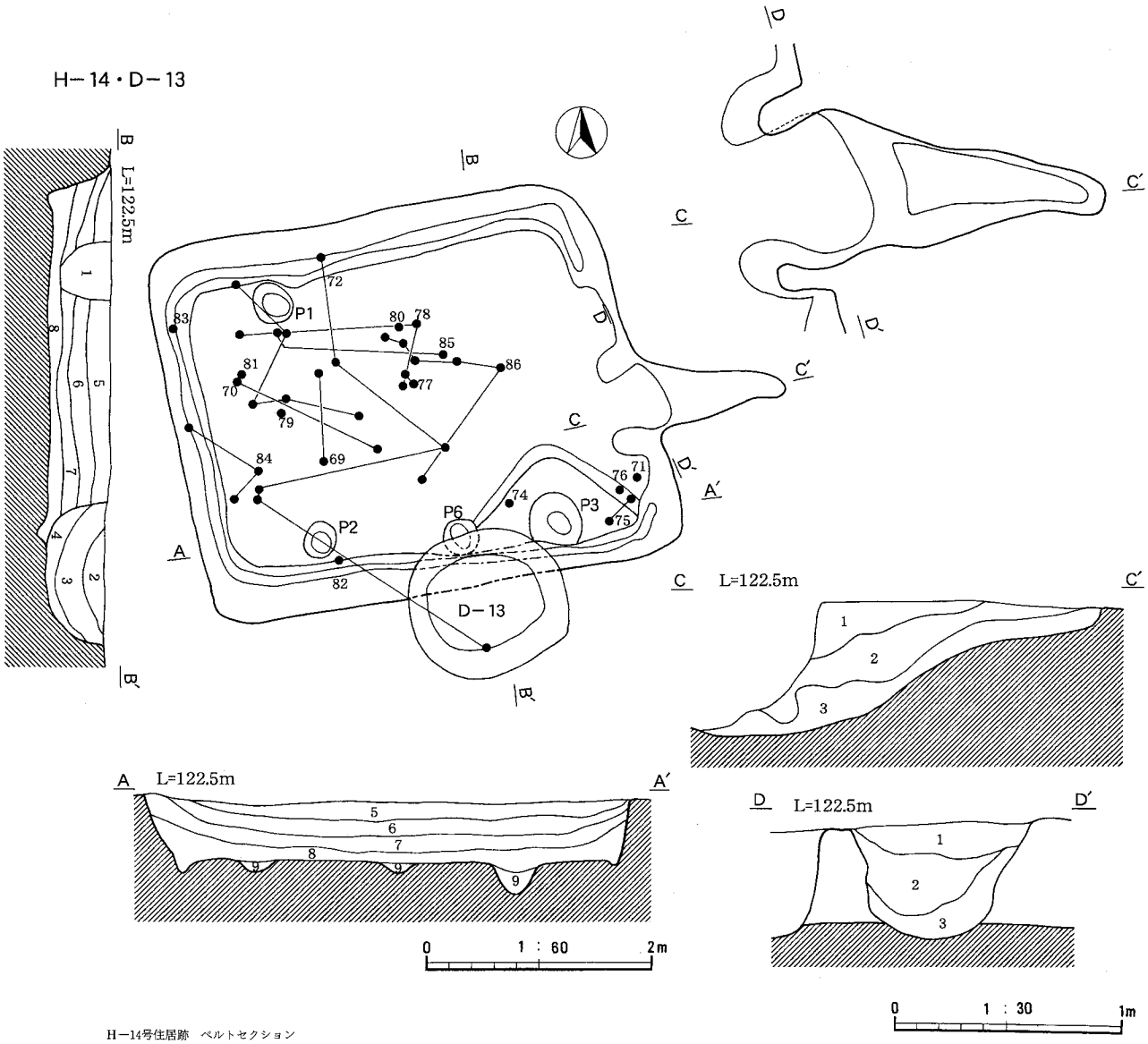
H－15号住居跡　ベルトセクション

1　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　△×　As-B 多く含む
3　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 少なく含む
4　暗褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP 少なく含む

H－15号住居跡　竈セクション

1　灰黄褐色細砂層　○○　Hr-FP わずかに含む、焼土粒・炭化物わずかに含む
2　灰褐色細砂層　○○　Hr-FP わずかに含む、焼土粒少なく含む

Fig.14　元総社小見内Ⅷ遺跡／H－13・15号住居跡



H－14号住居跡　ベルトセクション

1　灰黄褐色粗砂層　△×　As-B多く含む
2　にぶい黄褐色細砂層　△○　黄橙色土わずかに混じる
3　灰黄褐色細砂層　△○　炭化物わずかに含む、黄橙色土わずかに混じる、D－13覆土
4　にぶい黄褐色細砂層　△○　黄橙色土少なく混じる、D－13覆土
5　灰黄褐色細砂層　○○　Hr-FP・As-Bわずかに含む、D－13覆土
6　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FPわずかに含む
7　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP少なく含む、黄橙色ブロックわずかに含む、北側に炭化物の層あり
8　にぶい黄褐色細砂層　△○　Hr-FPわずかに含む、黄橙色土混じる
9　にぶい黄褐色細砂層　△◎　黄橙色土混じる

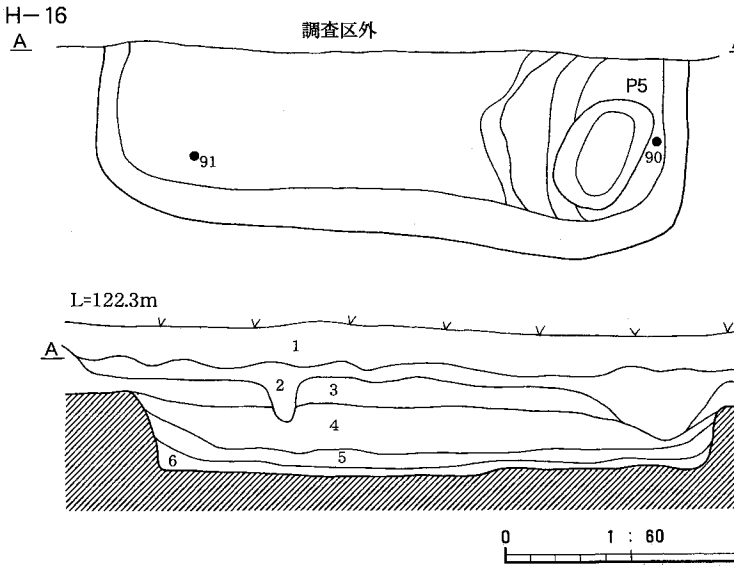
H－14号住居跡　竈セクション

1　灰黄褐色細砂層　△○　As-C・Hr-FP・As-B含む
2　にぶい黄褐色細砂層　○○　Hr-FP含む、白色粘土ブロック少なく含む
3　にぶい黄褐色細砂層

H－14号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_1	楕円形	43	32	13	
P_2	円　形	33	29	15	
P_3	楕円形	50	43	35	
P_6	円　形	31	28	11	

Fig.15　元総社小見内Ⅷ遺跡／H－14号住居跡

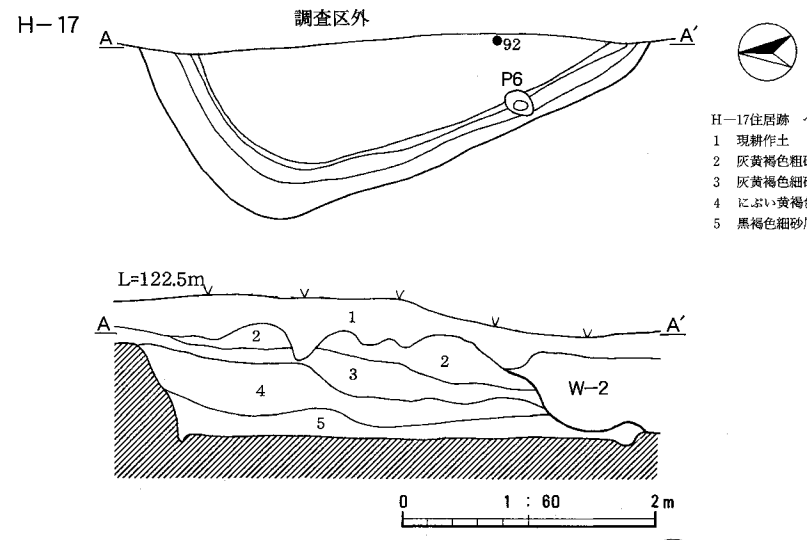


H－16号住居跡　ベルトセクション

1　現耕作土
2　褐灰色細砂層　△△　As-C少なく含む、As-B混じる
3　黒褐色細砂層　○○　As-C含む、Hr-FP・As-B少なく含む
4　黒褐色細砂層　○○　As-C含む、Hr-FP少なく含む
5　黒褐色細砂層　○○　As-C含む、茶色粘土ブロック含む、茶色い軽石少なく含む
6　黒褐色細砂層　○○　As-C・Hr-FP少なく含む、茶色粘土ブロック少なく含む
7　にぶい黄褐色細砂層　◎○　As-C少なく含む、炭化物少なく含む

H－16号住居跡柱穴計測表

No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_5	楕円形	92	61	26	貯蔵穴

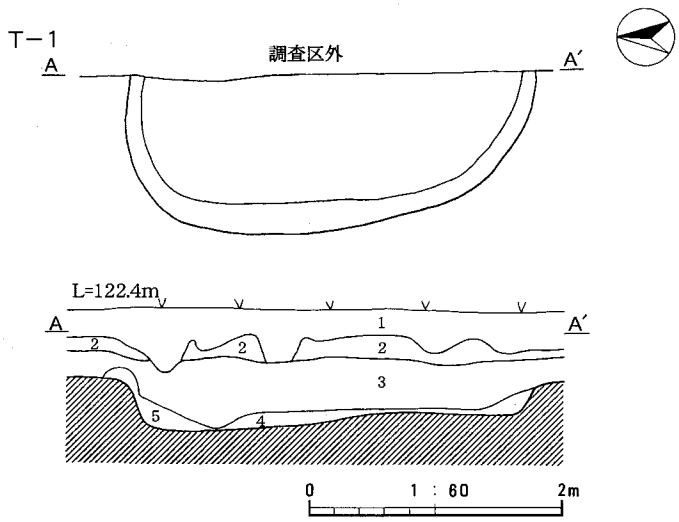


H－17住居跡　ベルトセクション

1　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B混じる
3　灰黄褐色細砂層　○○　Hr-FP・As-B含む
4　にぶい黄褐色細砂層　○○　Hr-FP含む、黄橙色ブロック少なく含む
5　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP含む、黄橙色ブロック含む

H－17号住居跡柱穴計測表

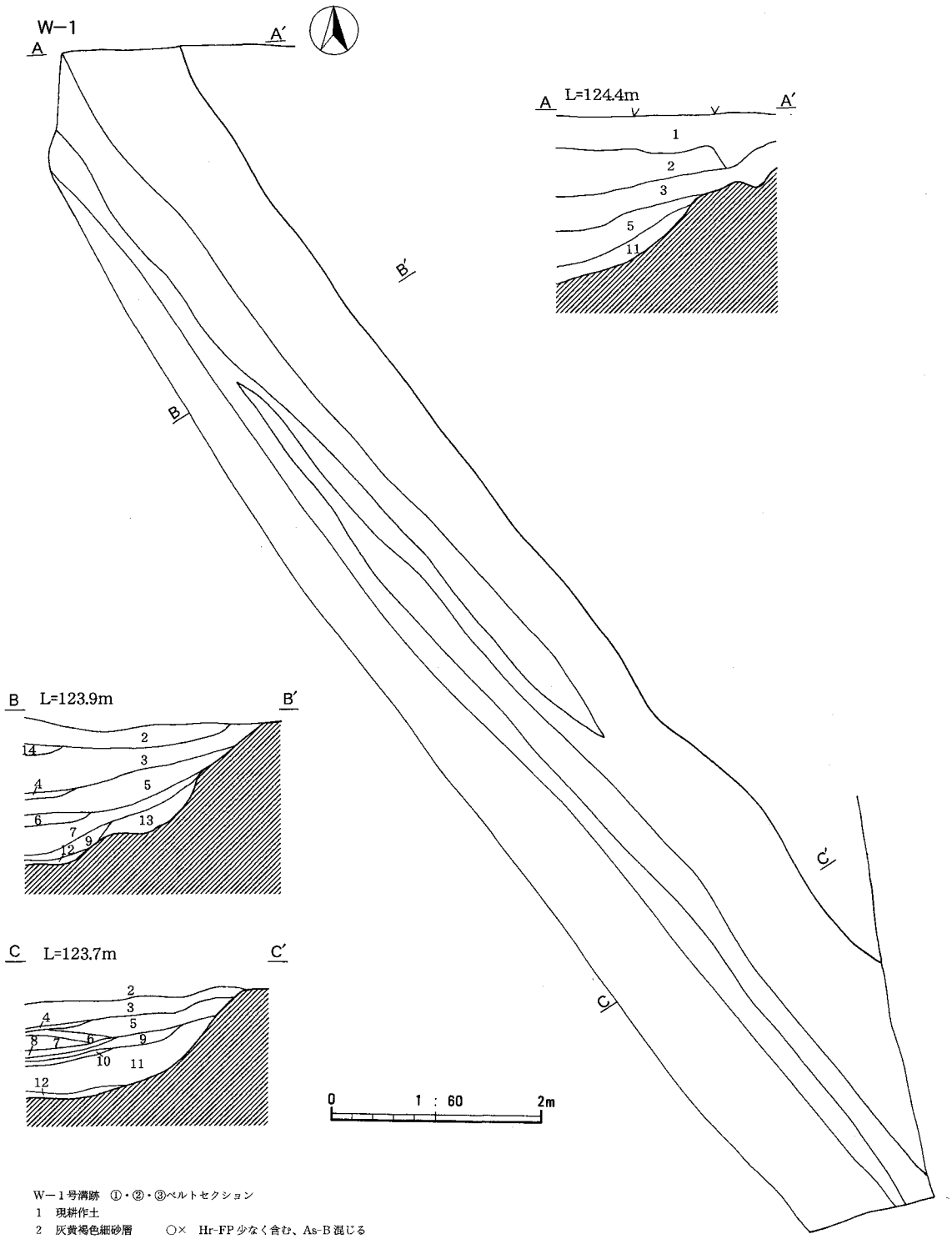
No.	形状	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	備考
P_6	楕円形	21	17	23.5	



T－1号竪穴状遺構　ベルトセクション

1　現耕作土
2　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B多く含む、Hr-FPわずかに含む
3　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP・As-B含む
4　黒褐色細砂層　○○　Hr-FP・As-B含む、黄橙色土混じる
5　にぶい黄褐色微砂層　○◎

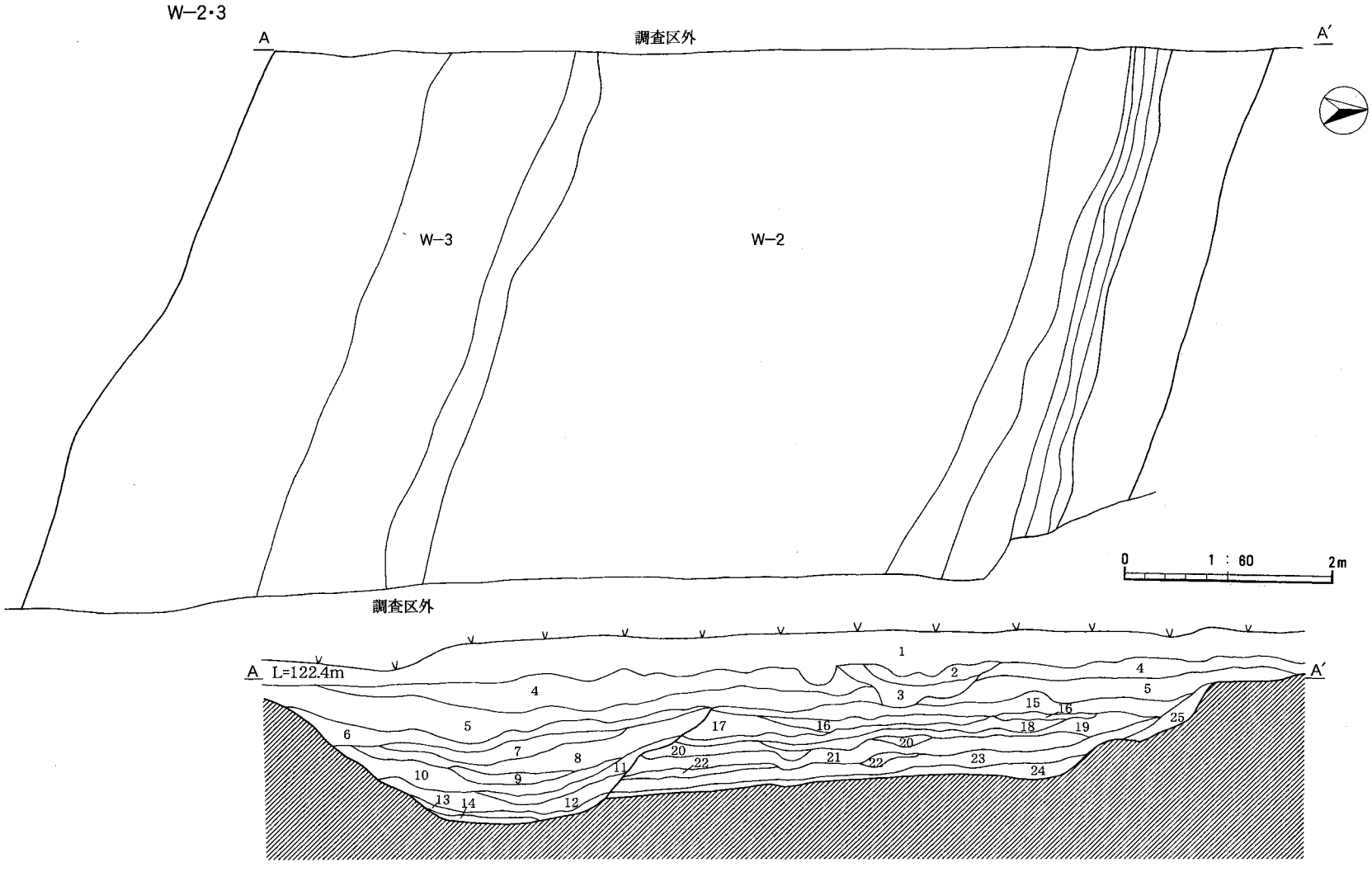
Fig.16　元総社小見内Ⅷ遺跡／H－16・17号住居跡、T－1号竪穴状遺構



W−1号溝跡　①・②・③ベルトセクション

1	現耕作土		
2	灰黄褐色細砂層	○×	Hr-FP少なく含む、As-B混じる
3	灰黄褐色細砂層	◎○	As-B含む、硬化面
4	灰黄褐色細砂層	○×	As-B含む、Hr-FPわずかに含む
5	灰黄褐色細砂層	◎×	As-B含む、硬化面
6	にぶい黄褐色細砂層	○×	As-B含む
7	黒褐色粗砂層	◎×	As-B含む、硬化面、砂利層
8	黒褐色粗砂層	○×	As-B含む、炭化物わずかに含む、砂利層
9	褐灰色細砂層	◎×	As-B含む、硬化面、砂利層
10	にぶい黄褐色細砂層	△×	As-B含む、Hr-FPわずかに含む
11	褐灰色細砂層	◎×	As-B含む、硬化面、砂利層
12	暗褐色細砂層	○○	As-B含む、Hr-FP少なく含む
13	にぶい黄褐色細砂層	◎○	As-B含む
14	暗褐色細砂層	○○	As-B含む、Hr-FPわずかに含む、黄橙色ブロック含む

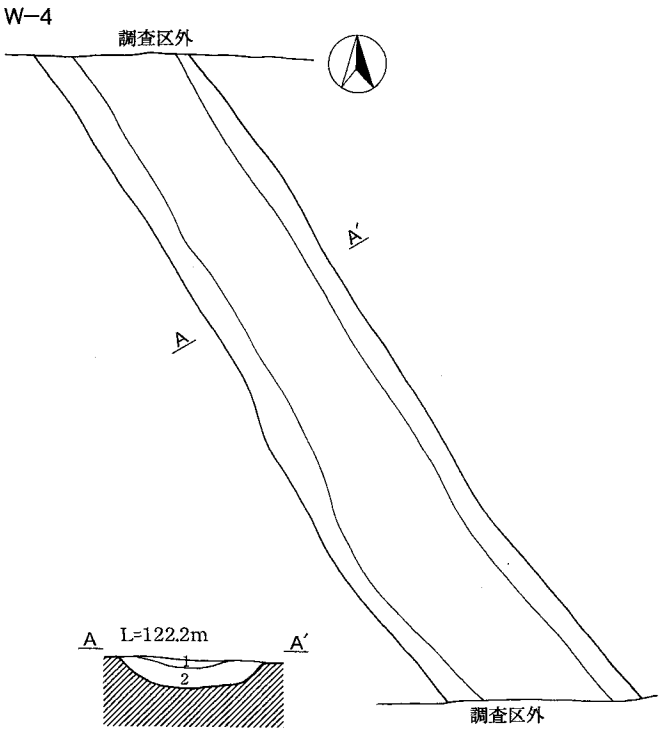
Fig.17　元総社小見内Ⅷ遺跡／W−1号溝跡



W−2・3号溝跡　西壁セクション

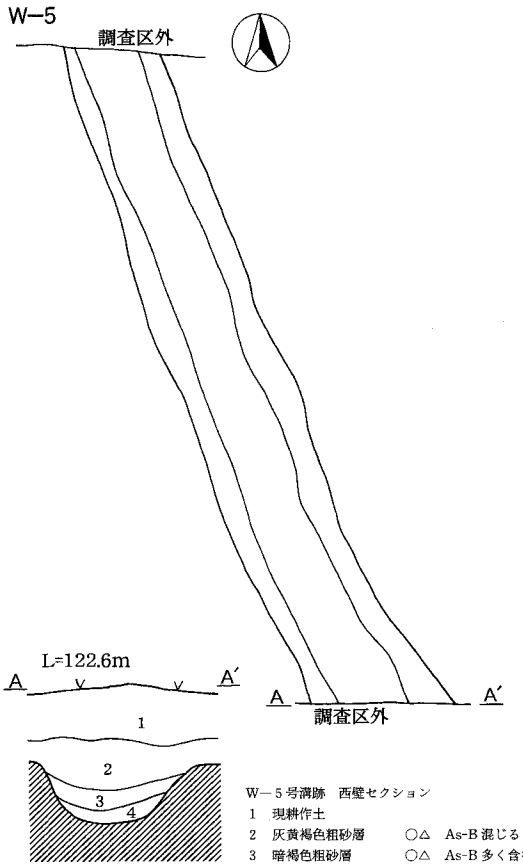
1　現耕作土
2　にぶい黄褐色細砂層　○×
3　にぶい黄褐色細砂層　○△
4　にぶい黄褐色細砂層　◎○　As-B含む、Hr-FPわずかに含む
5　灰黄褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FPわずかに含む
6　灰黄褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FP少なく含む、W−3覆土
7　暗褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FP少なく含む、下部に砂利含む、W−3覆土
8　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利含む、炭化物わずかに含む、W−3覆土
9　灰黄褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利含む、炭化物少なく含む、W−3覆土
10　暗褐色細砂層　○○　Hr-FP・As-B含む、砂利含む、炭化物少なく含む、中央上部硬化面、W−3覆土
11　灰黄褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利含む、W−3覆土
12　灰黄褐色粗砂層　○△　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利多く含む、W−3覆土
13　暗褐色細砂層　○◎　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利含む、上部硬化面、W−3覆土
14　暗褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利含む、黄橙色ブロックわずかに含む、上部硬化面、W−3覆土
15　灰黄褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利含む、炭化物少なく含む、上部硬化面、W−2覆土
16　暗褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利含む、炭化物少なく含む、W−2覆土
17　灰黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FPわずかに含む、砂利多く含む、W−2覆土
18　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FP少なく含む、砂利含む、W−2覆土
19　にぶい黄褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FP少なく含む、砂利少なく含む、W−2覆土
20　暗褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FP少なく含む、砂利少なく含む、W−2覆土
21　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む、砂利多く含む、南側上部硬化面、W−2覆土
22　暗褐色細砂層　○○　As-B含む、Hr-FP少なく含む、砂利多く含む、南側上部硬化面、W−2覆土
23　暗褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む、砂利多く含む、南側上部硬化面、W−2覆土
24　暗褐色粗砂層　○×　As-B含む、Hr-FP少なく含む、砂利多く含む、南側上部硬化面、W−2覆土
25　黒褐色細砂層　○○　As-B含む、As-C・Hr-FP少なく含む、W−2覆土

Fig.18　元総社小見内VIII遺跡／W−2・3号溝跡



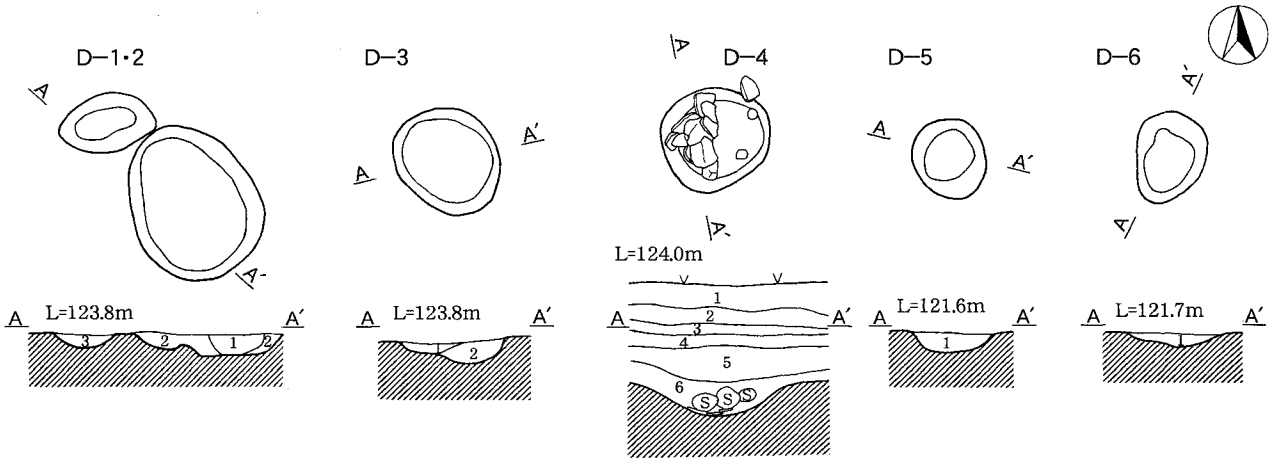
W−4号溝跡　ベルトセクション

1	灰黄褐色粗砂層	△×	As-B多く含む
2	黒褐色粗砂層	○△	As-B多く含む、Hr-FPわずかに含む



W−5号溝跡　西壁セクション

1	現耕作土		
2	灰黄褐色粗砂層	○△	As-B混じる
3	暗褐色粗砂層	○△	As-B多く含む
4	黒褐色粗砂層	△△	As-B多く含む
5	灰黄褐色細砂層	○○	Hr-FP含む
6	黒褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む



D−1・2号土坑セクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
2	灰黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP多く含む
3	灰黄褐色細砂層	△○	As-B含む

D−3号土坑セクション

1	灰黄褐色細砂層	△○	As-B含む
2	暗褐色細砂層	○◎	径の大きいHr-FP含む、As-C含む

D−4号土坑セクション

1	現耕作土		
2	灰黄褐色粗砂層	○×	As-B混じる
3	にぶい黄褐粗砂層色	○×	As-B混じる
4	暗褐色細砂層	○○	Hr-FP・As-B含む
5	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FP含む
6	黒褐色細砂層	○○	As-C多く含む

D−5号土坑セクション

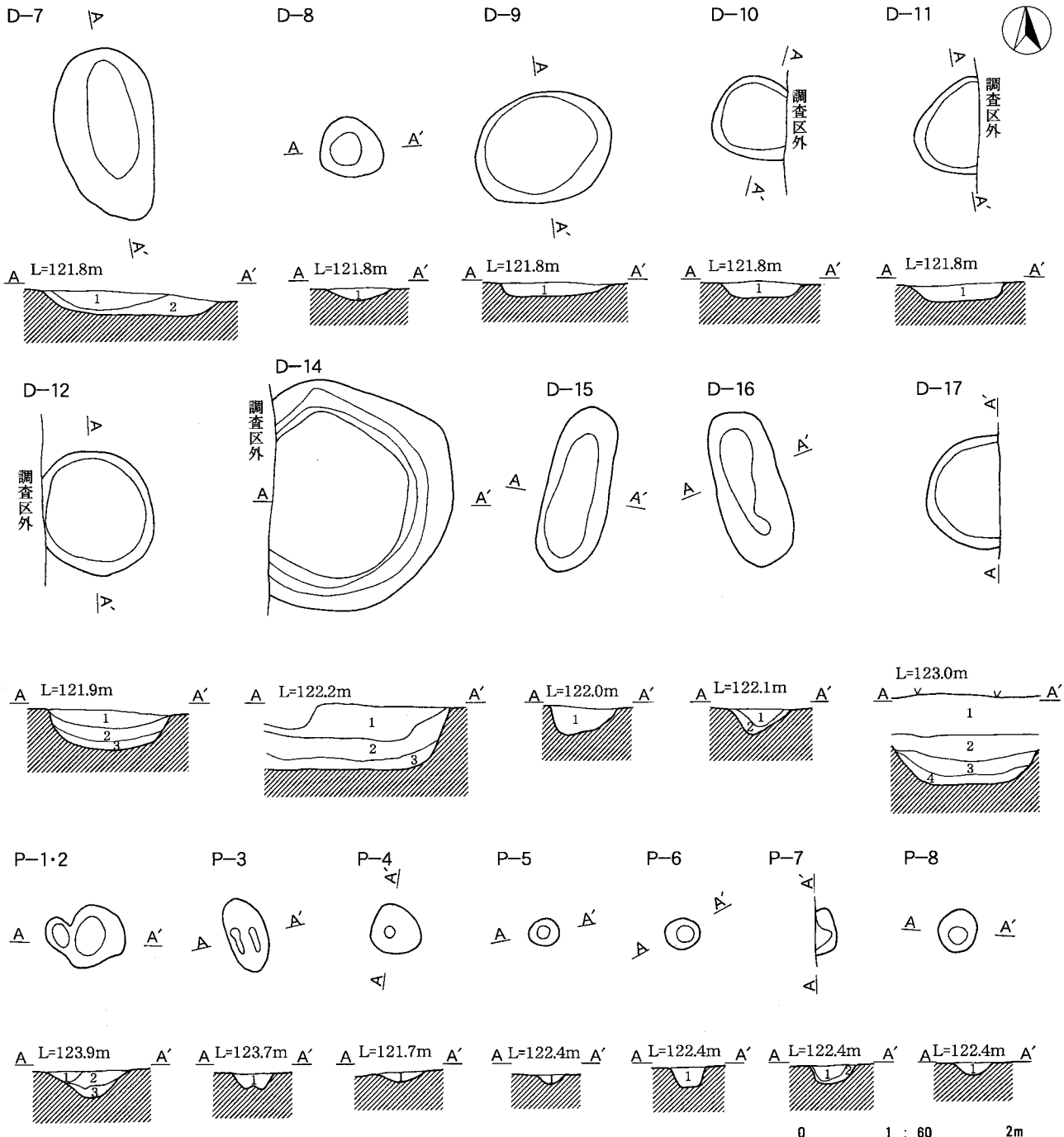
1	暗褐色細砂層	○○	As-C含む、Hr-FP少なく含む

D−6号土坑セクション

1	暗褐色細砂層	○○	As-C含む、Hr-FP少なく含む

0　1：60　2m

Fig.19　元総社小見内Ⅷ遺跡／W−4・5号溝跡、D−1〜6号土坑



D−7号土坑セクション
1 暗褐色細砂層 ○○ As-C含む
2 黒褐色細砂層 ○○ As-C含む

D−8号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP少なく含む

D−9号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 ○△ As-B多く含む、As-C含む、Hr-FP少なく含む

D−10号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 ○△ As-B多く含む、As-C含む、Hr-FP少なく含む

D−11号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP少なく含む

D−12号土坑セクション
1 灰黄褐色粗砂層 ○△ As-B多く含む
2 黒褐色粗砂層 ○△ As-B多く含む、Hr-FPわずかに含む
3 暗褐色細砂層 ○○ As-B含む

D−14号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 △○ As-C・As-B含む、茶色い軽石少なく含む
2 黒褐色細砂層 △○ As-C含む、As-B少なく含む、ロームブロック少なく含む
3 黒褐色細砂層 △○ As-C少なく含む、ロームブロック含む

D−15号土坑セクション
1 暗褐色粗砂層 ○△ As-C含む、茶色い軽石少なく含む

D−16号土坑セクション
1 黒褐色細砂層 ○○ As-C含む
2 暗褐色細砂層 ○○ As-C含む

D−17号土坑セクション
1 現耕作土
2 暗褐色粗砂層 ○△ As-C含む、茶色い軽石少なく含む
3 黒褐色細砂層 ○○ As-C・As-B含む
4 黒褐色細砂層 ○○ As-C含む、As-B少なく含む

P−1・2号柱穴セクション
1 暗褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP少なく含む
2 暗褐色細砂層 ○○ As-C含む
3 黒褐色微砂層 △◎ As-Cわずかに含む

P−3号柱穴セクション
1 黒褐色細砂層 ○◎ As-Cわずかに含む

P−4号柱穴セクション
1 黒褐色細砂層 ○○ As-C・Hr-FP少なく含む

P−5号柱穴セクション
1 褐灰色細砂層 △○

P−6号柱穴セクション
1 暗褐色粗砂層 ○△ As-C含む、茶色い軽石少なく含む

P−7号柱穴セクション
1 暗褐色粗砂層 ○△ As-C含む、茶色い軽石少なく含む
2 黒褐色細砂層 ○○ As-C少なく含む

P−8号柱穴セクション
1 暗褐色粗砂層 ○△ As-C含む、茶色い軽石少なく含む

Fig.20 元総社小見内Ⅷ遺跡／D−7〜17号土坑、P−1〜8号ピット

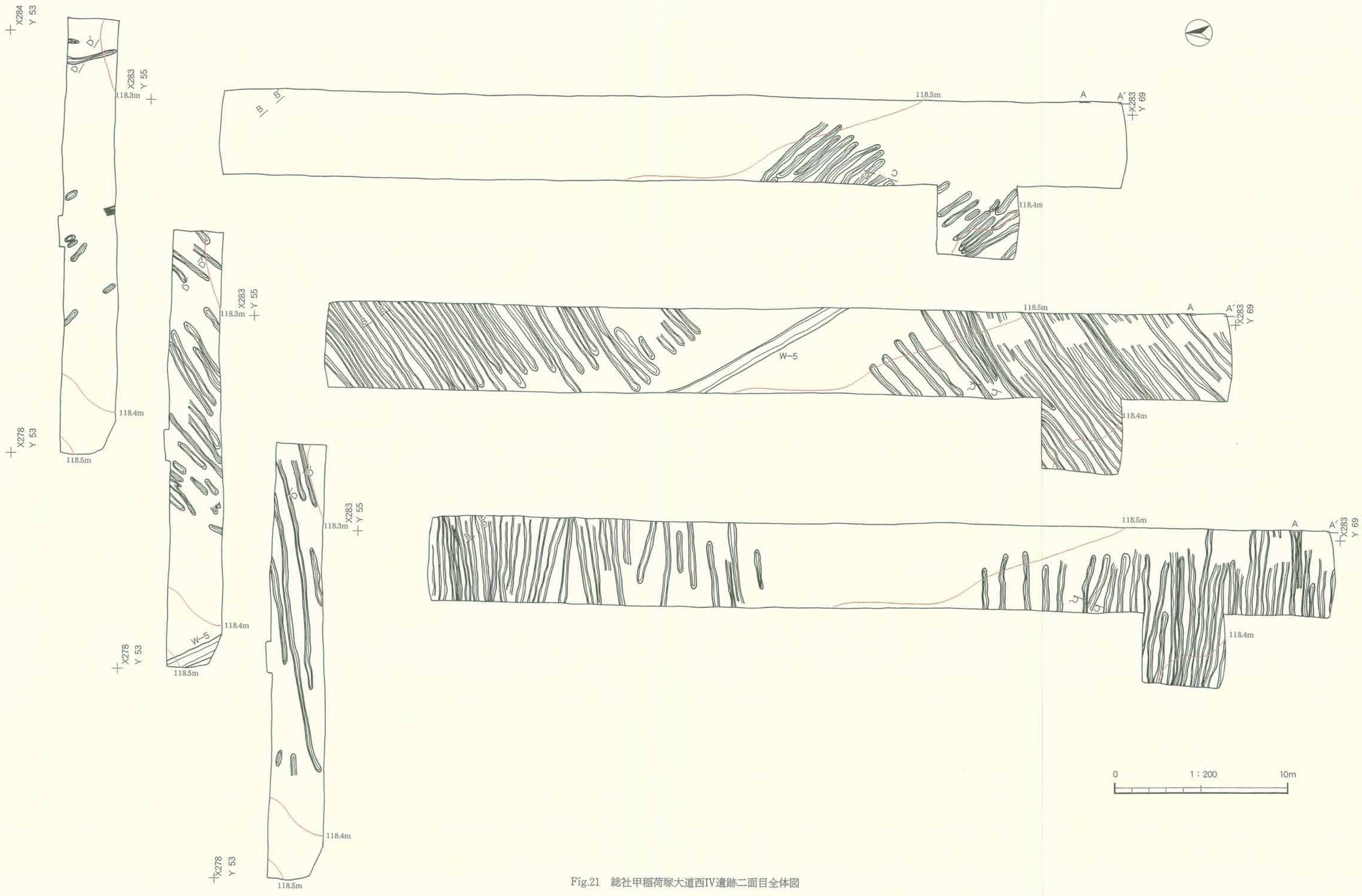


Fig.21　総社甲稲荷塚大道西IV遺跡二面目全体図

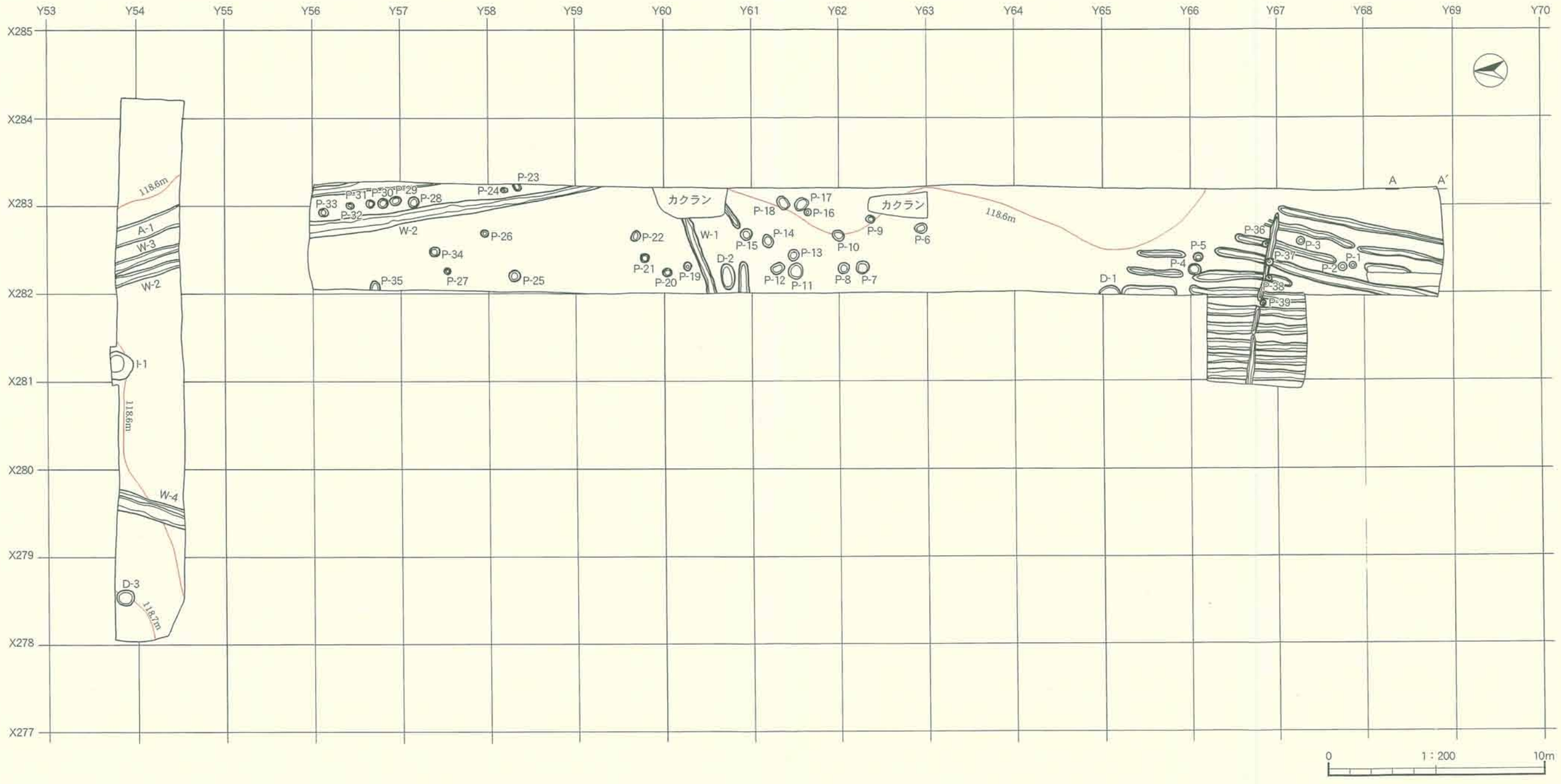
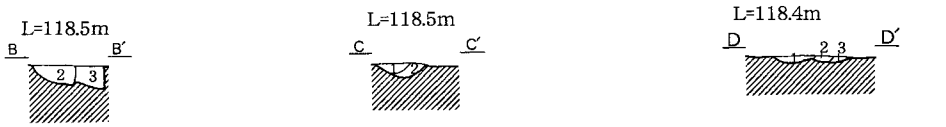
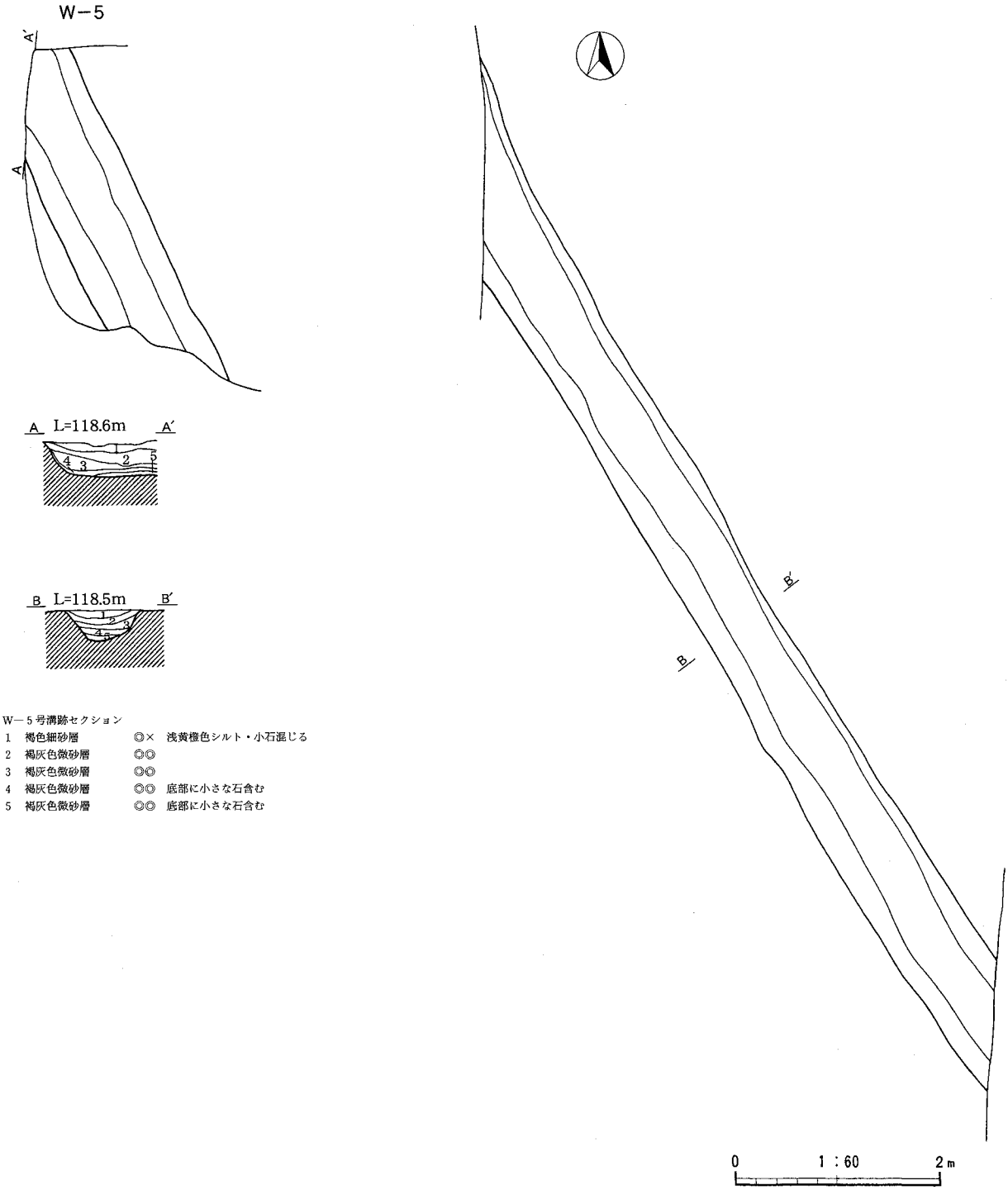


Fig.22　総社甲稲荷塚大道西IV遺跡一面目全体図



畠跡セクション

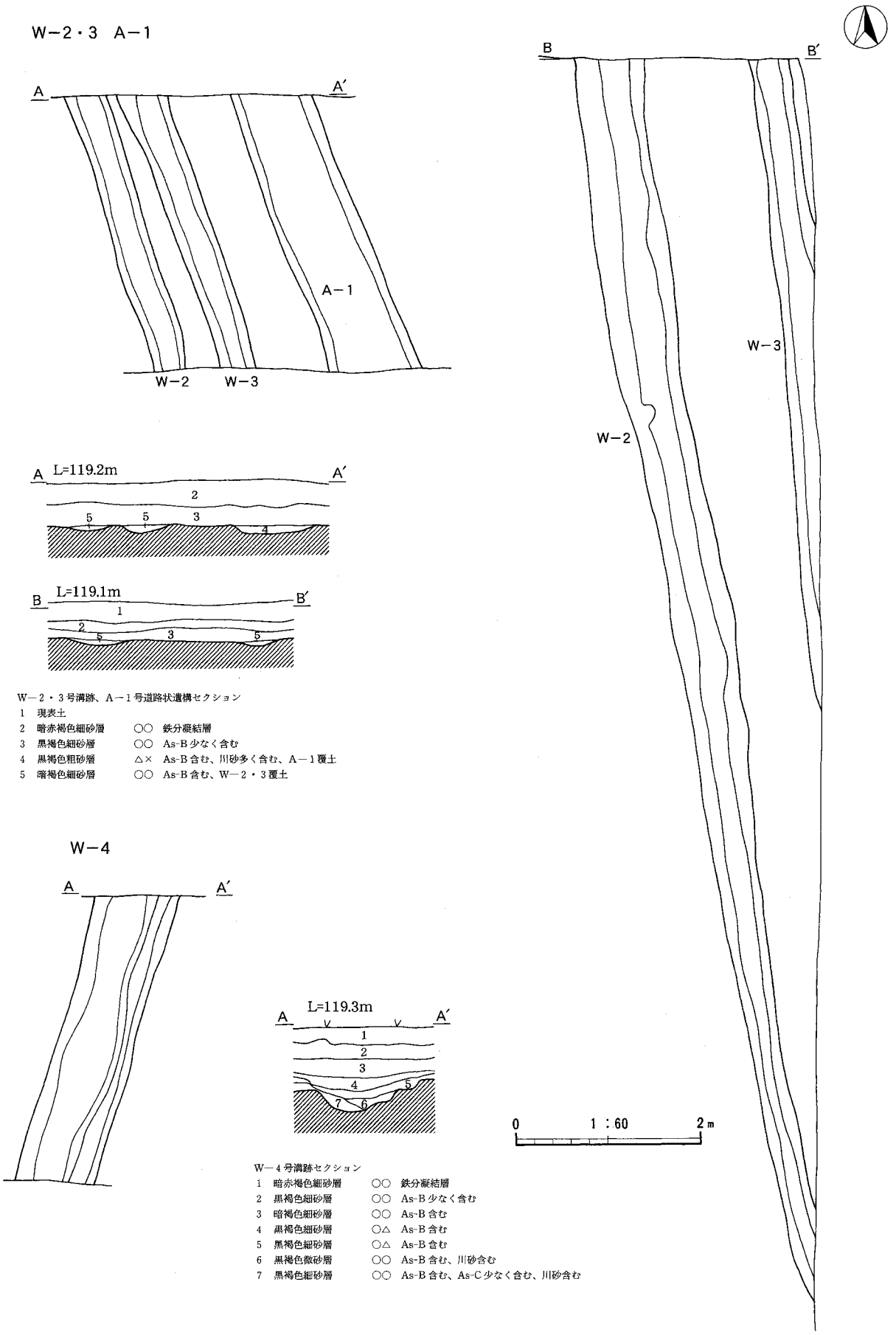
1	にぶい黄褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FA・Hr-FP わずかに含む
2	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FA・Hr-FP 少なく含む
3	暗褐色細砂層	○○	As-C・Hr-FA・Hr-FP 少なく含む、Hr-FA の灰ブロック含む



W−5号溝跡セクション

1	褐色細砂層	◎×	浅黄橙色シルト・小石混じる
2	褐灰色微砂層	◎◎	
3	褐灰色微砂層	◎◎	
4	褐灰色微砂層	◎◎	底部に小さな石含む
5	褐灰色微砂層	◎◎	底部に小さな石含む

Fig.23　総社甲稲荷塚大道西IV遺跡／二面目畠跡、W−5号溝跡



W−2・3号溝跡、A−1号道路状遺構セクション

1	現表土		
2	暗赤褐色細砂層	○○	鉄分凝結層
3	黒褐色細砂層	○○	As-B少なく含む
4	黒褐色粗砂層	△×	As-B含む、川砂多く含む、A−1覆土
5	暗褐色細砂層	○○	As-B含む、W−2・3覆土

W−4号溝跡セクション

1	暗赤褐色細砂層	○○	鉄分凝結層
2	黒褐色細砂層	○○	As-B少なく含む
3	暗褐色細砂層	○○	As-B含む
4	黒褐色細砂層	○△	As-B含む
5	黒褐色細砂層	○△	As-B含む
6	黒褐色微砂層	○○	As-B含む、川砂含む
7	黒褐色細砂層	○○	As-B含む、As-C少なく含む、川砂含む

Fig.24　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／W−2～4号溝跡、A−1号道路状遺構

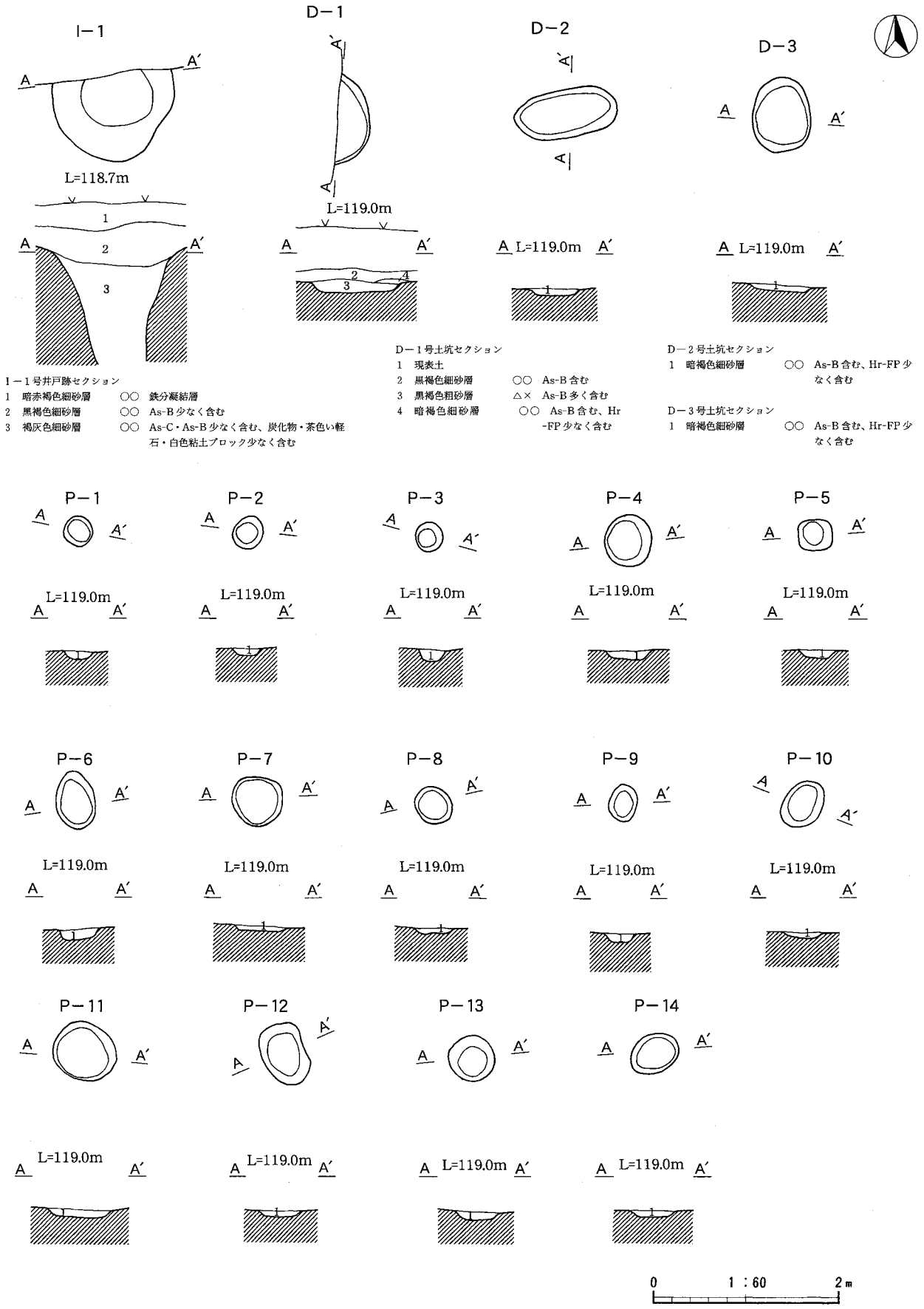
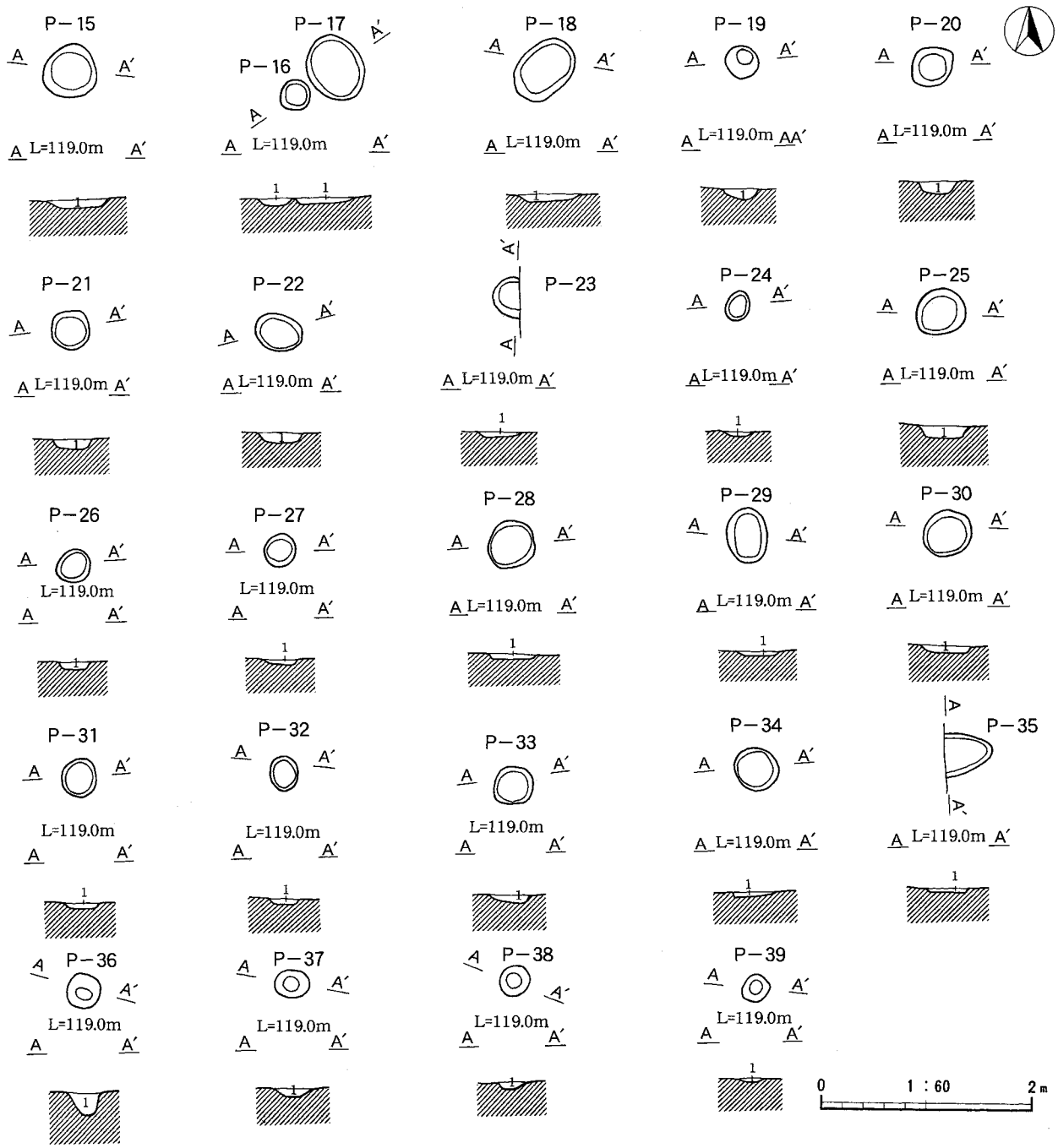


Fig.25 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡／Ⅰ－1号井戸跡、D－1～3号土坑、P－1～14号ピット



P－1号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－2号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－3号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－4号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－5号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－6号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－7号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－8号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－9号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－10号柱穴セクション
1　褐色細砂層　○△　As-B含む
P－11号柱穴セクション
1　褐色細砂層　○△　As-B含む
P－12号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－13号柱穴セクション
1　褐色細砂層　○△　As-B含む
P－14号柱穴セクション
1　褐色細砂層　○△　As-B含む
P－15号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－16号柱穴セクション
1　褐色細砂層　○△　As-B含む
P－17号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－18号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－19号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－20号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B少なく含む
P－21号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－22号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－23号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－24号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－25号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－26号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B少なく含む
P－27号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－28号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－29号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む
P－30号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む、As-C少なく含む
P－31号柱穴セクション
1　褐色細砂層　○△　As-B含む、As-C少なく含む
P－32号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む、As-C少なく含む
P－33号柱穴セクション
1　黒褐色細砂層　○△
P－34号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-B含む、As-C少なく含む
P－35号柱穴セクション
1　暗褐色細砂層　○△　As-C少なく含む
P－36号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－37号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－38号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む
P－39号柱穴セクション
1　にぶい黄褐色細砂層　○△　As-B含む、Hr-FP少なく含む

Fig.26　総社甲稲荷塚大道西IV遺跡／P－15～39号ピット

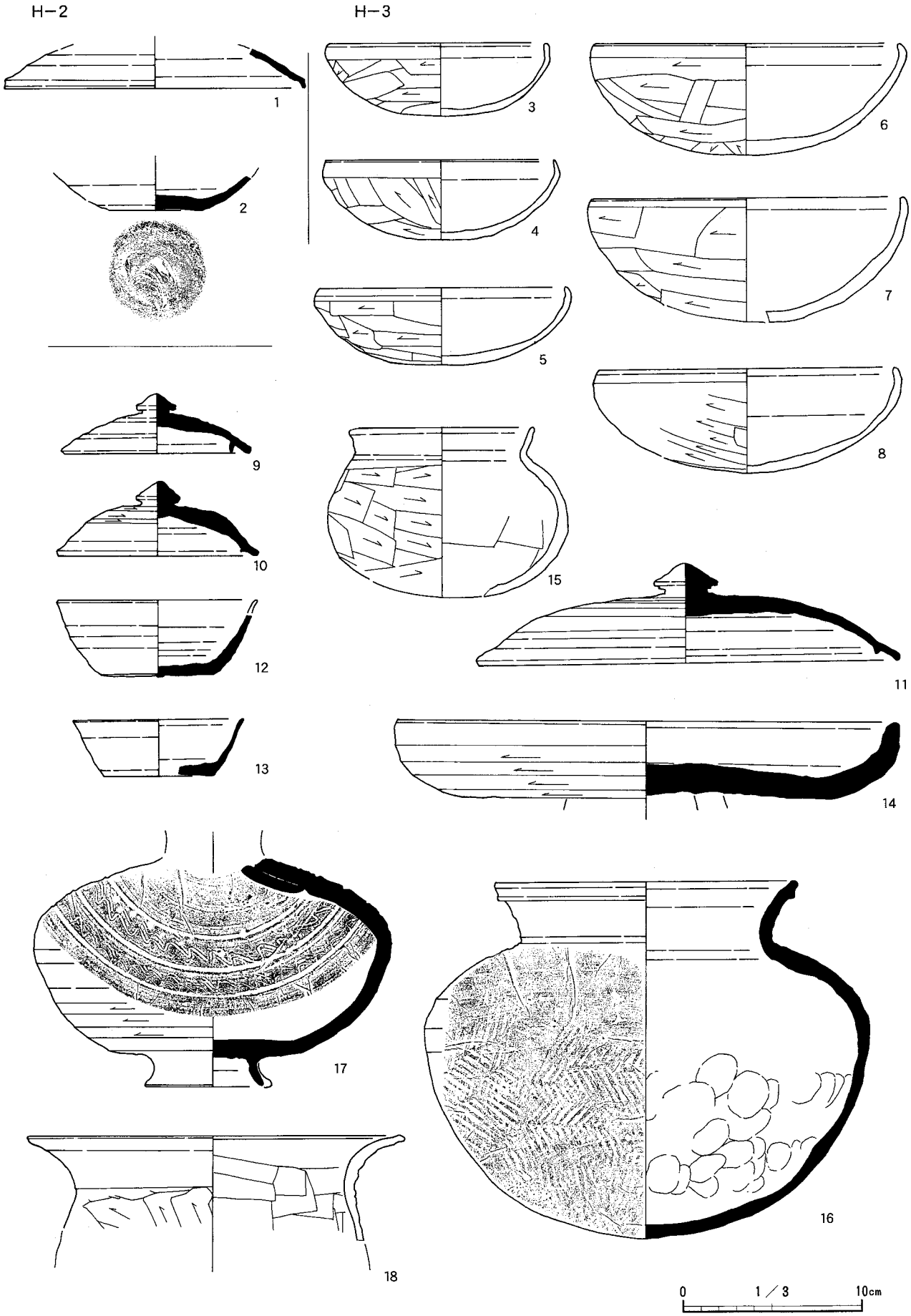


Fig.27　元総社小見内Ⅷ遺跡／H−2・3号住居跡出土の遺物

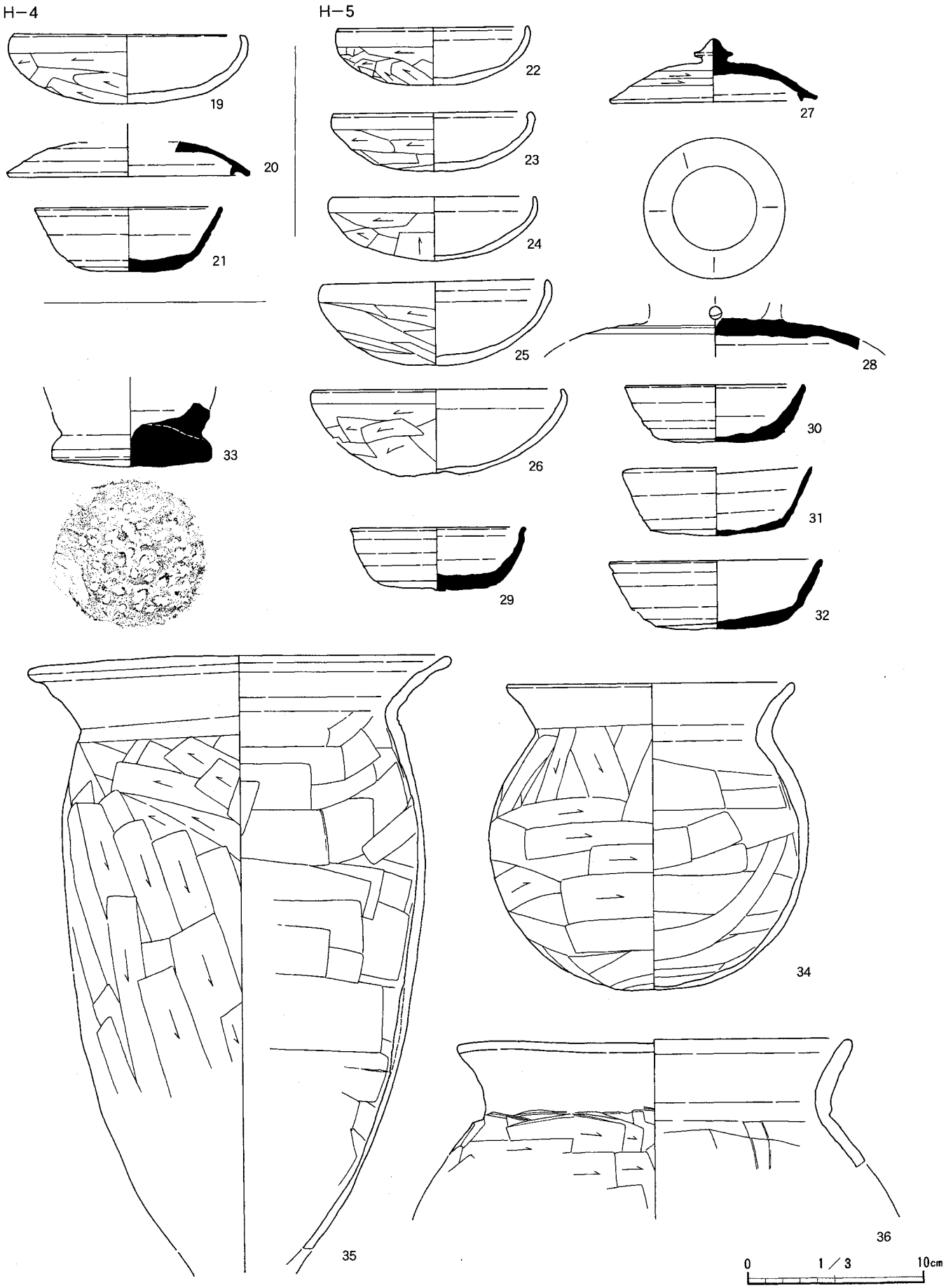


Fig.28　元総社小見内Ⅷ遺跡／H－4・5号住居跡出土の遺物

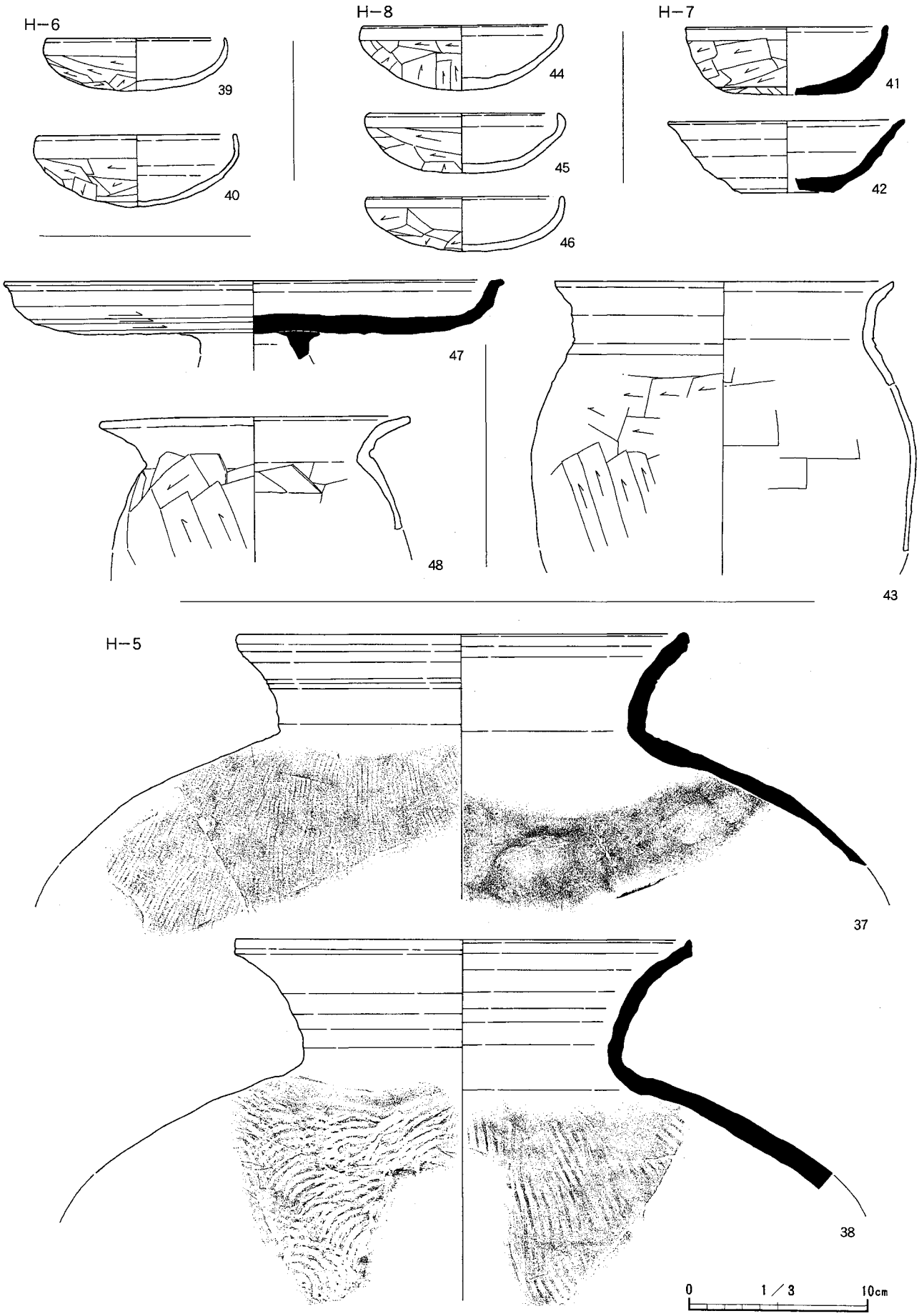


Fig.29　元総社小見内Ⅷ遺跡／H－3～5号住居跡出土の遺物

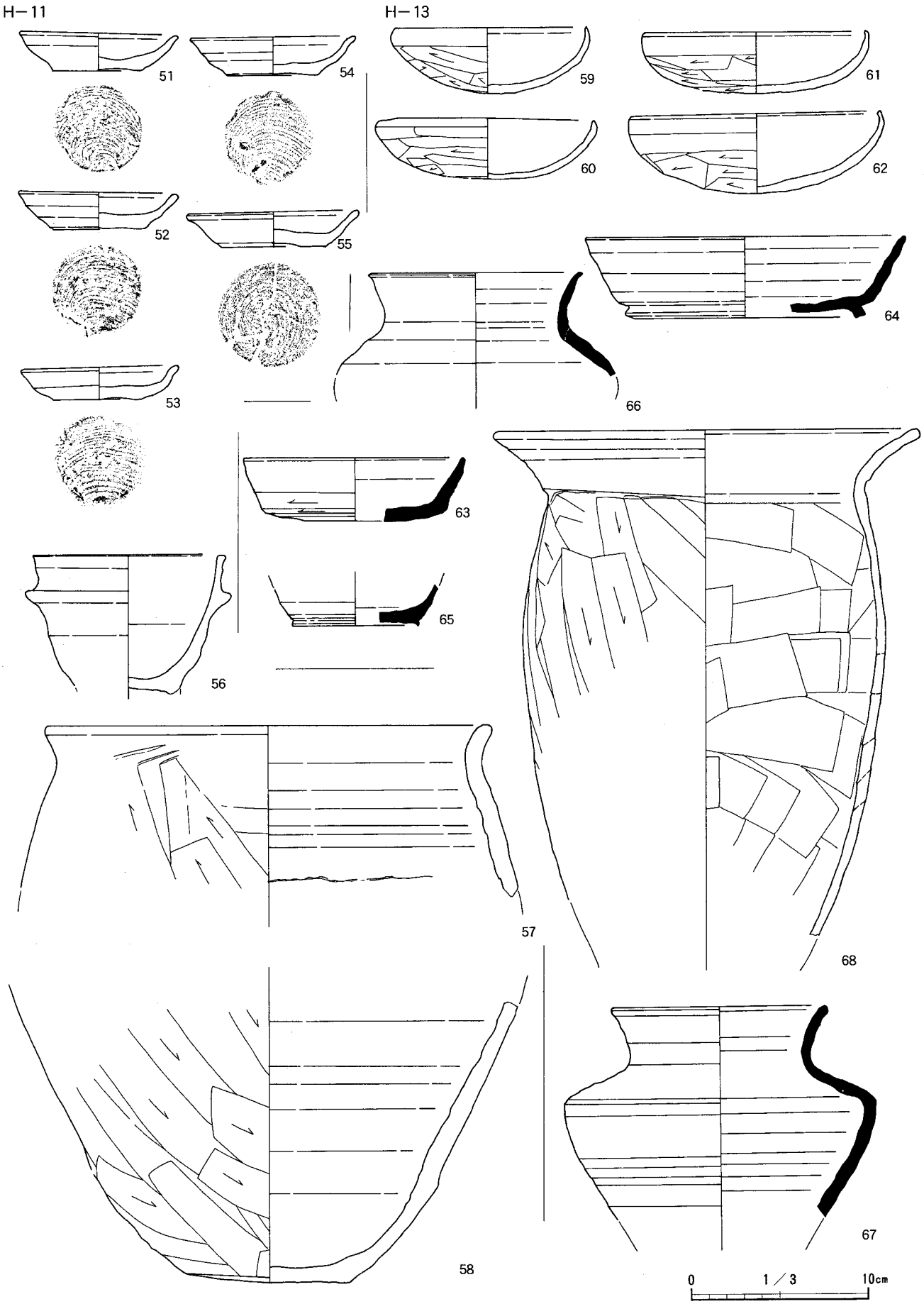


Fig.30　元総社小見内Ⅷ遺跡／H－11・13号住居跡出土の遺物

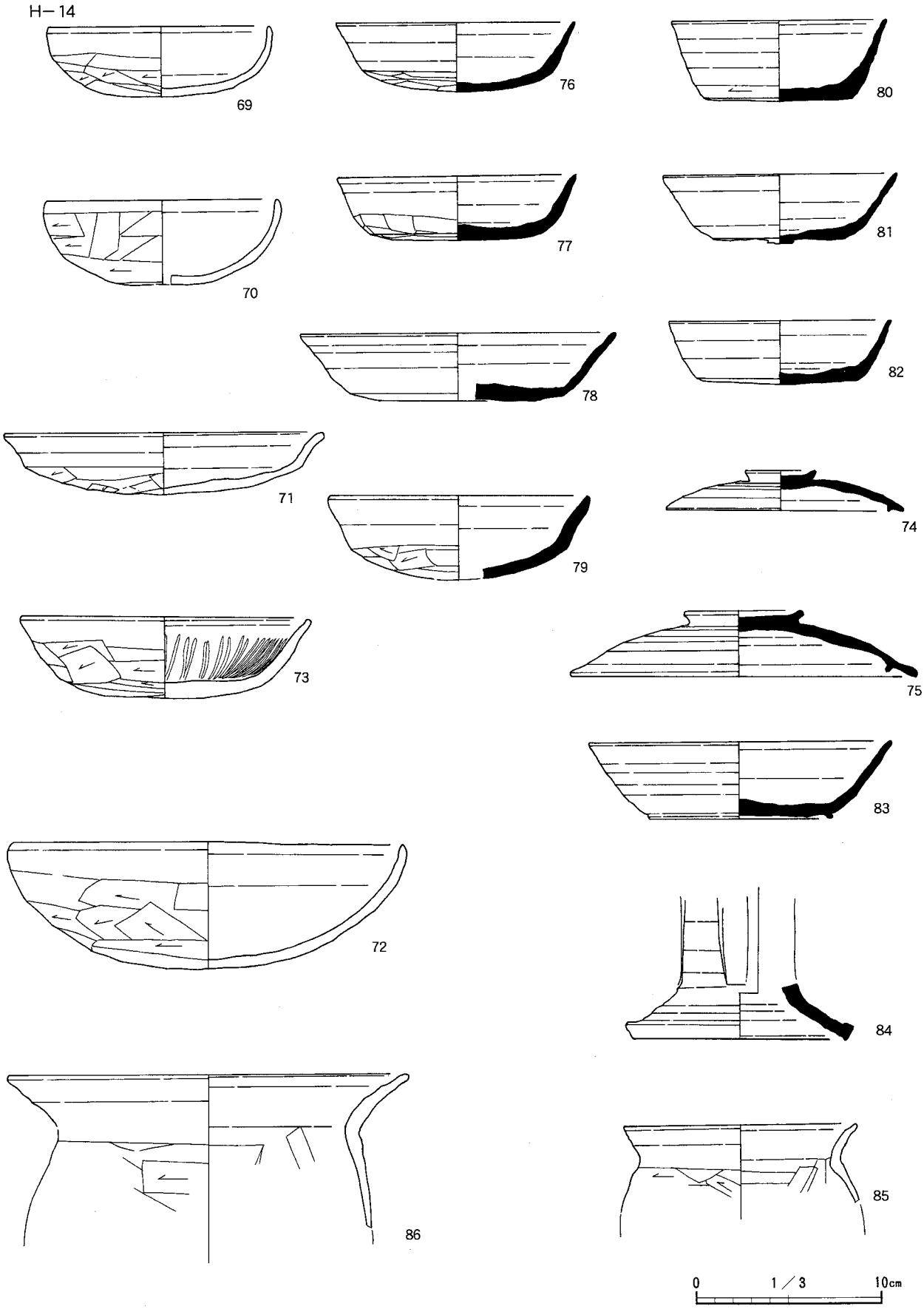


Fig.31　元総社小見内Ⅷ遺跡／H—14号住居跡出土の遺物

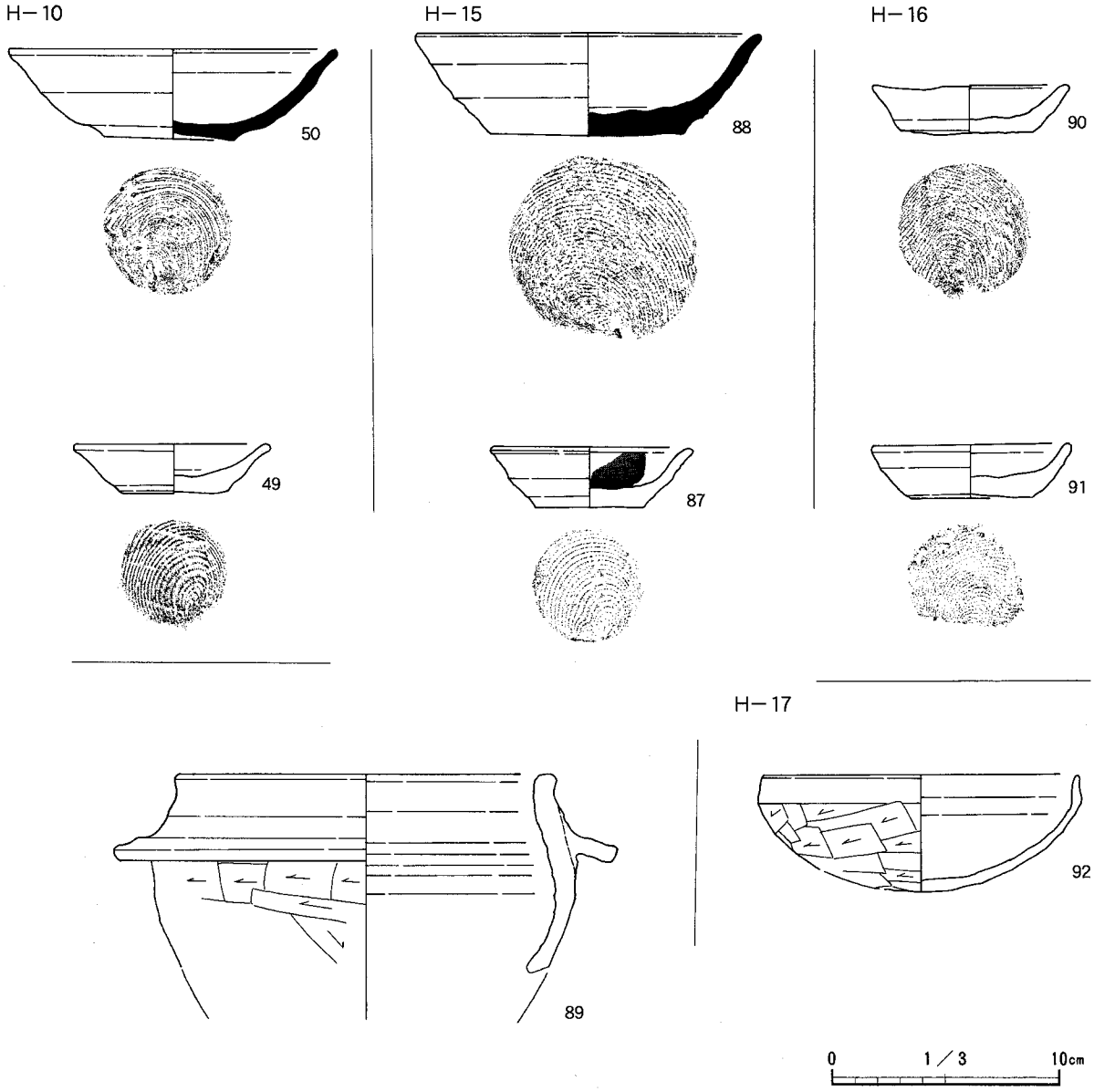


Fig.32　元総社小見内Ⅷ遺跡／H－10・15～17号住居跡出土の遺物

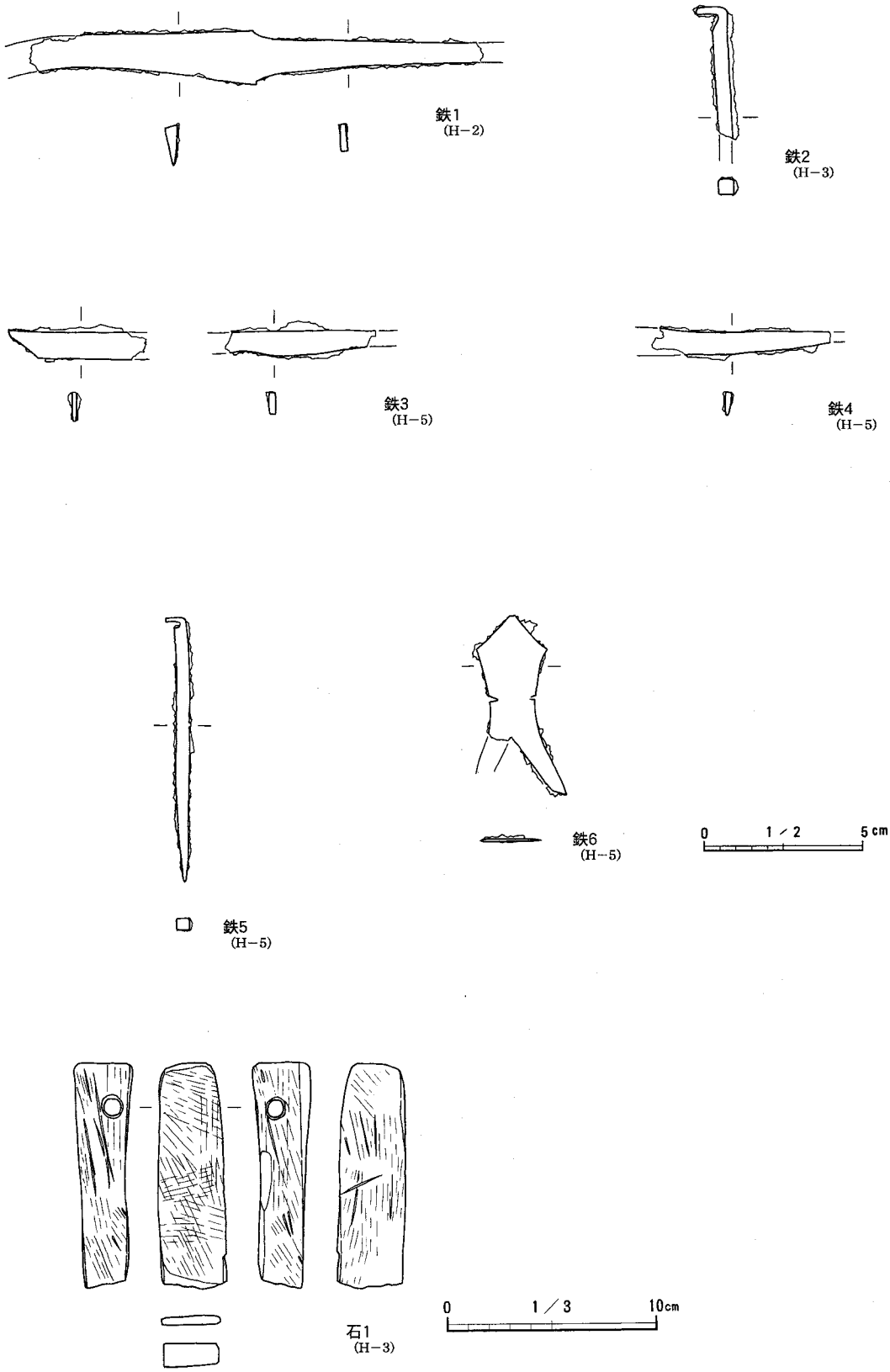


Fig.33　元総社小見内Ⅷ遺跡／鉄器・鉄製品・石製品

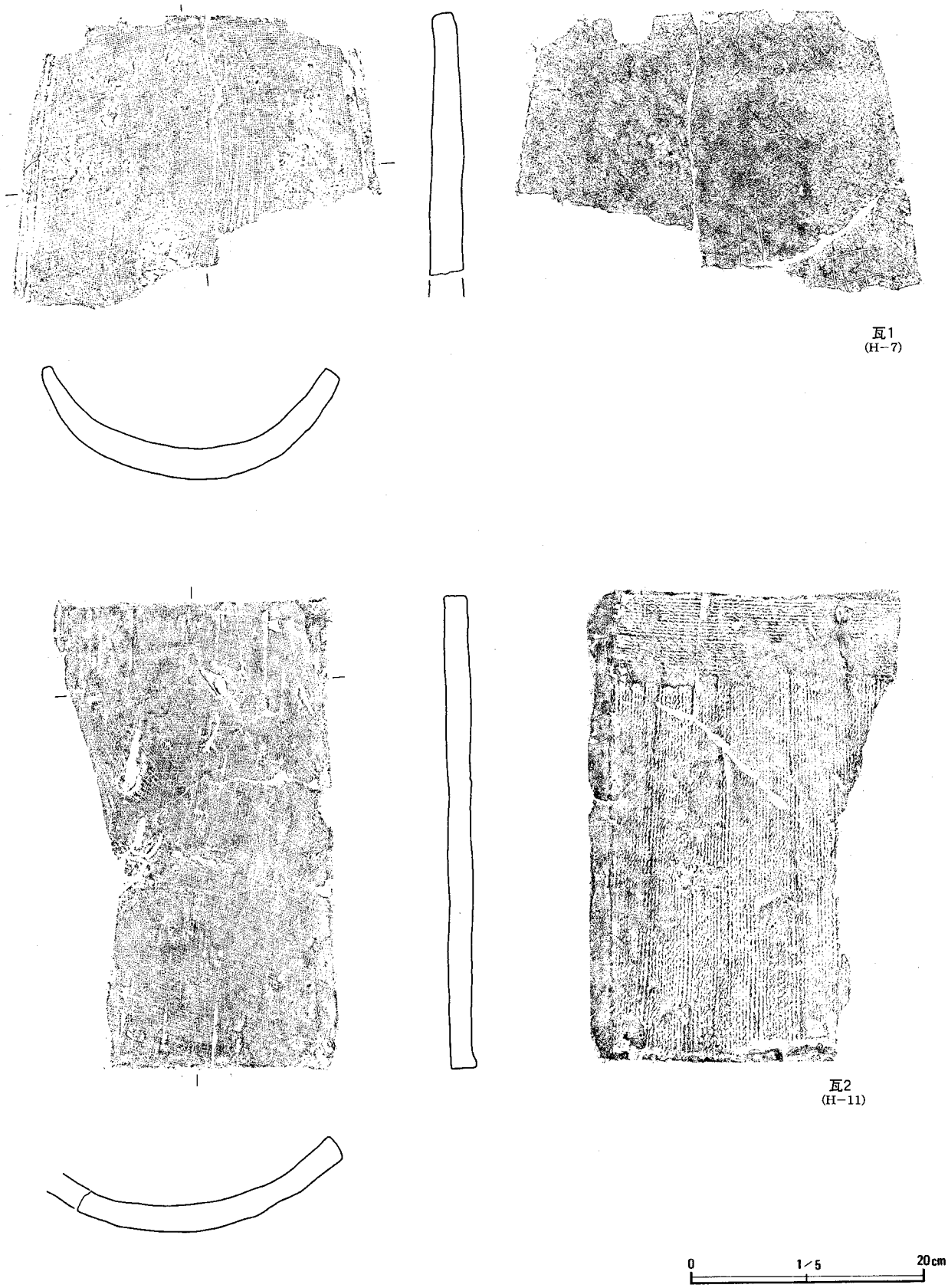


Fig.34　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(1)

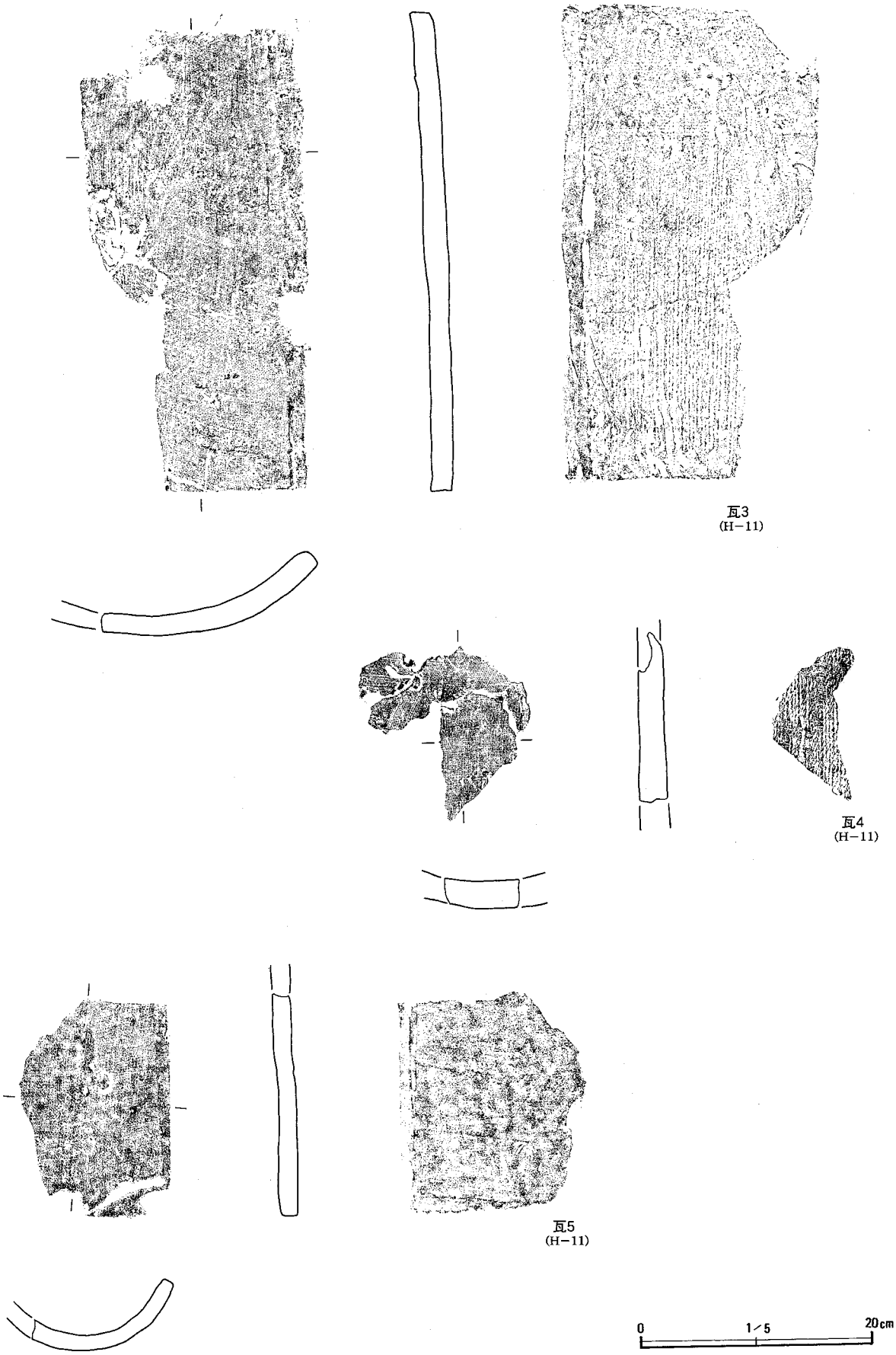
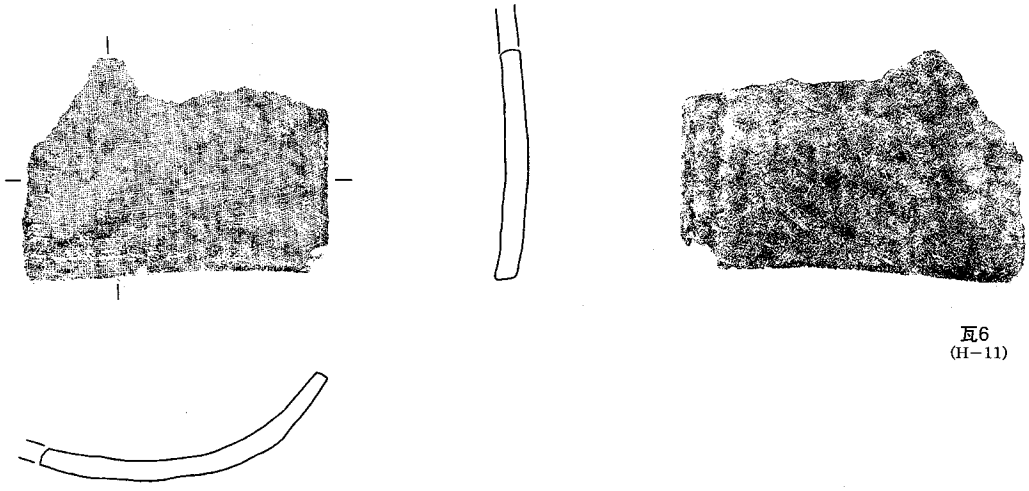


Fig.35　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(2)



瓦6
(H−11)

瓦7
(H−11)

0　1/5　20cm

Fig.36　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(3)

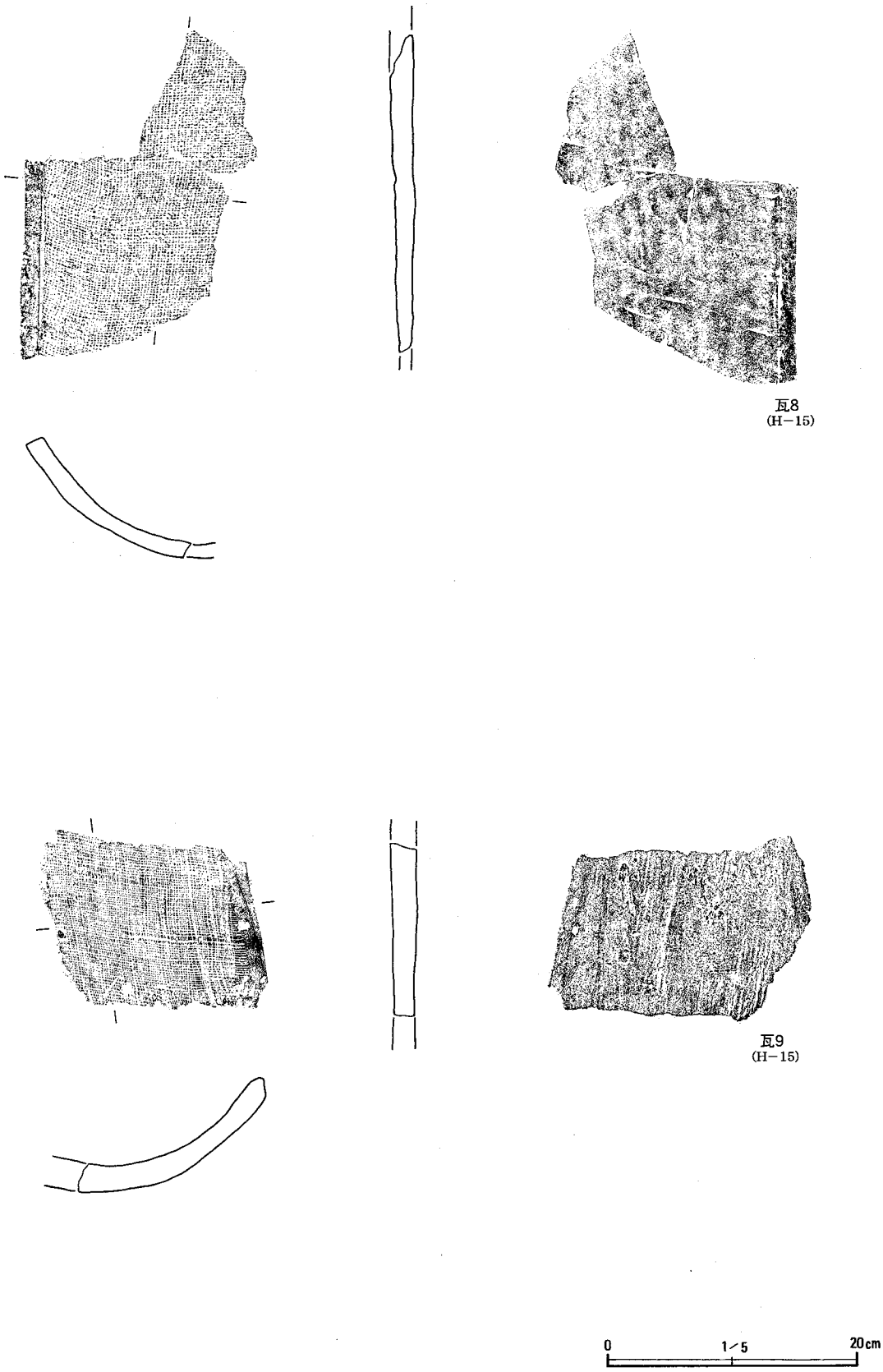


Fig.37　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(4)

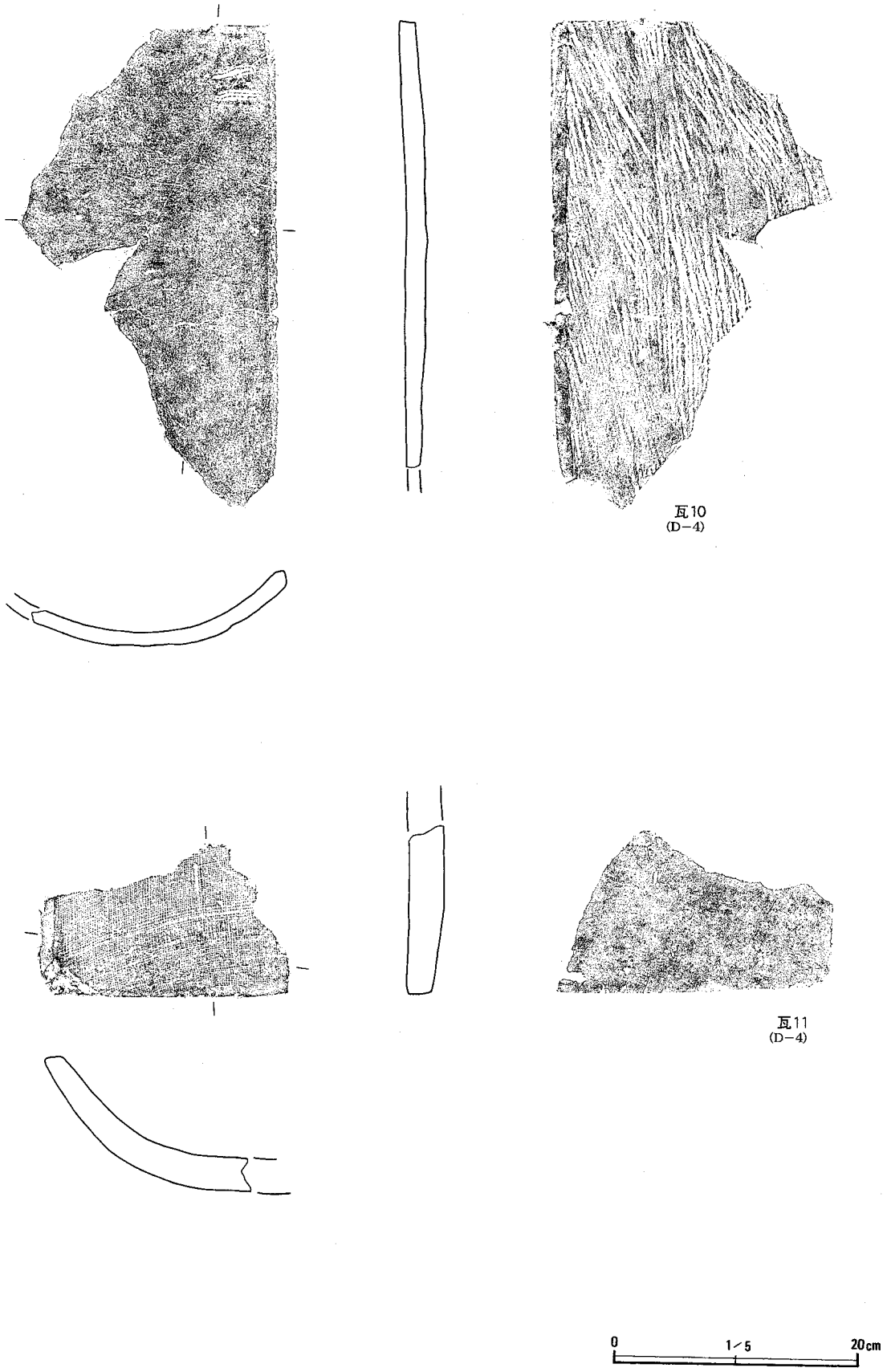
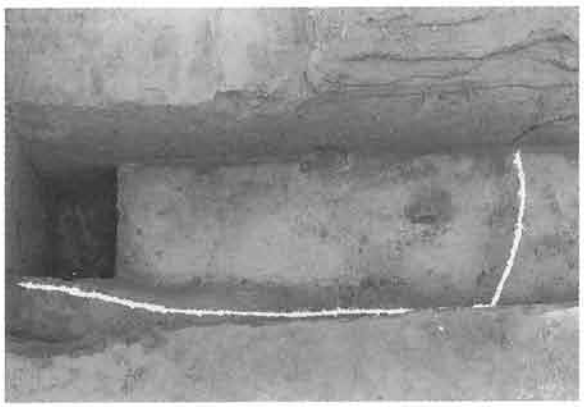
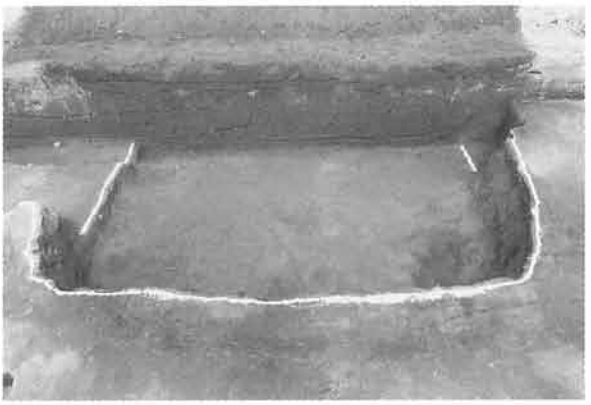


Fig.38　元総社小見内Ⅷ遺跡／瓦(5)

A区全景



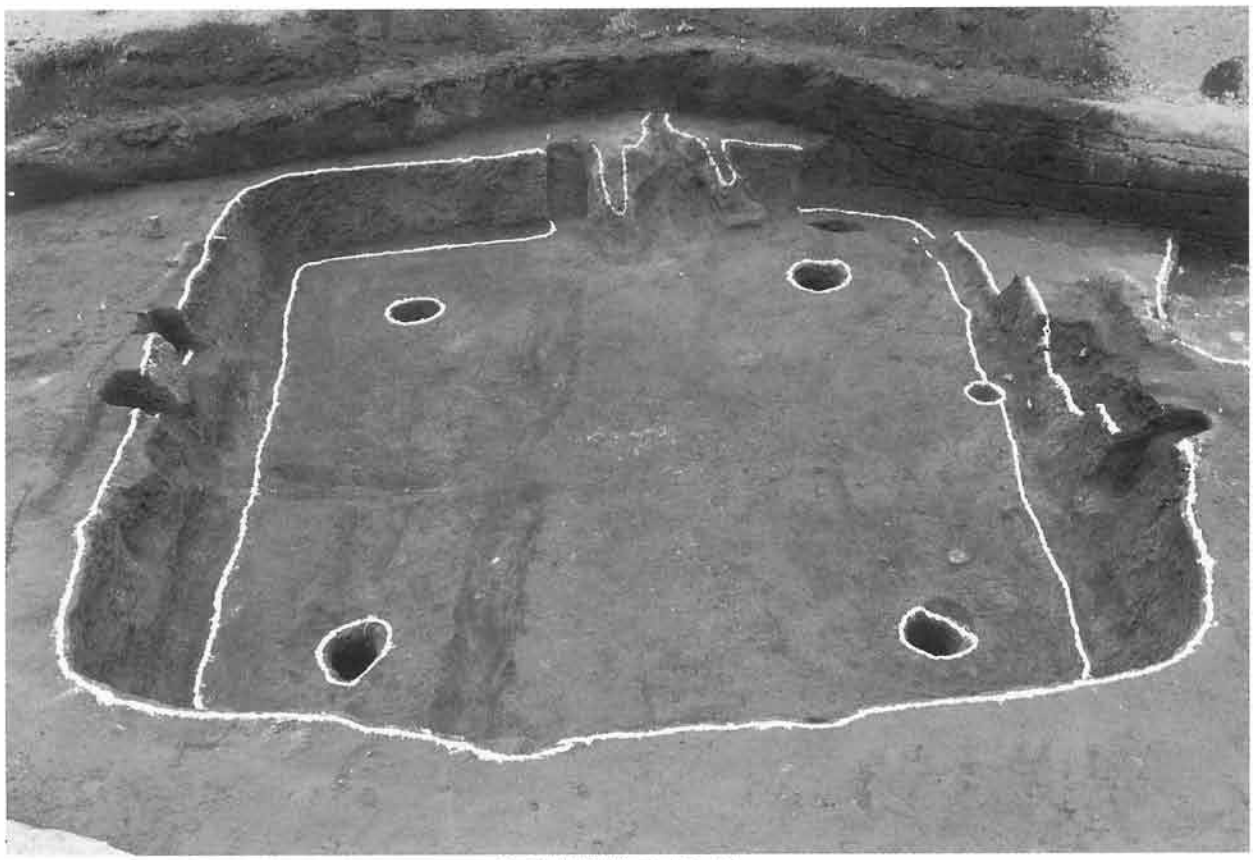
H-1号住居跡全景（西から）



H-4号住居跡全景（西から）

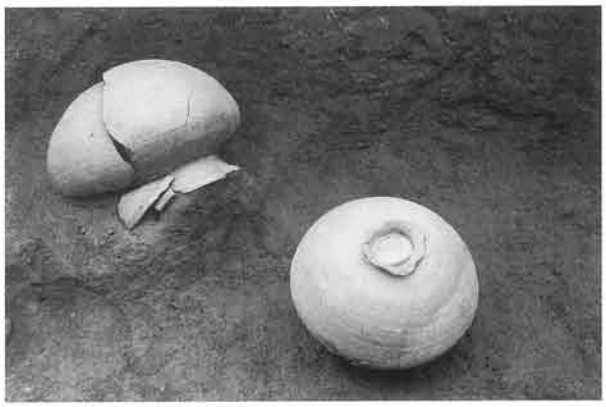
H-2号住居跡全景（西から）

H-2号住居跡遺物出土状況（東から）



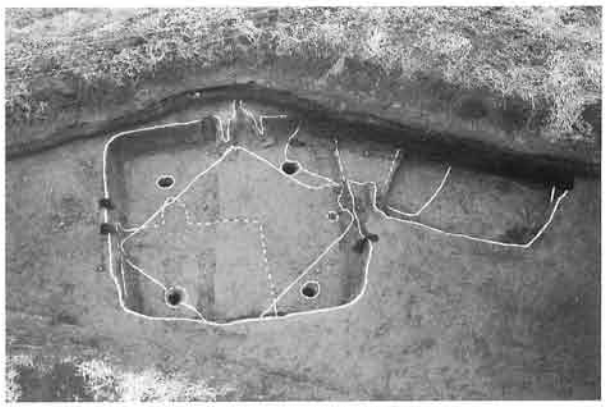
H-３号住居跡全景（西から）

H-３号住居跡竈全景（西から）



H-３号住居跡遺物出土状況①（西から）

H-３号住居跡遺物出土状況②（西から）



A区中央部住居跡重複状況（西から）

H-5号住居跡遺物出土状況①（北から）

H-5号住居跡遺物出土状況②（西から）

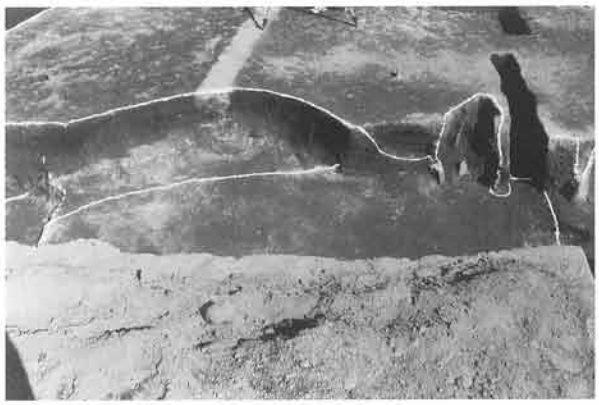
H-5号住居跡全景（西から）

H-5号住居跡竈全景（西から）

H-5号住居跡竈復元状況（西から）

H-10号住居跡全景（西から）

H-10号住居跡竈全景（西から）



H-11号住居跡全景（西から）

H-11号住居跡竈全景（西から）

H-11号住居跡竈内遺物出土状況（西から）

H-11号住居跡遺物出土状況（西から）

H-13号住居跡全景（西から）

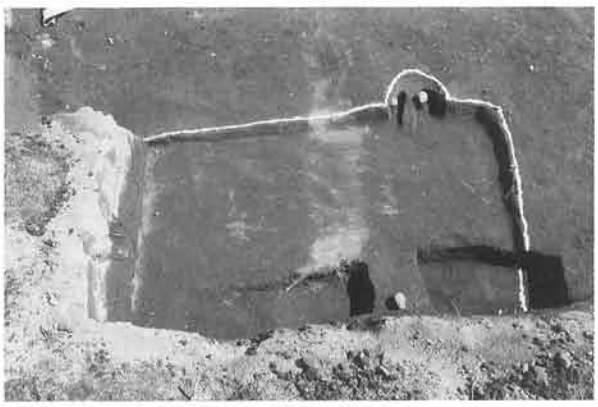
H-13号住居跡竈全景（西から）

H-14号住居跡全景（西から）

H-14号住居跡竈全景（西から）

H-14号住居跡遺物出土状況（西から）

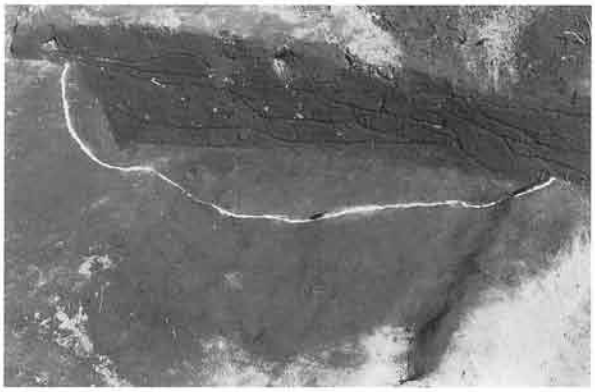
H-14号住居跡堀り方（西から）


H-15号住居跡全景（西から）

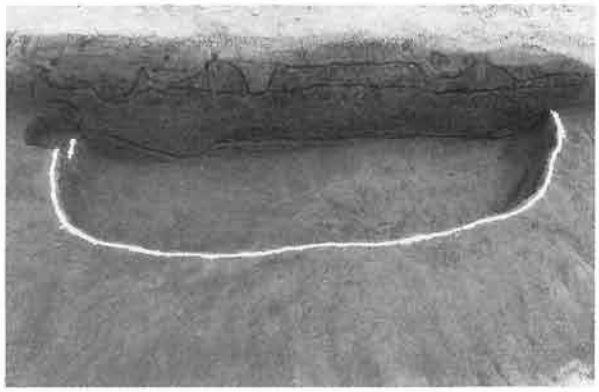
H-15号住居跡竈全景（西から）

H-16号住居跡全景（北から）

H-16号住居跡遺物出土状況（北から）



H-17号住居跡全景（西から）



T-1号竪穴状遺構全景（西から）

W-1号溝跡全景（南から）

W-1号溝跡セクション（南から）

W-1号溝跡全景（北から）

W-2・3号溝跡全景（北から）

W-2・3号溝跡南側セクション（東から）

W-2・3号溝跡北側セクション（東から）

二面目調査区北側全景（西から）

二面目調査区南側全景（南から）

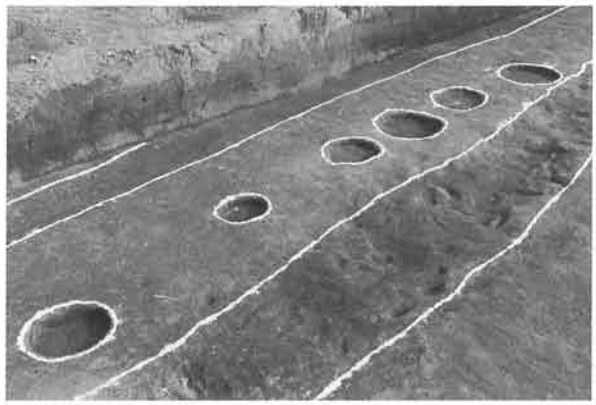
二面目畠跡①（東から）

二面目畠跡②（北から）

二面目畠跡③（南から）

W-5号溝跡全景（東から）

一面目畠跡（北から）

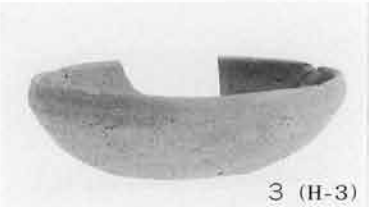


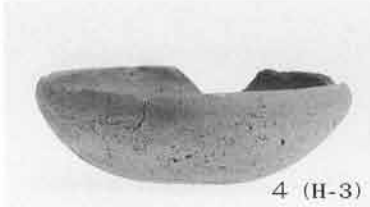
W-2・3号溝跡（西から）

W-2・3号溝跡、A-1号道路状遺構（東から）

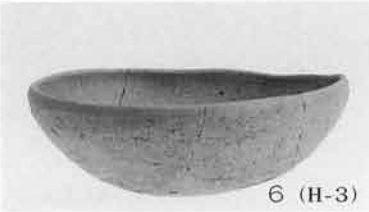
調査を終えて

元総社小見内Ⅷ遺跡

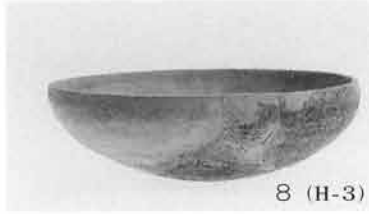

3 (H-3)


4 (H-3)

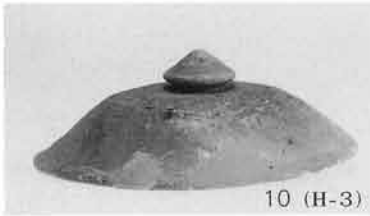
5 (H-3)

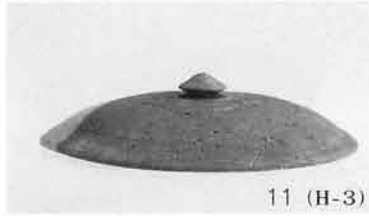

6 (H-3)

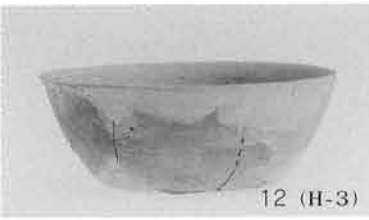
7 (H-3)

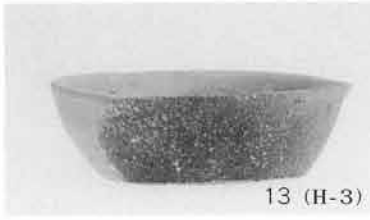

8 (H-3)

9 (H-3)


10 (H-3)


11 (H-3)


12 (H-3)

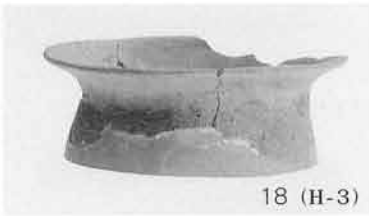

13 (H-3)

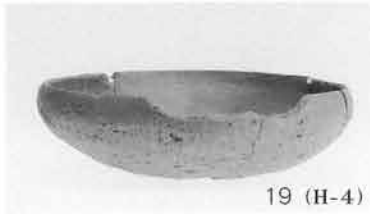
14 (H-3)

15 (H-3)

16 (H-3)

17 (H-3)


18 (H-3)


19 (H-4)

21 (H-4)

PL.10

22 (H-5)

23 (H-5)

24 (H-5)

25 (H-5)

26 (H-5)

27 (H-5)

29 (H-5)

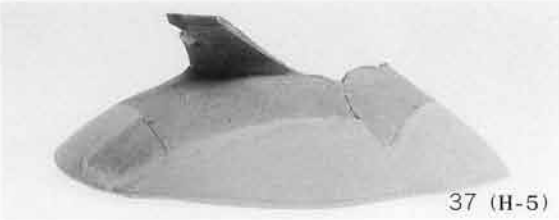
30 (H-5)

33 (H-5)

32 (H-5)

31 (H-5)

33 (H-5)


37 (H-5)

38 (H-5)

35 (H-5)

34 (H-5)

36 (H-5)

39 (H-6)

40 (H-6)

41 (H-7)

42 (H-7)

43 (H-7)

44 (H-8)

45 (H-8)

46 (H-8)

50 (H-10)

51 (H-10)

49 (H-8)

52 (H-11)

53 (H-11)

54 (H-11)

55 (H-11)

57 (H-11)

56 (H-11)

60 (H-13)

61 (H-13)

62 (H-13)

63 (H-13)

PL.12

64 (H-13)

65 (H-13)

66 (H-13)

67 (H-13)

69 (H-13)

70 (H-14)

71 (H-14)

85 (H-14)

72 (H-14)

73 (H-14)

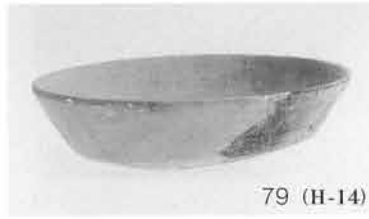
74 (H-14)

75 (H-14)

76 (H-14)

77 (H-14)

78 (H-14)


79 (H-14)

84 (H-14)

86 (H-14)

87 (H-14)

88 (H-15)

89 (H-15)

90 (H-15)

91 (H-16)

92 (H-16)

93 (H-17)

鉄1 (H-2)

鉄2 (H-3)

鉄3 (H-5)

鉄4 (H-5)

鉄5 (H-5)

鉄6 (H-5)

鉄器・鉄製品

瓦1 (H-7)

瓦2 (H-11)

瓦3 (H-11)

瓦4 (H-11)

瓦5 (H-11)

瓦6 (H-11)

瓦7 (H-11)

瓦8 (H-15)

瓦9 (H-15)

瓦10 (D-4)

瓦11 (D-4)

瓦

抄　　録

フリガナ	モトソウジャオウミイセキグン　モトソウジャオミウチハチイセキ　ソウジャコウトウカヅカオオミチニシヨンイセキ
書名	元総社蒼海遺跡群　元総社小見内Ⅷ遺跡　総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	近藤雅順　・　稲垣慎太郎
編集機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
編集機関所在地	〒371—0018　群馬県前橋市三俣町二丁目10—2
発行年月日	西暦2004年3月18日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
モトソウジャオミウチハチイセキ 元総社小見内Ⅷ遺跡	マエバシシモトソウジャマチ 前橋市元総社町	10201	15A120	36°23′31″	139°01′53″	20030519 ～ 20031114	809m²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
ソウジャコウトウカヅカオオミチニシヨンイセキ 総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	マエバシシソウジャマチ 前橋市総社町	10201	15A105	36°23′41″	139°02′15″	20031001 ～ 20031107	490m²	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社小見内Ⅷ遺跡	集落跡	奈良・平安	竪穴住居跡14軒　他	土師器、須恵器、かわらけ、鉄器・鉄製品、石製品、瓦　等	なし
		中世以降	竪穴状遺構1軒、溝跡5条　他		
総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	畠跡	古墳時代	畠跡、溝跡　他	なし	なし
		中世以降	畠跡、溝跡、井戸跡　他	なし	

元総社蒼海遺跡群

元総社小見内Ⅷ遺跡
総社甲稲荷塚大道西Ⅳ遺跡

2004年3月11日　印　刷
2004年3月18日　発　行

編集発行　前橋市埋蔵文化財発掘調査団
前橋市三俣町二丁目10—2
TEL　027—231—9531
印刷所　朝日印刷工業株式会社